

【ドイツ産】SSSレート  
喰種だけど質問ある？  
【パツキン巨乳】

ちゅーに菌

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

喰種のことを何でも教えてくれる不思議なスレ主。あなたとピエロ系人外嫁の日常付き。

く支援絵置き場く

○のような赤子 様のヴァイルヘルミナさん

○のような赤子 様のアシラちゃん

○のような赤子 様のメンゲレちゃん

# 目次

【ドイツ産】SSSレート喰種だけど質問 ある？【パツキン巨乳】	1
【来たれ】SSSレート喰種だけど質問あ る？【人間】	45
【生きた喰種は】SSSレート喰種だけど 質問ある？【よく燃える】	95
胡乱な娘	136
いつかの24区	148
【赤ちゃんは】SSSレート喰種だけど質 問ある？【どこから来るの？】	166
お姉さんっぽいのとデート 前	205
お姉さんっぽいのとデート 後	218
【バキのピークは】SSSレート喰種だけ ど質問ある？【スペック戦】	247
鳥刺し	299
【増量】SSSレート喰種だけど質問ある ？【キャンペーン】	337
メンゲレちゃん	387
ジャック	415
シムナ	440
【助けて】SSSレート喰種だけど質問あ る？【娘に殺される】	456

【ドイツ産】SSSレート喰種だけど質問ある？【パツキン巨乳】

1： 東京喰種

この私がなんでも答えてやろう人間ども

2： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
またこの手の釣りスレかあ……

3： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
釣り乙

4： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>2 >>>3

釣られてんだよなあ……

5： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>4

オマエモナー

6： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ち、ちがう、これはただのパツキン巨乳じゃ……

7： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
しかし、ネットの喰種話の9割はデマだと言われているからな

8： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
時間停止モノAVみたいだな

9： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

1 割は実在するのか……

10： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>1

じゃあ、まず年齢を教えてくださいかな？

11： 東京喰種

124歳、喰種です

12： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

喰種？ あっ……（察し）

13： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

すまん、釣られてなんだが喰種って具体的にどんなものなんだ？ というか、読み方

くいしゅ であつてる？

14： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>13

グールだゾ。最近の都市伝説で人間を食べる妖怪とか、吸血鬼の一種。見たことないし、眉唾物。

15： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

♂ 野獣先輩が実在するのに、喰種が実在しないわけないんだよなあ……†悔い改めて†  
喰種は大都市に多い危険生物だゾ

16： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>14

喰種対策局があるんだから実在はしているに決まっただろ。ド田舎なのか知らんが、東京とか都会に住んできると人間が喰われる猟奇事件をしょっちゅうニュースで聞くから、人型の害獣だとか。見た目については情報規制されてるからわからんけど人間に擬態するのかなんとか

17： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ヒエッ



18： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

都会ってヤバいところなんすねー……こわいなーとずまりすところ

19： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

あのコテは東京在住の喰種って意味か

20： 東京喰種

>>>19

そうだよ（便乗）

21： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

喰種も淫夢厨とはたまげたなあ……

22： 東京喰種

ただの喰種だゾ

23： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

T D Nは喰種だった……？

24： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

野 獣 先 輩 喰 種 説

25： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

(人間を) ヤリますねえ！

26： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

それよりパツキン巨乳は？

27： 東京喰種

>>>26

ほら

【画像】

28： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

キターー（。▽。）——！

29： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

イツチむちやくちや背高いっスね……人外美女ウレシイ……ウレシイ……

30： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

想像の100万倍ぐらい美女だった件について

31： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします

イツチ目怖っ！ この目はイツチが事件を推理するときの目だ！

32： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

確かにクレワ紛れもなくパツキン巨乳……でもなにその目、どうなってんの？ とい

うかこれどういう状況の写真？

33： 東京喰種

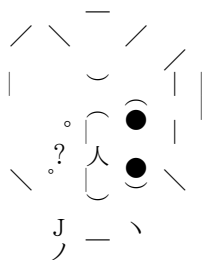
私が最近喫茶店でコーヒー飲んでる時に撮った写真だよ。目については1000年ほど前に赫眼から戻らなくなった

34： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
赫眼？

35： 東京喰種

赫眼とは喰種が赫子を使う際に眼球を赤く変化させた状態の呼称のことだよ

36： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
何言ってるんだこいつ





なんでコイツこんなに態度でかいんだ

41： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
キャラ作りでしょ（マジレス）

42： 東京喰種

そもそも喰種とは食性が人肉のみに限定された肉食の亜人種だ。その反社会的な食性から公的に駆逐対象とされており、専門の行政機関である喰種対策局（以下CCG）が設立されている。通常時は人間との外見的な差異が無く、極めて人間に近い外見をしている。しかし、身体能力は極めて高く、数mを跳躍する脚力や素手で人体を貫く膂力を有し、個体差はあるが成体ではヒトの4〜7倍の筋力があるとされる。感覚器官も非常に鋭く、遠方から近づく人物の体臭を嗅ぎ分けられ、雑踏の中から足音を聞き分けることもできる

ちなみに私は人間の100倍以上はあると自負しているぞ。えっへん

43： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

はえー……すごい練られた設定……

44： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

最後の文で雰囲気台無しなんだよなあ……

45： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳のイッチのえっへんに萌える

46： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ノンケになっちゃうヤバイヤバイ

47： 東京喰種

>>>46

(人外娘なら) いかんのか？

48： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ポンコツで人外で淫夢厨でスラングまみれのパツキン巨乳かあ……結婚してください

お願いします！

49： 東京喰種

ちなみに寿命は基本的には人間と差異はないが、私のような一部の特殊な喰種は写真の通り、若々しい肉体を保つことも出来るのだ

50： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ネタに走る割りにはスルースキル高いっスねイツチ……

51： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>1

美容の秘訣は？

52： 東京喰種

ともぐい♡

53： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ヒエツ……



54： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ええ……

55： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

可愛く言ったってダメなんだよなあ……

56： 東京喰種

言い忘れていたが、喰種はコーヒーだけは飲めるゾ

57： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なぜコーヒー？

58： 東京喰種

私を知るか。お前らが仕事終わりに心底旨そうな様子で冷えたビール飲んでるのがクツソ羨ましく思うんだぞ。同じ苦味の筈なのになぜなんだ

59： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なんかぶつちやけはじめて草

60： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
しゃぶつてよ、怒ってんの？

61： 東京喰種  
そうか、TNP 噛み千切るぞ

62： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ヒエツ……

63： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ゆるして

64： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
女の子になっちゃう〜！

65： 東京喰種

さて、それでは喰種の特異能力について説明してやろう

66： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんでこのヒトこんなパツと切り替えられるの……

67： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

生きてるだけで面白い喰種なのかもしれない

68： 東京喰種

まず、喰種はRc細胞と呼ばれる細胞を持ちこれが特殊能力を与える。正式名称はRed Child細胞であり、その形状が身体を丸めた胎児に似ていることに由来するらしいが、まあそれはどうでもいいな。Rc細胞は人間の体内に微量ながら存在しており、喰種は人肉の摂取によってこれを赫包に蓄積する

69： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

設定考えるのに無茶苦茶時間掛かってそう

70： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そうか、からだの中にRc細胞がッ！

71： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

よくもこんなキチガイ細胞を！

72： 東京喰種

そして、喰種は赫包という特有器官を持つ。赫包は前述した体内のRc細胞を貯めこむ嚢胞だ。つまり喰種は人肉を摂ることで血中にRc細胞を蓄え、最終的にはこの赫包に蓄えられる。蓄えられた細胞は意識的、あるいは精神の昂ぶりによって皮膚を突き破り、放出される。これが赫子である。

73： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

赫子……？

74： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なるほどわからん（2回目）

75： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
イツチの黒歴史ノートが絶好調だあ……

76： 東京喰種

これまでの説明は全て赫子の為だからな。赫子こそ喰種を喰種足らしめるもの。R  
c細胞によつて構成され、硬化と軟化を繰り返しながら自在に動く捕食器官だ

【画像】

【画像】

【画像】

77： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
フアツ!?

78： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

イツチの背中から赤いのがスッゲー出てる！

79： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
無駄にカツコよくて草

80： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
手のブレードもしゅごい……

81： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
う、美しい……ハッ！

82： 東京喰種  
(どやあ)

83： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
一瞬、イツチ怖いかと思ったけど気のせいだったなあ……

84： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
うーん、この……

85： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
どうせ合成写真か特殊メイクだろ最近のはスゴいらしいな

86： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
カリスマブレイク

87： 東京喰種

個体によっては複数の赫包を持ち、喰種の持つ赫子の種類によって場所が異なる。羽  
赫は肩部周辺、甲赫は肩甲骨下部、鱗赫は腰部周辺、尾赫は尾骶骨付近にある

【画像】

88： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
はえー、肩部と肩甲骨下部から生えてるんすねえ

89： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なんだこの無駄に色っぽいなじ

90： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
最高の背中やなこれは！

91： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
イツチ現実でも喋らなきやイイ女なんだろうなあ……

92： 東京喰種

>>>91

屋上

93： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
意外とイツチ沸点低くて草ア！

94： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。



スルースキルはあるのにそこは怒るのか（困惑）

95： 東京喰種

赫子の具体的な形成サイクルは赫包から噴出されたRc細胞同士が結び付き合う形成期、結び付いた細胞が一定期間その状態を保つ定着期、時間経過によって細胞が離れていく崩壊期の3ステップの繰り返しだ。血液のように流れ、歯よりも頑丈な特性。CGからは”液状の筋肉”と例えられる

96： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ひよつとしてイツチ喰種捜査官だったりする？

97： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

喰種捜査官が喰種の成り済ましと情報漏洩までしてたら世も末だろ

98： 東京喰種

ぎやおー！ たーべちやうぞー！

99： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

こんなやつは喰種捜査官にはなれないだろ。あれなれるだけでもエリート中のエリートだからな

100： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

こ ン ナ ヤ ツ

101： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

大丈夫？ 結婚する？

102： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

結婚兄貴諦めませんね……

103： 東京喰種

まあ、赫子の基本的な知識についてはこんなところだ。ちなみに一般的な喰種は赫子を前述した四種のどれか一種類だけを持つが、私は羽赫と甲赫の二種持ちなのでちよつとレアだな

104： 東京喰種

さて、他に質問はないか？

105： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

スリーサイズは？

106： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

イツチの経歴が知りたいです

107： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

結婚してください

108： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

東京の何処住み？

109： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

好みのタイプは？

110： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
結婚兄貴まだおる……

111： 東京喰種

>>105

そんなことを聞くから彼女が出来ないんだ

112： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ヤメロオ！（建前） ヤメロオ！（本音）

113： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
無差別攻撃はやめロツテ！

114： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
うっ……（絶命）

115： 東京喰種

>>108

根城は24区だが、基本的には東京中を気ままに移動して過ごしている。もし私を見つけたらジューズを奢ってやろう

116： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

9本でいい

117： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

見事なブロント語だと関心はするがどこもおかしくはない

118： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ブロントにまで手を伸ばしているのか……（困惑）

119： 東京喰種

>>118

さんをつけろよデコ助野郎！

120： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>118

さんをつけろよデコ助野郎！

121： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>118

さんをつけろデコ助やろう！

122： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>118

さんをつけろよデコ助野郎！

123： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

一斉攻撃で草ア！

124: 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

自称喰種が一番最初に反応するのか……

125: 東京喰種

>>109

私はハートが強い人間が一番好きだゾ♡

だつてほら、心臓つて生物の中で最も働く筋組織の塊だから最高の赤身肉で旨いんだなこれが。だからお前らの心臓ちよーだい♡

126: 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ヒエツ……

127: 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

きゅんとした(悪寒)

128: 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

TNTNしなびた

129： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

時々、思い出したように化け物発言するの止めてくれませんかねえ……？

130： 東京喰種

>>>106

経歴は本気で書き出すと自伝が何冊か出来上がりそうだから、要点だけ箇条書きにするゾ

①100年と少し前にドイツの片田舎に生まれる（孤児）

②美味しいもの目当てに大人の喰種を殺して独断で人間狩りを始める（5歳）

③日本の喰種対策院の設立に伴いドイツにも喰種対策の手が入る（1890～1981年頃）

④現在の喰種捜査官（以下鳩）と呼ばれる者たちの祖と激闘し、幾度となく喰い殺した結果、SSレートに指定される

⑤第一次世界大戦勃発（1914年～）

⑥戦争に乗じて大規模な喰種狩りを敢行し、記録として現存する最古の赫者に至る

⑦ドイツ喰種対策局のSSSレートに指定される（世界初）



⑧ ナチ党の台頭（1933年〜）

⑨ ナチスの極秘軍事政策の一環で喰種部隊“ラストバタリオン最後の大隊”が設立し、ドイツ最強の喰種だった私が大隊長に就任。ちなみに勧誘を受けた理由は面白半分。

⑩ 戦果は全戦全勝だったが、物量の暴力には勝てず、元々ソリの合わない連中の寄せ集めだったため、食糧のユダヤ人供給が止まったことを期に仲間割れが相次ぎ部隊は自然分解。

⑪ 流石に焦土と化した故郷にはいる気が失せ、知り合いのSSの手引きで大隊の元部下数名と共に中国へ亡命

⑫ 20年と少し中国で暮らし、人間社会の権利闘争は元SSに丸投げしつつ、その間に中国CCGの特等捜査官を粗方下し、有力な中国系喰種を粗方平らげて覇権を握る

⑬ やることがなくなる

⑭ 中国特等捜査官の壊滅によって日本CCGから派遣された鳩たちが中々に強くて気に入ったため、日本へ移住を決意

⑮ 単身で東京にやって来たところ、いきなり喰種の子供に襲われて少し負傷。面白いと感じたため引き取って育てる

⑯ 子育てしていたら昔より毒気が抜けた気がする

⑰ チビちゃんが一人立ちしてやることなくなる

## ⑱ パソコンたのちい↑イマココ

131： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ええ……（困惑）

132： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ああー！ 痛い痛い痛い！ 痛いんだよお！

133： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

止めてくれないか、こんなところでパワーオブブラックヒストリーを解放するのは

……！！（恐怖）

134： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

総統閣下「ハイハイ、またワシのせいワシのせい」

135： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

総統閣下「おっぱいぶるんぶるん！」

136： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ナチスはフリー素材

137： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

赫者つてなんだよ駄洒落じゃねーか

138： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

大胆な新用語追加は女の子喰種の特権

139： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

その子供はターバンのガキかなんかですかね……

140： 東京喰種

>>139

まあ、うちのチビちゃんには既にSSSレートに指定されているので強ち間違っていないかも知れない。貴様らには絶対にやらんぞ

141： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
娘さん！ お母さんをください！

142： 東京喰種

さて、そろそろ定番の安価でも取るか。何か私にやって欲しいことがあれば、なんでもはしなないが出来る限りはしてやろう

>>169

143： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ん？

144： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ん？

145： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
今なんでもするって言ったよね？

146： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なんでもとは言っていないだよなあ……

147： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ホモは帰って、どうぞ

148： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
そろそろ結婚兄貴構ってあげてよお！

149： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そんなナウい下二桁をあえて安価にする奴がホモガキじゃないわけないんだよなあ  
……

150： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
おっぱい見せて

151： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
コンビニでアルバイト

152： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
CCG襲撃

153： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
水着画像うP

154： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
全裸徘徊

155： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
蕎麦職人AV（女優の方）

156： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
百人斬り

157： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
エヘ顔ダブルピース！

158： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
耳掻き

159： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
捕鯨

160： 東京喰種  
>>157  
うみやあ！ たらばがに！

161： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
アイドルデビュー

162： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>1

ちげえwww

163： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

カニ漁船

164： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

俺らと添い寝

165： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

手料理作って

166： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

コクリア襲撃

167： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。



握手会

168： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

蕎麦職人AV（男優の方）

169： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

結婚してください！

170： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

マグロ漁

171： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

結婚兄貴!?

172： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

とんでもねえのが踏みやがった!?

173： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
というか蕎麦職人AVってなんだよ

實在するじゃねーか!?

174： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ええ……

175： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なんだこれはたまげたなあ……

176： 東京喰種

>>169  
しょうがないにやあ・・いいよ。

177： 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
フア!?



そうだ。そろそろスレの締め括りに人間どもに面白いことを教えてやろう。この世界にはVという秘密組織が、世界を鳥かごで覆うかの如く包んでいてだな。これからその詳細を赤裸々に語るとし――

— 4 0 4 N o t F o u n d —



「やあ、遅かったね」

あなたが自宅に帰り、いつものように鍵を開けて居間へと戻ると、そんな言葉が投げ掛けられた。その声色は低めで凛とした女性のものである。

その声に驚いて、声のした方向を見たあなたは黒い軍服を纏い、軍帽を深目に被りながら壁に背中を預けた女性の姿を視認する。背が高く金髪をしている女だということに直ぐに理解し、次に嫌が応でも服装に目が向く。

彼女が纏う軍服の全体の配色は黒地に銀色が施され、上衣は開襟のトレンチコート、下衣は大腿部が膨らみ、膝から下の部分は光沢のある黒革のブーツにスッポリと収まっているように見える。更に彼女が被る軍帽には鷲が水平に翼を広げた帽章があしらわれ、良く見れば鷲は脚でカギ十字の紋章を掴んでいることがわかるであろう。

そして、何よりも腕に付けた赤地に白の円があり、その中に黒いカギ十字が描かれた腕章を着けていることで、多少知識のある者ならば見ただけでもナチス親衛隊制服を纏っていることに気づく筈だ。

彼女は恭しくあなたに礼をし、そんな彼女にあなたは何者かという疑問を投げ掛け

た。

「何者かとな？ ああ、名前が必要か。それは確かに重要だ。ふむ……ならパトリツィア……ヴァルブルガ……ゾフィ……ふむ、なんだかしっくり来ないな……。ならデボラなんてどうだ？ 中々、可愛らしい」

顎に手を当てて少し考えた末に吐き出されたそれは、明らかに偽名を名乗っているということだけはあなたにも伝わった。しかし、また彼女は表情を変える。

「いや、やはりヴィルヘルミナにしよう。今はそんな気分だ」

そんな風に偽名を決めた彼女に対して、あなたは名を偽る理由を聞く。

「知性ある生き物には好きなように呼ばれる権利ぐらいあると思うのだがね？」

しかし、さも当然のように吐かれた言葉は、むしろあなたに対して疑問を投げ掛けるものであった。そして、名乗りを全て終えたと本人は思っているらしい彼女は、壁から背中を離しつつ少しあなたの前に寄ってくる。

「君の居場所を突き止めるのに3日も掛かってしまって申し訳ない。Vヴィーの奴らを焚き付けてあのスレを消されてしまったせいで、直接アイツらから聞き出すしなくなつてね。少し時間が必要だったんだ」

あなたは理解が追い付かず停止していたが、それを知ってか知らずか彼女は続けて口を開きながら、あなたの前まで軽やかな足取りでやって来る。

そして、その場でくるりと半回転して背後を向くと溜め息と共に大袈裟に両手を掲げて見せる。その際、軍服の背中の部分が見え、明らかに翼か何かを通す為のような袖口が付いていることにあなたは気づいた。

「ああ、君は気にしないでもいいよ。仮にアイツらが総力戦を仕掛けて来ても私一人で十分対応可能だ。そんなこと向こうの方がしたくないから、私は常に半ば放置されているのさ。まあ、今回の取り引きと結婚生活とやらを楽しむためにV<sup>ツェー</sup>に加入してみたが……ふむ、君が知るところではないな」

彼女はまたあなたの方に身体を向けるとずっと顔を近付ける。その際、深目に被っていたために見えなかった双眼が露になり、白目が黒く黒目が紅い異様なモノであったことをあなたは認識した。また、彼女の表情は少し口を尖らせているようにも思える。

「どうした？ そんな顔をして？ スレの基本、安価は絶対なのだろう？」

そこまで言われたことでようやくあなたは3日前に暇潰しで見ていたスレッドのことを思い出して目を丸くした。あなた自身まさかスレッド越しのことを本気で守られるとは毛程も考えてはいなかったのだ。

「うんうん、つまり今この瞬間から私は君の嫁。そして、君は私の伴侶だ。何せ、君が要望したことだからね。指輪のひとつでも買っていてくれればロマンチックだったが……まあ、高望みはしないさ」

そう言うのと彼女は目を細めながら三日月のように口元を歪める。

「ふむ……なぜ、という顔をまだしているな君は。私は根が”道化師”<sup>ドヒエロ</sup>でもあるから……愉快ならばなんでもいいのさ。さあ……楽しもうね？ ア・ナ・タ♡」

そして、彼女は笑みを浮かべたままあなたにすり寄るようにもたれ掛かり、そつと耳元で吐息を掛けた。



【来たれ】 SSSレート喰種だけど質問ある？ 【人間】

1：東京喰種

日本には喰種と愛し合っている人間が多い事や、逸脱した変態が数多存在すると聞いた。よって知恵を貸せお前ら

2：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

初手国辱は基本

3：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
とんでもない風評被害で草しか生えない

4：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんだア……てめエ……？

5：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なんだこいつ（困惑）

6：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
そうだよ（便乗）

7：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

この頭の悪そうなスレタイに不遜でふてぶてしい態度とコテ……ドイツ産パツキン  
巨乳喰種姉貴やな

8：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
パツキン巨乳姉貴が帰ってきた！

9：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>1

他国だと喰種と人間ってそんなに愛し合ったりしないの？

10：東京喰種

>>8 コイニハツテンシテ：

それはそうだ。特に前者に關しては本当にレアケースだと私は思うぞ。喰種と人間の愛なぞ他の国ではまず選択肢にすらない

11：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

トロピカル喰種

12：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ファンタジーに火をつけた喰種

13：東京喰種

というか日本に移り住んでから驚いたぐらいだ。そもそも本来、喰種からすれば人間なぞ食用の牛や豚に過ぎないからな。百歩譲って愛玩はすれど、愛など中々向けれよう筈もない

14：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
まーたそんな化け物みたいなこと言って……

15：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
というか、パツキン巨乳って何年ぐらい日本にいるん？

16：東京喰種

そうだな……そもそも日本でも中国のように有力な喰種を平らげようとしていたのだが、子育てすることになったせいであいつの間にか忘れて今に至るわけで……えーと、詳細は言わんが20年以上軽くは在住しているぞ  
イツチって呼べ

17：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
そうなのかパツキン巨乳

18：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
パツキン巨乳マツマ！

19：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

わかったよパツキン巨乳

20：東京喰種

>>17

>>18

>>19

お前ら ハイスラでボコるわ・

21：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おいイ？

22：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

仏の顔を三度までという名 セリフを知らないのかよ

23：東京喰種

あまり調子こくとリアルで痛い目を見て病院で栄養食を食べる事になる　というか  
ランチにしてランチにしてやる

24：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ヒイ

25：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

イツチが言う　と洒落にならない

26：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やりそう

27：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そういうえは結婚兄貴とはどうなったの？

28：東京喰種

そうそう、その件でお前らに知恵を借りたいのだ。とりあえず、安価通りアイツと結

婚した訳なのだが、どうにもその後が上手く行かなくてな

29：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

何サラツととんでもないこと流そうとしているわけ？

30：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

えっ……結婚……マジで？ 結婚兄貴氏ね

31：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

氏ねじゃなくて死ね

32：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

は？（威圧）

33：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

俺たちのパツキン巨乳になんてことを……

34：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

とういうかどうやって突き止めたの？ 証明できる？

35：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種ですら結婚出来ているのにお前らと来たら……

36：東京喰種

>>>34

ちよつとした伝があつてな。今所属している組織はネットにも非常に強いのだ。ふむ、証明か……こんなのは証明になるか？

【画像】

【画像】

【画像】

【画像】

【画像】

37：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。



エロい（ド直球）

38：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
フアツ!?

39：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
エツツツツツツツ  
!!!!

40：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
シコれる（迫真）

41：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
（全裸は）不味いですよ！

42：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
二人は幸せなキスをして終了

43：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ただのセックスシーンじゃねーか!? お前ら消される前に保存しろ!

44：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

既に保存していた

45：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

同じく

46：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

女で喰種だけれど普通に興奮する

47：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

他の喰種姉貴もこのスレ見てるのか……（困惑）

48：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

まあ、別に人間だけが見れるスレでもないしな

49：東京喰種

初夜を写真に残したものだ。うむうむ、良く撮れている

50：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

構図がどれもこれも淫夢四章そのものなのはなんなんですかねえ……？

51：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

その癖、結婚兄貴（仮定）だけ極力ちゃんと隠しやがって……

52：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ンアー！（迫真）

53：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

きたない

54：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

すくなくともこのイッチはパツキン巨乳喰種姉貴本人で間違いないみたいです  
ねク  
レワア……

55：東京喰種

嬉しいダルルオ？

56：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

少なくとも俺はこんなやつを喰種だと認めたくないし認めない

57：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

こんなやつ

58：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>1

ちよつとカーテン開けてカメラで家の外の景色写してくれ。流石に新鮮な空気が吸  
いたい気分だ

59：東京喰種

>>>58

そうやってゼロに愛された男みたいに自宅特定する気だろうか？  
騙されんぞ！

60：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

クソツ、無駄にガードが硬い

61：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

その堅実さを他のところに生かして

62：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

堅実かな……そうかな……そうかも……

63：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>62

チヨビ、騙されるんじゃない

64：東京喰種

まあ、120歳超えのババアに羞恥もへったくれもあるわけなからう

65：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ええ……（困惑）

66：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

その設定まだ生きてたんすね……

67：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

設定ってなに？

68：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>67

パツキン巨乳喰種姉貴が最初のスレに投下した自分の経歴のこと。スレを遡れと言いたいところだが、何故かスレが消されたので誰か保存してる奴貼ってくれ

69：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ほらよ

①100年と少し前にドイツの片田舎に生まれる（孤児）

②美味しいもの目当てに大人の喰種を殺して独断で人間狩りを始める（5歳）

③日本の喰種対策院の設立に伴いドイツにも喰種対策の手が入る（1890～1981年頃）

④現在の喰種捜査官（以下鳩）と呼ばれる者たちの祖と激闘し、幾度となく喰い殺した結果、SSレートに指定される

⑤大一次世界大戦勃発（1914年～）

⑥戦争に乗じて大規模な喰種狩りを敢行し、記録として現存する最古の赫者に至る

⑦ドイツ喰種対策局のSSSレートに指定される（世界初）

⑧ナチ党の台頭（1933年～）

⑨ナチスの極秘軍事政策の一環で喰種部隊「最後の大隊ラストバタリオン」が設立し、ドイツ最強の喰種だった私が大隊長に就任。ちなみに勧誘を受けた理由は面白半分。

⑩戦果は全戦全勝だったが、物量の暴力には勝てず、元々ソリの合わない連中の寄せ集めだったため、食糧のユダヤ人供給が止まったことを期に仲間割れが相次ぎ部隊は自

然分解。

① 流石に焦土と化した故郷にはいる気が失せ、知り合いのSSの手引きで大隊の元部下数名と共に中国へ亡命

② 20年と少し中国で暮らし、人間社会の権利闘争は元SSに丸投げしつつ、その間に中国CCGの特等捜査官を粗方下し、有力な中国系喰種を粗方平らげて覇権を握る

③ やることがなくなる

④ 中国特等捜査官の壊滅によって日本CCGから派遣された鳩たちが中々に強くて気に入ったため、日本へ移住を決意

⑤ 単身で東京にやって来たところ、いきなり喰種の子供に襲われて少し負傷。面白いと感じたため引き取って育てる

⑥ 子育てしていたら昔より毒気が抜けた気がする

⑦ チビちゃんが一人立ちしてやるのがなくなる

⑧ パソコンのちい↑イマココ

70：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

相変わらず、ひつでえ経歴設定ですな……



71：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ナチスはオモチャじゃないんだぞ！

72：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
おっぱいぷるんぷるん！

73：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
コイツはヘビーだぜ……

74：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
一杯時間使って考えたんやろうなあ

75：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
いや、こいつ？ 龔工の経歴じゃん

76：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なんて？

77：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

日本語でおk

78：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

いや、ドイツ出身のSSSレートで、中国でもSSSレート認定された頭の可笑しい喰種。もちろん、書いてないけど日本でもSSSレート認定されてる

ちな

ドイツではRotter Nebel（赤い霧）

中国では？龔工（赤い共工）

日本ではレッドプール

って通称が各CCGから付けられてる

79：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なにそれカッコいい（純粹）

80：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

静まれ俺の左手!?

81：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
日本の通称だけなんか可愛くて草

82：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
れつどぶーる！

83：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
やーい！ お前、パツキン巨乳でれつどぶーる！

84：東京喰種  
お腹すいたなあ……

85：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ヒエ

86：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
洒落にならないこと言うのはやめロツテ！

87：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
マジ震えてきやがった・・・怖いです；

88：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
はえー、調べたら共工って中国神話の神で、四罪って奴の一体なんすね。なんか黒い  
洪水を起こす水神だとか

89：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
へー、赤い共工。つまり赤い洪水起こすような奴なんやな

90：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なんだそれ、水道管でも爆破したのか？

91：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

水をペンキで真っ赤にしてか

92：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

チャイナボカンシリーズ

93：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

中国と爆発は切っても切り離せない関係やからな……

94：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

いやいや、？糞工って言ったたらそんな可愛いものじゃなくて中国CCG本部と移転先の仮本部を壊滅させて、同時に当時の中国のSSレート以上の喰種を全て殲滅した本物にイカれた喰種だよ。当時から生きてる中国系喰種は未だに名前を聞いただけで怪訝な顔をする程度には

95：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ええ……（困惑）

96：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なーんでそんなこと知ってんすかねえ……？

97：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>94が中国系の喰種か、CCGかなんやろうなあ

98：東京喰種

(どいやあ)

99：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なりすましだろ

100：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
コイツはないな

101：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
パツキン巨乳だけで十分だ

102：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

台無しなんだよなあ……

103：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

こんな自己顕示欲の塊みてえな奴が伝説レベルの喰種の訳ないだろ！  
しろ！  
いい加減に

104：東京喰種

>>103

暗い夜道には気を付けろよ。月夜がいつも明るいとは限らないからな

105：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

(意識) 月が綺麗ですね

106：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんかパツキン巨乳喰種姉貴が可愛く見えてきた

107：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ヤクザの殺し文句みてえな脅し止めーや

108：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ちなみにイツチに聞きたいんだが、百歩譲つてドイツと中国ではSSSレートになった理由はわかるが、日本ではなんでSSSレートになったん？

109：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そういや、年表に書いてないな

110：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

日本に来てからはターバンのガキに刺されて子育てして、パソコンのちいだけだもんな

111：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

これなら俺らもSSSレートになれるわ



112：東京喰種

>>108

中国から来た直後に、とある一族に日頃の怨嗟（感謝）を込めて殴り込み（挨拶）しに行つたせい

113：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

逆逆

114：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おい、本音と建前

115：東京喰種

まあ、間違えて本家じゃなくて分家を幾つか滅ぼしただけで、結局本家にはたどり着けなかったがな。どいつもこいつも死ぬまで口が硬いのは予想外だった

116：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんか、3つの中で一番シヨボいのにそれでSSSレートに指定されるんだな

117：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんだったんだその一族

118：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

今さらだけど結局、イツチの相談ってなんだったん？

119：東京喰種

忘れてたわ

120：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おいイ？

121：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前が忘れるのか……

122：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
やっぱりこのパツキン巨乳、普通に天然だよなあ

123：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
止めろ、惚れるだろ

124：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>123

諦めろ既婚者だ

125：東京喰種

そうそう、相談というのはな。実はアイツと結婚して一週間がたったんだが……その  
……夫婦って具体的にいったい何をすればいいんだ？

126：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

は？

127：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

え……。

128：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やることやったのに今さらそんなこと聞く？　というか、子育てしてたんだよね？

129：東京喰種

>>128

喰種の子育てなんて最悪、肉と住む場所さえ用意してればなんとでもなる。だが、夫婦の営みはセックス以外に思い付かないから困ってるんだろが

130：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

さも当たり前のように情けないことを言うな、惚れるだろ

131：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前の知識小学生並みかよお!?

132：東京喰種

うるさい、人間の営みなぞ知るか。私は喰種だぞ。社会保障や人権が無縁などどころか識字すら出来ていない者が非常に多く、私は全然マシな方なんだ

133：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なら喰種の夫婦の営みの方は？

134：東京喰種

>>>133

経歴から考えて、私に寄り付く喰種がいると思うか？ 家庭を持つ喰種など我先に家族の誰かのために命乞いを始めるぞ

135：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

イツチのご両親は？

136：東京喰種

元から顔も知らん。というか、自分の本当の名前も知らん

137：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

えっ……

138：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

あっ（察し）

139：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

イツチ可哀想な子だったのか……

140：東京喰種

これぐらいのお涙頂戴で絆されるような輩は、直ぐに喰種の餌にされるから覚えてお  
け

141：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

可愛いげがあるのかないのかどっちなんだコイツ

142：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

今日はスルースキル低いなイツチ

143：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

それだけ切羽詰まってんじゃねーの？

144：東京喰種

兎に角、何か夫婦っぽいことをせねばなるまい。何せ安価で決まったことだからな

145：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

これが現代っ子ですか

146：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ゲーム脳は実在した

147：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

??? 「バカにしないでくれる!? 知ってるわよそのくらい!!」

148：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>147

申し訳ないが、作中で明確に誰一人として殺していないナナちゃんを、自身を大量殺戮犯と同一化している嫁を名乗る不審者と同じにするのはNG

149：東京喰種

さて、というわけで再び……今回は夫婦っぽいことを安価で4つの取ろうと思う。前の安価の関係上、夫に危害を加える事以外と、やれる範囲のことならやるゾ

150：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんでもやるって言え

151：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ん？

152：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。



今なんでもやるって(誤認)

153:東京喰種

イクゾー! デッデッデデデ! (カーン)

>>163

>>166

>>169

>>172

154:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

だから69にするの止めロツテ!

155:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

カーンが入ってる +114514879

156:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

相撲

157：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
解決策を安価で決めるのか……（驚愕）

158：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
安価をやらねば生きていけない喰種説

159：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ギャルのパンティーおくれ！

160：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
むしろ人生が安価説

161：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
自宅公開

162：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

自首

163：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おかえりなさい！ ご飯にする？ お風呂にする？ それとも……た・わ・し？

164：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

鳩狩り

165：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

CCG襲撃

166：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

手料理

167：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

猫耳メイド

168 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
結婚報告

169 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
コクリア破り

170 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
隠し芸

171 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ガンダムフアイト

172 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
荒ぶる天神乱漫のポーズ

173 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
耳搔き

174：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ラブレター

175：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
とんでもねえのが出揃いやがった……

176：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
手料理以外にマトモなものがないんですがそれは……

177：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
いや、人肉とコーヒーしか食べれない喰種に手料理はどちらにしても拷問なのでは？

178：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なら全部アウトじゃねーか！

179：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

えーと……まとめると

・おかえりなさい！ ご飯にする？ お風呂にする？ それとも……た・わ・し？

・手料理

・コクリア破り

・荒ぶる天神乱漫のポーズ

だな。つてかよく見たらワタシじゃなくてタワシじゃねーか

180：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

確実にやべーのを踏ませようとするスレ住民に紛れた喰種兄貴がいて草しか生えな

い

181：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>180

どゆこと？

182：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

地方は無いかも知れないが、コクリアっていうのは正式には喰種収容所のこと。その

まま、CCGが捕らえた喰種を収容する刑務所のような施設なんだよ

183：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

その上、東京在住っていうとアソコだろ23区の日本最大のコクリア。SSレートやSSSレートを何体も収容しているようなやべーところ。多分、日本で一番危ないところなんじゃないか？ その分、防衛も嚴重だろうけど

184：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

いや、流石にそこまではしないだろJk

185：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

無茶ぶりが過ぎる。明日のニュースになったらどうしてくれる

186：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

／（＾ワ）＼

187：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

あれ？　そういえばイツチどこ行った？

188：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
荒ぶる天神乱漫のポーズでも練習してんじやない？

189：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
あの性格だと言ってそうだなあ……



仕事場から帰り、自宅の玄関扉の前に立ったあなたは、携帯電話の掲示板の過去スレッドを眺めるのを止めて、嫁を名乗る不審者——ヴィルヘルミナについて思い返した。



どうも軍服は勝負服だったらしく、それ以降は落ち着いた女性らしい服を着ており、目立った行動も特になく、どちらかと言えば居候のような様子でああなたの宅に滞在している。

まあ、そもそもあなたは彼女を肉体的に好いていなければあのような宣言はしないため、彼女の豊満な身体と情婦のような誘いに負け、肉体関係を結んでしまっている。そのため、叩き出すような真似は出来ず、そもそも冗談半分でも彼女に約束させたのはあなた自身のため、負い目もあるであろう。

一週間の彼女の自宅での様子と言えば「何かやることはあるか?」と2〜3時間置きに聞いて来る程度で、それ以外は借りて来た猫のように大人しく、あなた自身も彼女をどう扱っていいかと思案していたため、大した指示も出さず、特に何も無い一週間が続いていたのだ。また、あなたが仕事をしているため、半分は自宅を留守にしているせいもある。

まあ、仮に空から女の子が降ってくるような稀な目に遭って、急に切り替えられるような精神をただの人間がしていよう筈もない。男の子が皆パズーには成れないのだ。

そんな折、ふと仕事の休憩中に見覚えのあるスレタイを見つけたため開いてみると、中は中々にカオスなことになっていたのだ。時刻は彼が仕事で自宅を後にした直後から動いており、とつくに暗くなつた空を見上げれば手遅れなことはよくわかるであ

ろう。彼女に携帯を持たせようかとあなたは思案する。

まあ、少なくとも押し掛けて来た彼女も困っていた事がわかったが、それ以上の問題が津波のように押し寄せて来ることは想像に難しくない。

そして、意を決してあなたは玄関扉を開け――。

「おかえりなさあい！ ご飯にするう？ お風呂にするう？ それとも……た・わ・しい？」

裸にエプロン姿で玄関に座りつつ、満面の笑みをあなたに向けて、TVコマージュルの通販番組の商品のように両手でタワシを掲げるヴィルヘルミナが目に入った。

第一関門の出現である。

安価通りのド直球で来たことになんとも言えない気分になりつつ、これを予測していたあなたは、とりあえず第二関門になるであろう「手料理」のことを思っ取りあえず、ご飯にすることにした。タワシを選んだらどうなってしまうのかも気になったが、とりあえず好奇心をぐつと抑え込む。

「ふむ……」飯か。よいだろう」

真顔に戻ったヴィルヘルミナは、それだけ言う立ち上がり、踵を返すとそのまま確

かな足取りでリビングへと帰って行く。

当然、エプロンしか身に付けていないため、背後から見ると肩紐と腰紐以外は全裸であり、彼女の一切格好を意に介さない様子は最早、男らしさすら覚えるため、エロさどころではなかった。

「ああ、そうだ……」

彼女は何か思い出したように途中で立ち止まると、少し周囲の物を確認してから視線をあなたへと向けた。

そして、右手を外側に向かって回転させ、その勢いを保ちながら指を力強く掲げ天を衝く。更にそれとほぼ同時に左手の掌を上を向けたまま、脱力状態で固定し、左ひざを上げる。

それは彼の記憶にある”荒ぶる天神乱漫のポーズ”に寸分の狂いもなかった。

無駄にバランス感覚が良いらしくその体勢のまままで止まった彼女は、また満面の笑みを浮かべており、一層のことある種の怖さまで滲み出ている。

わかっではいたが、突然の第三関門にあなたは生暖かい目をしながら閉口してしまった。俗にネタをリアルでやられると複雑な気分になるアレであろう。

「よっ」

何が良いのかわからないが、ポーズを自発的に解除したヴィルヘルミナは、そのまま

あなたを残してリビングに入って行ってしまう。

「こつちだ。こつち」

そんな彼女にどうしたものかと頭を悩ませるあなたであったが、彼女の方から声を掛けられたため、あなたもリビングへと向かうと、そこにはキッチンの前に立っているヴィルヘルミナの姿があった。

彼女の目の前には静かに煮えて少し良い匂いにする鉄鍋があり、普段あまり自炊をせず、もっぱらスーパーの惣菜や冷凍食品や即席麺などで過ごしているあなたの家では珍しい光景である。また、鍋の近くでゴミ袋に纏められている食材の包装や値札やレシートを見る限り、人肉らしきものは何処にもないため、純粹に人間だけが食べれる物を作ったのであろう。

「よしよし、鍋の前まで来てくれ」

あなたは言われるがままにヴィルヘルミナの隣までやって来ると、彼女は鍋の蓋を開ける。するとそこにはカレーやシチューや煮物などに見える具材が煮られており、明らかに作り途中であった。

それにあなたが首を傾げていると、彼女は赫眼を吊り上げ、肩を竦めながら小さく笑う。

「おいおい、人間の料理の味がわからない私にコレを完成させるつもりか？ 君が味見をしてくれなければ料理と呼べない代物が出来上がるぞ？」

そんなことを言うヴィルヘルミナの様子は、とても人間離れしていながら新妻のようでもあり、あなたの趣向をくすぐった。



「美味しいか？」

ヴィルヘルミナに逐一味見を頼まれながら完成した料理を食べるあなたを見た彼女は、卓袱台越しで頬杖を突きながら微笑ましいモノをみるような表情であなたを見つめていた。

それに自身だけ食べていることに後ろ髪を引かれたが、彼女の食べる物を思い返し、あなたは小さく笑うばかりだ。

ちなみに彼女は裸エプロンからジーパンにハイネックのセーターというラフな格好に着替えており、露出が抑えられているが、あなたとしては豊満なボディラインがわか

るそちらの方が好みであったが、無論口に出すほど非常識ではない。

「まあ、言わずともなんとなくわかる。可もなく不可もなくと言ったところか。まあ……」

そう言いながら彼女は卓袱台の端にある数冊の本を少し見つめる。それをあなたも見るとそれは料理本であり、全てに近所の古本店の値札が付いていた。

「レシピ通りに作ったのだからそうでなくては困るのだがな。こういうモノはアレンジなぞしないに限る」

あなたも見たことがある。嫁の飯が不味いスレ”の住人の嫁に是非とも言つてやりたいことだと考える。ヴィルヘルミナはこう見えて割りと堅実で几帳面な性格であるう。

「ん……」

すると彼女から手が伸び、その指先であなたの頬をなぞった。そして、引いた指先には食べ滓が付いており、あなたは気恥ずかしさを覚える。

そして、それを少し見つめた彼女は何を思ったのか、少し見つめた後にそれを自身の口に運んで舐め取った。

「うーん……不味い。やはり、わからんな。そんなものを大層旨そうに食べれるというのは」

そう言った彼女は人間ではない黒く赤い瞳であなたを見つめている。それは遠い昔に折り合いを付けて諦めたようで、それでも興味が尽きぬ眼光。そして、何よりも彼女に良く似合う人を喰ったような笑みを浮かべていた。

そんな彼女の人外染みた雰囲気と色香に思わず、魅入られたようにあなたは不思議な感覚を覚えていると、彼女は徐おもむろにTVのリモコンを取り出して、そのまま電源を入れる。直ぐに映ったTVが映したのはいつもよりも少し慌ただしいニュース番組であった。

《——繰り返し臨時ニュースをお届けします。本日正午より、23区の喰種収容所の全棟で大規模な火災が発生。数時間で火の手は消し止められましたが、多数の死傷者及び重傷者が出ており——》

《——映像のように火災発生当時、消火活動も一切の効果が認められず、喰種収容所全棟で火災が発生する共に、脱走する喰種の一部始終が報道カメラにより——》

《——CCGの声明では、喰種収容所は全焼。また、火災は明らかな喰種による攻撃だと発表。そして、53%の喰種が脱走し、残る47%喰種は焼死或いはCCGが駆逐した



とのことです。現在、CCGは近隣住民への対応と責任を――》

そして、それは前代未聞の余りに局地的で凄惨な未曾有の大災害の報道であった。

「いやあ……このご時世。こわい喰種もいたものだね」

そんなニュースからまさかと思いつつヴィルヘルミナへとあなたは目を向けると、彼女は口ではそう言いつつもつまらなそうな様子で肩を竦めている。

その様子に個人がこのような大災害が起こせるわけがないとあなたは思い浮かべる。いや、そう思い込もうとしていた。

「ああ、そうそうアナタ」

また、直ぐに彼女はニュースへの興味を失ったようで、あなたへと視線を向けて何が嬉しいのかにっこりと柔和な笑みを浮かべる。

そして、彼女が右手首をあなたへと向けると――その直後、あなたの20cm手前という距離まで真つ赤な色をしたやや反りのある刃のような何かが、ゆつくりと生えるように伸びた。彼女の過去の説明によれば甲赫の赫子であろう。

「煙草とかつて……吸ったりするかね？　あまり身体には良くはないよ？」

そして、まるでマッチを擦った時のように小さく小気味良い音を立てて、その剣のよ  
うな切っ先に小指の先ほど小さな小さな炎が点ったのであった。

【生きた喰種は】SSSレート喰種だけど質問ある?【よく燃える】

1 : 東京喰種

さあ、この私がなんでも答えてやろう人間ども。オススメは善きサマリア人のたとえだ

2 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ええ……(困惑)

3 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

コクリア大炎上してたんですがそれは……

4 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おっかしーなー。イツチが居なくなっただけから直ぐにコクリアが襲撃されて炎上しているのがニュースになったなー

5：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ガチであれイツチがやったん……？

6：東京喰種

(どじやあ)

7：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

コイツは愉快犯かもしれぬ

8：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

こんなのに日本の喰種捜査官が抜かれると思いたくないので俺も一票

9：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

たまたまだろたまたま。そもそも動機はなんだよ

10 : 東京喰種

>>9

安価

11 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そんな理由でコクリアがイチイチ襲撃されてたら今頃地球は更地なんだよなあ……

12 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

安価に安価を決めるな(激ウマギャグ)

13 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>1

ちなみに善きサマリア人のたえってなに？

14 : 東京喰種

>>13

結局、最も得をして罰も受けぬのは強盗どもだというお話だよ。ある人は身ぐるみを剥がれて半殺しにされて全てを失い、善きサマリアはデナリ銀貨2つと葡萄酒とオリブ油を失い、何もせずに通り過ぎたレビ人は惨状を目の当たりしただけで何ひとつとして失わなかった

加害者だけが得をして、何もしなかった者が損をしないようにこの世界は出来ているのさ。正直者が掬われるのは足元だけさね

まあ、神や隣人を愛したところで、永遠の命などは得られず、どういうわけか私が若々しいままで生きていることが何よりもの証明さ

丁度、強盗は私。レビ人はお前らだな。今後とも仲良くしようじゃないか

15：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

解釈が独特過ぎる

16：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

どうしてこんな娘に育っちゃったの……

17：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前らのパツキン巨乳喰種姉貴だぞ。早くなんとかしろ

18：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

うーん、聖書を斜め読みしたような解釈

19：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>1

イツチ、オオカミ少年のお話知ってるか？

20：東京喰種

>>>19

日頃から防災訓練を欠かさない危機管理意識の高い少年だけが無事に生き残ったという教訓。あるいは子供の嘘と本当も見抜けないバカな大人たちは死んでしまうという皮肉

21：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

解釈が独特過ぎる(2回目)

22：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

イツチ強いなあ……

23：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そっか、オオカミ少年って超良い奴じゃん！（洗脳済み）

24：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

本当にどうしてこんな娘に育っちゃったんですかね……

25：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

こんなイツチにだって綺麗で可愛らしい幼少期が……あつ、ダメだコイツ5歳で大人の喰種殺してやがる

26：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お、おい……流石にこれ通報した方がいいんじゃない？



27 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>26

考えるな、耳を塞げ、目を背けろ

28 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>26

仮に全て本当だったのなら、スイッチを押したのは誰かよく考えてみる

29 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>26

イッチは残念な美人のパツキン巨乳喰種姉貴。それだけでいいじゃないか

30 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>26

ここはネタスレだからな。ネタにするんだよ

31 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

俺のログには何も無いな

32：東京喰種

シツモーン マダアー？ (・▽・)っ／＼(☆チンチン。

33：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ほらよく考えなくてもこんなやつがコクリア破りなんて出来るわけないだろ

34：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

こんなやつ

35：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

イツチぐらい自由なら人生楽しそう

36：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

脳の代わりにティラミスとか詰まってそう

37 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>36

ティラミス食ってる俺に謝れ

38 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>1

喰種ってよく燃えるの?

39 : 東京喰種

>>>38

個体によるが、主に若い個体は油が乗っているからよく燃えるな。反面死んでいると肉体が全体的に硬化したままになるせいで、生きている時ほどよくは燃えない。ちなみに喰種よりも人間の方がよく燃える

40 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ヒエ

4 1 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
燃えを萌えに変換しよう

4 2 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
喰種つてそんなに硬いの？

4 3 : 東京喰種

>>> 4 2

喰種は基本的に喰種の赫子以外の通常的手段による攻撃を受け付けないほどだ。対人用程度の武器では精々、多少行動を制限するのが関の山で、致命傷を与えることはできない

例えば私の腹に包丁を突き立てようものならば、包丁がたちどころにへし折れるぞ

4 4 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
カッチカチやぞ

4 5 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>1

包丁やってみて

46：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

カチカチのパツキン巨乳にあんな危ないブツを突き立てようとは卑猥な……

47：東京喰種

>>>45

包丁が勿体ないからやだ

48：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

理由が普通過ぎる

49：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

もつと喰種っぽいこと言え

50：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ギャツプで風邪引きそうだからやめろ

51：東京喰種

ぎやおー！ たーべちやうぞー！

52：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

うーん……どう考えてもコクリアを襲撃するような奴はこんなこと言わない

53：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ぎやおー！ たべちやうぞー！（124歳）

54：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

恐ろしい肉食の怪物の様です。これが伝説のモケーレムベンベの姿なのでしょうか  
！

55：東京喰種

>>>54

喰種だっつってんだろ、ぎやおーするぞ

56:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

モケーレムベンベの正体は喰種だった……?!

57:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そんな……俺はてつきり野獣先輩がモケーレムベンベの正体かと……

58:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ぎやおーする(動詞)

59:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ぎやおーする

① 食物を噛んで、呑みこむ

② 暮らしを立てる。生活する

本来は上位者からいただく意。ありがたくいただいて食す意から、自己の飲食する行為をへりくだって言うようになり、さらに、「食う」をやわらげている丁寧な言い方に変

わった。現代語では「食う」に比べれば丁寧な言い方であるが、敬意はほとんどない。また、現代では一般に飲む行為には用いられない

60：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>59

俺らは普段からぎゃおーしていたのか（困惑）

61：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ぎゃおーは丁寧語だった……？

62：東京喰種

話の続きだ。そのため、喰種に確実なダメージを与えなければ、同族が持つ赫子か、赫包を加工して製造される対喰種武器（クインケ）が必要だ。

まあ、ナチス時代に私も参加した喰種の耐久実験などでは、通常の方法で殺すことも可能だ。他にもプレス機で押し潰す、高所から重量のある物体の落下などの圧壊。対戦車地雷を踏ませたり、戦車砲を直撃させたり、空爆に巻き込むなどのより強力な物理的破壊。要するにどちらかと言えば喰種の治癒力を上回るほどのダメージを一瞬で与え



ることで殺すことが可能だ。

ちなみに治療力だが、腕を物理的に切除しても瞬時に生え戻せる程度の再生能力は、ほぼ全ての喰種が共通して持っている。

63：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ナチスはフリー素材

64：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やっつてそう

65：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

総統閣下「スターリンのように！」

66：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

喰種って硬い上にそんな再生能力まであるんスね……クインケって？

67：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんで喰種の赫子は喰種にダメージになるん？

68：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ナチスはオモチャじゃないんだぞ！

69：東京喰種

>>>67

赫子から放たれたRc細胞が毒素として相手に伝わるため、治癒力の高い喰種と言えども、赫子で負わされた傷は治癒が遅れがちで、相性の悪い赫子に受けた傷はさらに治癒が遅れるからだな。

まあ、少々乱暴に例えるならば、血液型の違う血液を無理矢理輸血させるようなものだ。それにそもそも赫子は子供でも木を破壊する程度の力はある。魔法でもなんでもなく、単純に最もコンパクトに極めて強力な物理的な破壊を起こせる生物機関が、喰種の赫子というわけだ

70：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

はえー……わかりやすい

71:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

本当にイツチは何者なんだろうな……

72:東京喰種

>>>66

次にクインケだが、喰種捜査官が武器として用いるアタツシケースに詰まっているアレのことだ。喰種の赫包を加工した武器であり、金属質の素材のクインケ鋼が用いられ、電気信号を送り込むと、喰種の赫包から赫子が出てくるように戦闘用の形態へと変化する。そのため、赫子と同様に刃物や銃弾を通さない喰種の身体を簡単に切断でき、ダメージを与えることができるわけだ

こつちがアタツシケースの画像で

【画像】

こつちが変形時のクインケの画像だ

【画像】

【画像】

【画像】

【画像】

【画像】

【画像】

【画像】

【画像】

【画像】

【画像】

【画像】

73 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

すげえ……明らかにアタツシユケースの質量超えてるし……

74 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんで持つてんのこの人……

75 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

コラとか合成写真……じゃないんだろぅなあ……

76：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

どう見てもどっかの普通の民家で撮影しているんですがそれは。

77：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

喰種捜査官頭抱えてそう

78：東京喰種

ふふん、スゴいだろ？

ちなみに私の趣味はクインケ集めでな。面白いクインケと、SS、SSS+、SSSレートのクインケを収集しているんだ。ちなみにこの画像のモノは全てSSSレートのクインケなんだぞう？

79：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

無知ですまんが、聞ける雰囲気じゃなかったので今聞こう。レートってなんだ？

80：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>79

レートは普通に喰種の危険度のレーティングとしてCCGでも出してる奴。ただ、Sレート以上の喰種は周知されれば混乱を招くような戦闘能力を有しているとかなんとかで、一般には公表されていない筈だが

81：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

喰種が同族の赫子で出来た武器を収集しているのか（恐怖）

82：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

俺らからTNTNTN取り取って作った武器をパツキン巨乳喰種姉貴が奪って喜んでい  
るようなものか

83：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>82

絶対違うが俺はそれだと思おう

84：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

クインケはTNPで、それを集めるパツキン巨乳喰種姉貴はビツチだった……?!

85 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>84

人間にも喰種にも大切なところおっ広げてとところ構わず喰つちまうような奴がビツチじゃないわけないだろいい加減にしろ!

86 : 東京喰種

>>>84

>>>85  
ならお望み通り貴様らも喰つてやる

87 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ヒエ

88 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

助けて

89：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

生きてるへく→

90：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

前にパツキン巨乳喰種姉貴に喰われたけどスツゲー痛かったゾ

91：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

喰われた兄貴成仏して

92：東京喰種

生きてる証拠だよ！

93：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ネタと語録さえ使わなければなあ……

94：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。



淫夢は汚いからレスリング厨になれ(強要)

95:東京喰種

蛇足だが、確かにクインケや赫子は喰種に対してダメージを与えられるわけだ。しかし、別に全てのそれらが等しく全ての喰種に対して同等のダメージを与えられる訳ではない。

例えばSSSレートの喰種に対して、Cレートのクインケがダメージを与えられるかと言えば、まあ肌に満足な傷も残せんだろうな。実際、一世紀以上も生きている私ぐらいになると、Sレート以下のクインケでは基本的に傷にすらならず、Sレート以上でもかなり減衰される。まあ、生きている年期と喰らってきた喰種の量が違うからな。それだからチビちゃんに切り傷を付けられた時は割りと本気でビックリしたものだ。

96:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

まあ、普通に考えればそれもそうか

97:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やっぱりターバンのガキじゃねーか

98：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種姉貴のお肌硬そう

99：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そういうや、子供SSSレートになったって言ってたもんな……

100：東京喰種

さてさて、ではそろそろお待ちかねの安価と行こうじゃないか。この前は張り切り過ぎたから今日はひとつだけにしよう。なんでもはしてやらない

>>114 こいよ

101：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ん？

102：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

あのさあ……

103：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
69使え

104：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なんでもするって言え

105：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
阿波おどり

106：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
数が絶望的に汚い

107：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
そんなことしなくていいから（良心）

108：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

## ボランテイヤ

109 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

## オフ会

110 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

## キャンプファイヤー

111 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

## 自首

112 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

## CCG 潜入

113 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

## 犬を飼う

114 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

わんこそば 百杯完食

115 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

テレビ出演

116 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

生配信

117 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ええ…… (困惑)

118 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

死にそう (小並感)

119 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

本気でヤバイ奴で草。絶対できねえわ

120：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

わんこじゃなくてぐるるなんだよなあ……（違）

121：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

人肉とコーヒーしか食べれない生き物にわんこそばをさせるのか……

122：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ちよいちよい喰種兄貴姉貴のスレ民が困惑してる風で草

123：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

実際、これやったらどうなるん？

124：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ガチでヤバいと思う。体調崩すじゃ済まない。そもそも喰種は人間の物を食べるフリだけで、実際には影で吐いてるんだよ

125：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

クジラにたらふくビニール袋食わせるようなもんや

126：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>125

なるほど理解した。本当にやったらやべー奴じゃねーか

127：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>126

普通にかわいそう

128：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

でもイッチなら……！ SSSレートのパツキン巨乳喰種姉貴なら……！

129：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

レート関係ないだよなあ……

130：東京喰種

お前ら死んだら化けて出てやるからな

131：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

腹括つてて草

132：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やるのか……（困惑）

133：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

わんこそばするだけで面白い女

134：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

わんこそばに命を賭ける女

135：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

それはマジでやめロツテ！



136 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

結構、スレ民が優しくて草生える

137 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

珍しくイッチがビビってて草

138 : 東京喰種

ビ、ビビビ……: ビビっててねー!? 私がどうやってビビったって証拠だよ? ネガ

はやめておけといっているサル!

139 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

かわいい(条件反射)

140 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

可愛い……ハッ!

141：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
イツチのこういうところが嫌いになれないんだよなあ……

142：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
いくえふめい にはだけはならないで欲しい

143：東京喰種  
オレはやるぜ オレはやるぜ

144：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なんでこの娘こんなに乗り気なの……

145：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
シーザー止めろ

146：東京喰種

よし、では私は少し買い出しに行ってくる。私が食べている間、スレの方は旦那に任

せるからな。もちろん、私の実況や画像付きだ

147：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

結婚兄貴巻き込まれてて草

148：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

というかあの後で別れてなかったんスね……

149：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

スゴいな結婚兄貴

150：東京喰種

馬鹿野郎お前！ 俺は勝つぞお前！

151：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

わんこそばに勝てるわけないだろ！

このあと

ヴェルヘルミナは

無茶苦茶吐きそうになった



「やばたにえん……」

あなたはあなたのベッドを完全に占領してうつ伏せに寝ているヴェイルヘルミナを見て何とも言えない気分浸っていた。

何せ、つい先日単身での突発的なコクリア破りを敢行し、片手間に成し得てしまうほどの逸脱した制圧能力を持った喰種であり、更にその過程で喰種にも人間にも甚大な被害を出したにも関わらず、まるで気にした様子もない程度にはヒトデナシである。確かにそのときはあなたも確かな恐怖を覚えたであろう。

「びえん……」

しかし、見ての通り、昨日いつも彼女が立てているスレッドの安価で”わんこそば百杯完食”を引き、それをやり遂げてしまったばかりにこのような威厳もへつたくれもない様子に変わってしまった。

たまに鳴き声のように呻くネットスラングが飛び出す程度で、ほとんど身動きしていないため、相当身体的に問題がある状態ではあるようだ。まあ、ご覧の有り様のためまだ本当に死ぬようなことはないであろう。

「いや、普通死ぬからな？　喰種にとつてゲロマズ毒物をあんなに喰ったら私でなければ死ぬからな？　犬猫にチョコレートをとらふく与えるようなものだからな？」

ベッドに突っ伏したまま更に、「これは和修家の陰謀に違いない……。おのれ…和修家！　おのれ…CCG共！　おのれ…スレ住民！　我が手の内に力のトライフォースある限り…！」等とヴィルヘルミナは言っているが、全てが彼女の勝手な自爆大爆発なのは一部始終に関わらされていたあなたからすれば明白であろう。

「それにしてもアナタ……よく私と別れなかつたなあ……」

ヴィルヘルミナはようやく枕に埋めていた顔をベッドの隣で座っていたあなたへと向ける。その顔は土色になり、目には隈が浮かんでいるため、実際に彼女でもダメージは大きかったのであろう。

コクリア破りすら話の種にしかしなかつた彼女が、わんこそばに屈している光景は皮

肉という他ない。

「うーん……離婚するとか、寄るな化け物とか言われればお望み通り、君を食べて関係を終わらせていたところだったのだが……」

口を尖らせてそんなことを言うヴィルヘルミナ。彼女は良くも悪くも今まで一度足りとも嘘を吐いたことはないため、実際にあなたがその選択をすればそうしていたのであろう。

肝の冷える話ではあるが、そこそこの期間彼女と接してきたあなたはそうなることをなんとなく理解していた。彼女にとつて今のあなたとは“結婚した”という結果物に付随するラベルのようなものでしかないのだ。

「ふむ……人間相手に言わずともわかるとは、存外便利なものだな。私を離さなかった理由は畏怖だけか?」

やや眠たげな赤黒い瞳にあなたを映したヴィルヘルミナは、あなたの頬に手を伸ばす。直ぐにややひんやりとした彼女の手の温度があなたに伝わり、そのままそつと顎のラインをなぞられる。

彼女は確かに怖い。それは当たり前であろう。何せ彼女はあなたなど刹那の時間すら掛からずに殺せてしまうのだから。しかし、だからこそある種の諦めがつく。そして、彼女はあなたが結婚という関係を続けている限りは、絶対に殺すことはない。それ

だけはあなたにもよくわかる。

まあ、更に本音を言えば、人ならざる美女で性格的には快樂主義者かつ自己中心的だが、根はあなたの知る限りどんな者よりも真つ直ぐであり、固い言葉遣いにも関わらずフランクなギャップが可愛らしいからという理由も挙げられるが、流石にそちらを語る勇氣は彼女に嫌われかねないため無かつた。

「殺さないか……殺せないの間違いだ。何せ自分自身に嘘は吐かない質でね。結局、愉しくさえあればなんでもいいのだよ私は」

そう言うのと彼女はあなたの頬から少しだけ手を離し、指を一本立てて見せる。

「道化師<sup>ピエロ</sup>とは、己が笑うことも大事だが、何よりも他に笑われる者さ。笑い笑われ笑われ笑う。それこそ人間も喰種も問わない究極の大衆娛樂。我が生涯の花道。コクリア破りは笑えないノンフィクション<sup>ジョウ</sup>だと思うだろう？ ノンノン」

そして、彼女はそのまま指をゆつくりと振るうと、口角をニイと吊り上げて無理矢理やり過ぎなほどの笑みを作つた。

「笑っているのだ。皆内心ではね。誰もそれを表に出さないだけで、誰もがより強い刺激を快樂を……」笑い”を求めている。ニュースは連日大にぎわい。討論番組の舌戦は白熱。それはなぜ？ 最新の情報のため？ 身の安全のため？ 犯人を吊り上げるため？ 反喰種感情を煽るため？ はたまた金になるから？」



”まあ、金には確実になるがな”と言つて肩を竦めたヴィルヘルミナは、その直後に背中から甲赫の赫子を瞬時に伸ばして捻れるように腕に巻き付けるとあなたの首を掠めて宙で止める。

瞬間的に肌に触れ、首筋の皮を薄く引き裂いた赫子は一瞬でも酷く熱く感じ、実際にあなたの首から少しだけ染み出た血液が赫子の表面に数滴付着していた。更に赫子から明らかな熱が放出されると共に血液は蒸発し、蒸気となった極少量の血液が天井に焦げ跡を刻む。

水を瞬時に蒸発させ、他の物体を炎上させる温度まで気体を熱する恐ろしいほど高熱を帯びる赫子。コクリアを炎上させた能力の一端であろう。恐らくこの熱でさえ、まだまだ序の口だろうと不思議とあなたは感じていた。

「いや……いや違う！ 皆が笑いを求めているからだよ。皆笑いたいのだ。自己より無惨な他を認識し、自身はそれよりも確実にマシだったと笑いたいのだ。もつと強い刺激を欲し笑いたいのだ。己よりも格下の狂者を蔑み笑いたいのだ。それこそが、人間も喰種も有史以来あるいは以前から変わることなき唯一無二の根本原理」

それは満面の笑みで語られたとは思えないほど壮烈な独白だった。恐らく既にヴィルヘルミナはあなたを見てはいない。あなたの奥の奥、あるいは遠い遠い先か前を見ているのだろう。

「そんな人間と喰種に作られた世界など最初から腐り切っている。V<sup>ヴィー</sup>など居ようが居まいが関係はない。そんな者共にマトモな世界など望めよう筈もないのだ。だから私はどちらとも笑わせ、どちらとも殺す。そして、そこには素晴らしい笑いが生まれる……ああ……」笑いは楽しい”……。それが私という道化師<sup>ピエロ</sup>の有り方さ」

それだけ言い終えると、ヴィルヘルミナは甲赫の赫子を背に収納する。後に残るのは染みのような天井の小さな焦げ跡と、直ぐに生温くなつた熱風だけだった。

そんな話を聞き、彼女の熱さを体験したあなたはふと思う。

”なんでそこまで思想があつて取る手段が安価なんだろう?”——と。そう思うとやはり途端に彼女が可愛らしく見えてくる。

彼女から溢れた暖かさを感じつつ、依然として彼女を見るあなたに彼女は笑みを止めてじつと視線を合わせる。そして、向こうが折れたのか溜め息を吐くと少し眉を上げる。

「ふむ……逼真で脅したつもりだったのだがね。ここまで脅し甲斐がないとこちらも毒気が抜かれてしまう」

それだけ言ううと彼女は肩を竦め、寝返りを打つてあなたに背を向けた。

「はいはい、私の負けだ負け。少なくとも私が君と夫婦で居る限り、君の敵には絶対にならないさ。お生憎様、神を信じてはいないので、私の赫子にでも誓おう」

そして、彼女は「まだ、きもちわるい……」とだけ言い残してそのまま動かず、口も開かなくなる。

「ん……」

そんな彼女にあなたは一言「おやすみ」とだけ声を掛けると、彼女は背中からまた赫子を出して手のように小さく振る。やはり彼女は何気ない小さな動作が律儀で可愛らしいとあなたは考えた。

ヴィルヘルミナの最大の誤算はそもそもあなたが、彼女に惚れていることを理解していないことであろう。歪な結婚生活は始まったばかりなのだ。

## 胡乱な娘

ふと飲み物を取り出すために自宅の冷蔵庫を開けたあなたは、その冷蔵庫のタッパーに入っている赤々とした何かの生肉に目が止まる。

それはなみなみと血液が注がれた中に沈んでおり、明らかに肉類の管理方法としては間違っていることが見て取れるであろう。また、それが何の肉か知っているあなたは、怪訝な表情になりつつ身震いをした。

そして、リビングにあるパソコンを叩いている彼女——ヴィルヘルミナの前まで来ると、声を荒げて彼女に投げ掛ける。

「えっ……なに？」 ヴィルヘルミナちゃんの禁止リスト その3” を守って？ 冷蔵庫に血抜きしてない人肉を入れるな？ 他の食べ物に匂いが移る？ なんだア？ てめエ……」

そして、あなたの言い分を話した彼女は、口を尖らせて眉を顰める。どうやら彼女にとつても譲れないことらしい。

ちなみに”ヴィルヘルミナちゃんの禁止リスト”とは、ヴィルヘルミナが人間の妻としてきちんと夫婦を全うできるようにあなたが発案し、渋々彼女が了承した約束事である。最初は”夫婦のお約束”という名前だったのだが、彼女が安価で名前を募った結果”パツキン巨乳喰種姉貴の禁止リスト”になったためこうなった。まあ、約束という割には禁止事項ばかりだったため、強ち間違つてはいない。

「むー……いいじゃないかそれぐらい。血がひたひた滴るぐらいの肉がいいんだぞ。むしろ、色々な食べ物が芳ばしくなるのでは？ えつ、血なまくさ腥くなる……？ そんなー」  
人間からすれば当然の話だが、喰種からすれば食い違いがあるため、このように時々夫婦喧嘩とまでは行かない程度の軋轢を生むのだ。

とは言え、彼女が最大限譲歩していることもよくわかるため、あなたは彼女に提案をした。

「ん？ 人肉用のミニ冷蔵庫を買ってくる？ ふむ……まあ、それなら別にいいか」  
言葉に出されると、とんでもなくグロテスクなものに感じると思いつつ、あなたは適当な他所行きの服を着込むとリビングを後にする。

「のしー」

そんなあなたを見送るため小さく手を振りつつ、口でそう呟く彼女をあなたはまた可愛らしいと思いつつ、近場の電器店を目指すのであった。



「ねえねえ今、ヒマ？ 私と遊ばない？」

小型冷蔵庫を購入し、それを抱えつつ電器店を後にした直後、そんな声を掛けられてあなたはそちらに視線を向けた。

そこには茶髪の短い髪をした小柄な少女の姿があった。少なくともあなたよりも歳上ということはないだろう。にまにまと笑みを浮かべており、茶髪の天辺には3つの芽のようにくせつ毛が生えていることが特徴的である。

そんな彼女の無邪気で人を喰った笑みを見たあなたは、ふとそれが自身が知る者と重なるが、他人の空似だと決めつけ、少女には自身が既婚者で自宅に嫁を待たせているということを伝えた。

「ほあ……意外に一途……」

すると少女は目を点にして呆けた顔になる。しばらく首をかしげた少女は何を思ったのか手を叩き、ポンと小気味良い音が鳴った。

「まー、そうじゃなければ私が殺してたかもねー」

更に彼女は感心した様子で更に笑みを強め、あなたに詰め寄ってくる。そして、何を思ったのか、彼女はあなたから小型冷蔵庫を引つたくと、少しあなたから離れてこちらに手招きした。

小柄な少女が、十数kg以上はあるであろう小型冷蔵庫を軽々と持つ様を見て、あなたはやはり彼女は少なくとも喰種だと確信する。

「ほらほら！ 早くコッチに来ないとコレ貰っちゃうよー！ ママの大切な玩具<sup>ヒト</sup>？」  
最後の言葉を聞いて、疑問が半ば確信に変わったあなたは、仕方なく少女の後を追って、ビル街の裏路地へと誘われて行った。

人間の取り分け大きな街というのは不思議なもので、呆えているビル街の少し奥に入った裏路地では人通りが全くなく、日の光すら満足に届かない場所も多い。

空は晴れているというのにジメジメとした湿度と、どぶ板から上がってくるような何とも言えない臭いを感じながらしばらくあなたは少女を追い掛ける。

少女もあなたを引き離す気は無いようで、進んではこちらを振り向くことを繰り返して、しばらく進むと公園のような場所に入って行った。

正しくは廃公園なのであろう。裏路地にあるビルとビルの間挟まれるように存在するだけの価値を見出だせない小さな公園。遊具も滑り台と砂場とベンチだけという簡素なモノで、長いこと子供に使われた形跡は窺えない。そんな場所のベンチに彼女は体育座りで座ると、隣の場所をポンポンと手で示す。

「はい、おりこうさん」

少女の隣に座ったあなたは彼女にヴィルヘルミナの娘なのかと問い掛けた。

「うーん……仮に私が娘を騙る不審者だったら、あなたの命は既になくなっちゃってますから気をつけてくださいよー？ よかったのか？ ホイホイついてきて。私はノン



ケだつてかまわないで食つちまう喰種なんだぜ？」

口を尖らせてそんなことを言う彼女は目を赫眼に変える。どうも彼女の言動や様子がやはりヴィルヘルミナに似ていると思いつつ、全くもってその通りだと頭を搔く。

「まあ、私はあのスレで言われているところの”ターバンのガキ”や”チビちゃん”で間違いないよ。私が7歳の時だつたね。腐り蕩けた人間ばかり食べるのに嫌気が差して、美味しいもの食べたさに初めて襲つた人間が——人間じゃなくて来日ホヤホヤのマツマだつたんだよなあ……」

”いや、ありや反則でしょ。チートにも程があるつての”等と言いつつも少女は顎を触りつつ何処か懐かしげに眉を上げる。

「しかし、君スツゴいねー。私は全くあなたに興味は覚えられないけれど、人間なのにまだお母さんに殺されないだなんて勲章ものだよー？」

そう言われ、あなたは全くその通りだと考える。ヴィルヘルミナは殺人どころか同族殺しすら躊躇するような者ではなく、あなたは綱渡りを続けて彼女との日常を成立させていることを改めて自覚した。

「まつ、聞きたいことがあつたら何でもは答えないけど、程ほどに答えてあげる。あんなに愉しそうなお母さん久し振りに見るからねえ。精々いっぱいあなたには足搔いて欲しいな——」

何処かで聞いたような言い回しや、トゲのあることを言いつつ少女はあなたからの言葉を待つ。どうやら彼女は一応、善意でここにあなたを連れてきたというところらしい。

ならばとあなたはスレッドに載せている経歴は全て真実なのかをまず聞くことにした。

「ああ、あれねえ……うーん、だいたいあつてるんだけど……まあ、嘘は吐いてないかな？ 肝心なことを言っていないだけで」

まだ、ヴィルヘルミナには隠し事があるのかとあなたは何とも言えない気分になる。まあ、120年を超える生涯の全てを話してくれるほど好感度がないこともまた事実のため、あなたは同時に納得もした。

また、あなたはヴィルヘルミナが母親としてはどのような人物なのか少女に質問を投げ掛ける。

「たぶん、君が知るママと大差ないと思うよ。ぎつくばらんで、突拍子もないこととして、快楽主義者のクセになんだかんだ献身的で、自尊心が高い割には身内に甘い……だいたいいそんな感じ」

どうやら特にキャラクターを作っているというわけではなく、素でヴィルヘルミナはあのような言動と性格をしているらしい。あなたはやはりひねくれていると思うと共になんともなく可愛さも覚えた。

あなたは次にヴィルヘルミナと少女の名前について聞く。ヴィルヘルミナが偽名を使う理由と、少女の名前についてである。

「ないよそんなものは。ママも私も産みの親に名前を付けられなかったから。だから名前前って言うものは私たちにとつてまるで重要なことじゃない」

そう少女に言われ、あなたはヴィルヘルミナが少女を拾った理由。そして、どこことなく少女が彼女に似ている理由を知る。

「ママはある意味、世界全てを愛している聖人だけど、私にとっては家族と自分が全て。他は全て無意味で無価値。後は楽しめればなんでもいいの」

そう言う少女は背伸びをしてベンチからひよいと退いた。

「まっ、そう言うわけで億が一でも私のパツパになる可能性があるなら一応、挨拶ぐらいはしておこうかと思ってね」

そして、少女は「ちなみに」と呟き、背中から多数の赫子を伸ばすとあなたへと襲い掛かり——その瞬間あなたの鞆から何か飛び出し、それが少女の赫子の全てを受け止めた。

『オいたはソコママでダむスメよ』

それは数cmの肉々しい球体であり、その全面から伸びた無数の赫子が少女の赫子を全て受け止めていた。また、肉の玉からは掠れて水音を含むようなヴィルヘルミナの声が発せられている。

更に肉の玉は水が溢れ出すように押し広がると、どことなくヴィルヘルミナに似た血の氷像のような形を取った。それは赫子を受け止めたまま佇み、一切他の動作を取らない。

「私が君を見つけられたのは君からママの匂いがしたから。それママの赫包のひとつね。ママの赫子の化け物みたいな赫子はこんな風に分離行動も出来るの」

”私でもちよつと手強く感じるぐらい強いし”と言いつつ少女は赫子を戻す。するとヴィルヘルミナの赤い似姿はパシヤリと水音を立てて崩れ落ち、後には肉の玉だけが残った。

あなたはその肉の玉を拾って鞆に戻しつつ、ヴィルヘルミナが”私だと思って肌身離さず持つように”と言つて手渡してきた物体であることを思い浮かべ、万全の体制で護られていることを実感する。

「じゃあ、そろそろ私はこの辺りで。こんな善人みたいなことする柄じゃないんだけどねー。今日はママに免じて特別」

それだけ言ううと彼女は軽くスキップをしながら公園を後にする。そして、入り口まで

差し掛かったところで立ち止まると、あなたへと勢いよく振り向いた。

「あー、そーそー」

口に手を当てて悪戯っぽい笑みを浮かべ、どことなく人を小馬鹿にしたような表情を浮かべる少女は本人の性格が滲み出ていると同時に、やはりヴィルヘルミナの娘なのだとあなたは感じた。

「別にママが日本に来たのは20年以上前……というか少なくとも40年は前だし、チビちゃんが一人しかいないとは一言も言っていないからそこんとこヨロシクね？」

最後に少女は小さくあなたに手を振りながらこんな言葉を送った。

「エトしゅんは私よりこわいぞー？」 妹妹によるびく」

そして、その場から少女は居なくなる。しばらく彼女の言葉や今まで起きたことを整理したあなたは小型冷蔵庫の箱の上に、彼女が残して行った物があることに気づいた。

それは「拜啓カフカ」というタイトルの文庫本である。背表紙を見るとたかつきせん「高槻泉」

という名前があり著者名が見え、最近話題の売れっ子小説家であることに思い当たる。

とは言え、特にこう言った芸術性に重きを置くような純文学にはあまり明るくない上、少女の忘れ物だと考えたあなたは読む気にはなれず、次にあったときに返そうと考

えつつ帰路についた。



「あなたあ！ おかえりなさあい！ ロロナするう？ ソフィーにするう？ それとも……ラ・イ・ザ？」

玄関を開いたあなたは、目の前に聞き覚えのあることを言いつつ、見覚えのある裸工

プロンをして、何故か3本のゲームソフトを掲げたヴィルヘルミナを認識した。

どうせまた安価でも取ったのだろうと考え、それとなく聞いて見ると彼女は屈託のない笑顔をやや焦りを浮かべたようなニヤケ面に変える。

「うん……安価取つたらね……。アトリエシリーズのソシャゲ以外のナンバリングタイトルを全作品プレイすることになったの……」

あなたは少し思案し、確か移植版やDX版を含めずに30タイトルほど出ているような気がしつつ、ふとりピングの方を見ると堆く積まれたゲームソフトの山と、それをプレイするためであろう新旧様々なゲーム機の箱が置かれていることに気づく。

どうやら既にか買い揃えたらしい。無駄に洗練された無駄のない無駄な行動力である。

「ただでは転ばんぞ……二〇動にアトリエ淫夢のプレイ動画をうPしてやる……」

”私の編集技術と淫夢フォルダとプレアカが火を吹くぜ……”等と言いつつ彼女の表情は決意に満ち溢れていた。

掛かる莫大な時間を考えての武者震いか、裸エプロンで正座したままふるふると震えている様子に世界最悪のSSSレート喰種の面影は見る影もない。

”というか、この喰種は淫夢フォルダを集めているのか”等とあなたは思いつつ、彼女の好きにさせながら運び入れた小型冷蔵庫に人肉を移すのであった。

## いつかの24区

100年以上前にドイツの片田舎から始まった私の物語は5歳頃に覚えた純粋な食欲と、元来の組織への帰属意識の薄さから始まった。

そもそも人々を見てもただ単に繁殖地とだけしか見ることがなく、血の繋がった家族の顔すら知らなかった私が、”人間を必要以上に獲ってはならない”等と抜かす下らないコロニーを破壊したのは当然と言えるだろう。

私はまず殺した大人たちを喰らった。人間ほど美味ではないが、悪食な私はその味も癖があつて美味に感じ、人間も喰種も等しく食することにした原点でもあるだろうな。

それから私は人間にも喰種にも忌み嫌われて追われるようになったが、その一切を殺し喰らう内にそれらも次第に落ち着き、逃げられることの方が多くなる。それほどまでに私は生まれつきただ異常に強く、十代前半で既に半赫者へと至っていたのが恐怖だったのだろう。

そのうちにドイツCCGが設立され、私がSSレートに指定されもしたが、そのよう



なことを言っていられない事態が起こる。

忘れもしない1914年頃から始まった第一次世界大戦だ。

ドイツは外国との負け戦の為に内部の喰種へ意識を向けている暇が無くなったのだ。それを好機に私は更なる喰種及び人間狩りを行い、少なくともドイツでの記録上では最初の赫者へと至る。

その頃には何故か一部の快楽的あるいは殺戮的な喰種たちや、破滅的で狂気的な人間たちから半ば崇拜され、私を頂点とするカルト団体“Rotter Nebel”——赤い霧”が設立。ドイツ及び周辺諸国は私と構成員の無差別捕食によつて多大な出血を強いられ、それにより私は世界初のSSSレート喰種に指定される。

その後の第二次世界大戦においてドイツ——いや、ナチスドイツがほぼ一国にも関わらず、他国と対等以上に戦争が出来ていたのは、何処の国よりも熱心かつ狂氣的に喰種を徴用していたからだ。何せ、あそこには幾らでも喰種に喰わせられる人種が居り、人間のトップも喰種の人種単位としての優秀な能力を高く評価していたため互いに極めて協力的な関係を結んでいた。

いやあ……今思い出しても愉しかったなあ……あの頃は。

喰種親衛隊”最後の大隊”大隊長親衛隊上級大佐……それがこの私だった。今のご時世なら考えられもしないだろう？ それが罷り通つたのだよあの時代はな。うふふ

……本当に最高の時代だったさ。

歴史が証明し、人間が御した最凶最悪の喰種指揮官。世界を変えるまでには及ばなかつたが、ヨーロッパを恐怖のどん底に陥れるぐらいは出来ただろうな。クククツ……だからこそVは多少の被害に目を瞑つてでも私が欲しいのだ。何せ私……強いからね？

ちなみに記念の軍服はまだ保管しているぞ？ 嬉しくて沢山貰つたので十何着かぐらいな。赫子の袖が可愛らしくて機能性もあつてよい。

はてさて、時代と必要に依じて純粹悪足るこの私すらが人間の正義となるのならば……そういう意味での喰種と人間の線引きは一体どこにあるのだろうか？ 結局、変わらんさ。喰種も人間もCCCGも私も。

それから中国に渡り、いつものように無差別捕食を繰り返していると？ 糞工などと呼ばれるようになったが……まあ、君が産まれる前の話だろうし、この辺りはどうでもいいな。そこは飛ばして日本に来てからの話をするか。

大型タンカーでバナナと一緒に日本に来た私は早速、喰種の魔境だという東京に来て——小さな子供の喰種に刺された。意識をどこにも向けずに油断していたことが理由の八割だが、それでも私に傷を付けるとは実に愉快。チビちゃんの将来性を感じて子育てをすることにしたのは当然の帰結と言えよう。

うんうん、そうだ。私は子を持つ母なのだ。君と同じくね？ 君のように夫を持ったことは無いが……家族のためにこれほど君が私に食い下がれたのを見るに、何か機会があれば持つてみるのも吝かでもないと思うよ。

まあ……本当の日本に來た理由は、”隻眼の王”という大層強い喰種が、日本にいらしいという噂を耳にしたため、喰らい殺しに來たのだが……私がヨーロッパや中国で暴れ回っている内に崩御したか身を隠したらしくてな。つまり私は不完全燃焼のまま、またそんな半喰種が現れないかなーと思いつつなんとなく日本にいるのだ。かなしみ。はてさて、そして何の因果かこうして君は倒れ、私はここにいて無駄話をするこゝで、君が命を賭した時間稼ぎは大成功したと言えよう。よかつたなあ……24区で私に会いながら部隊のほぼ全てが生き残るなど快挙だぞう？ 君たちの……いや、君の悪運の強さは大したものだ。

と……まあ、少し脱線したが、私の身の上話はこんなものだ。少しは暇潰しになつたか？

喰種捜査官の——”真戸微”とやら。

まどかすか



「話していると少し喉が渴いたな」

地に倒れ伏し、最早腕を動かす体力もない女性——真戸微の隣で、肉々しいRc細胞壁に背を預け、膝を立てて座り、聞いてもいないことをペラペラと語った真性の怪物はそう溢した。

丸手齋を班長に24区もぐらの掃討叩きを行った結果、出て来たのは、喰種C対策局Gで最重要駆逐対象にして、特等捜査官4名以下で対処することが禁忌とされている他とは一線を画す

るSSSレートであるの——”レッドプール”という喰種だった。

最も実力のあった微を殿に隊は撤退出来た筈であろう。尤もレッドプールに始めから隊の追撃をする気があったのかは甚だ疑問が残るが。

「ふっ……私はお前のスピードリンクか……」

微は小さく嗤いつつ大きな溜め息を吐く。実際のところその通りだろう。

通常の喰種とは異なりマスクをしておらず、代わりに軍帽を深目に被りながら黒い軍服を纏い、艶やかな金髪をした異質な喰種であるレッドプールは一切の手傷を負っていない。

同期で比べても頭ひとつ抜けて優秀な喰種捜査官の微が、自身のクインケが砕け散り、五体を投げ出して動けなくなるまで交戦したにも関わらずだ。そうになると、未練はある筈だがいつそのこと笑えてすら来てしまいうらしい。

しかし、そんな彼女を余所にレッドプールは何かを考え込むように動きを止め、すぐに動き出して口を開いた。

「……ああ、勘違いさせたな。コーヒーを飲みたくなっただけだ。私は少食なのでな」

そう言ってレッドプールは大袈裟に肩を竦めた。その言葉に微は鼻を鳴らし、それを返事と捉えたレッドプールは口を開く。

「考えても見ろ。有史以来どれほど人間の暴君が大食漢だったのかを。権力の傘の下に

人間がどれほどの人間を喰らって来た？ それを一体何度繰り返し、血で血を洗い続けた？ きつと私が生きている内に殺した人間の数など、その一人にだって及んではないぞ？ 所詮、私など少食で浅慮の個人に過ぎん」

「……………」

微は閉口する。少なくともレッドプールという喰種は悪戯に殺戮行動を繰り返すのではなく、喰種らしからぬ教養を持ちながら確固たる信念の果てに殺戮行動を起こしていることに気づいたからだ。

伊達に100年以上CCGの追撃をもつともしていない喰種ではないのだろう。

「君らが悪魔と、化け物と、何よりも喰種と呼ぶものは誰一人として人間ほど恐ろしく残酷な者はいない。最も異端な私ですらそう思うのだからね」

そして、同時にこの喰種と話し続けるのは危険だとも警鐘を鳴らす。この喰種は価値観までも犯そうとするのだ。当人は自覚しているのかしていないのか、カルト教徒が集まった理由のひとつにレッドプールの言葉に感化されたのだろうとも考えられる。

「そもそもCCGが正義を振りかざして喰種を駆逐することもまた人の深い深い業だ。まず、君らが決めた名のグールとはアラビアの悪魔。それを踏まえて君は聖書を読んだことはあるかね？ 新約聖書がいいが、ユダヤ教典でもコーランでも何でもいい。新約聖書においてイエス・キリストは悪霊を祓う術を与えたが、悪魔を否定することはして

いない。悪魔は祓うが、退治はしないのだ。悪魔の存在の否定は、その存在を許した神の全能性の否定になるからね。自由意思を持つものは悪魔にも聖なるものにもなれる……にも関わらず、対話も何もせず、人としても扱わず、ただ獣のように駆逐する貴様らはそもそも在り方から神に反しているのだ。そんなものどもにとやかく言われる所など何処にもないよ」

例えに聖書を用いる辺り、やはりヨーロッパ系の喰種なのだろう。レッドプールの微を見ていいのか、そうでないのか不明な独白はまだ止まらない。どうやら好戦的で殺戮的に加えて演説や話し好きな手合いらしい。

「傲っているのはどちらだ。私か？ いいや、私は身の丈に合った振る舞いをし続けているだけだよ。悪魔は悪魔らしく、君らが名付けた喰種という悪魔のようにね。私は昔からずっと変わらんさ。革新だ、正義だ、新しい世だ等と……時代の毎に変わるのには君ら人間たちだ。そうやって振り回そうとする方が……烏滸がましいとは思わないかね？」

「そうやって……これまで自分の行いを正当化してきたのか……」

「正当化……？ ふふっ……いやいや、むしろ逆だよ。私は常に悪。純然たる悪だ。そうでなければ君のような強き者が少しでも躊躇してしまうだろう？ そんなの私が面白くない。いつだって最高に最悪な殺し合いをしたいじゃないか。殺したり殺された

りしたいじゃないか」

”ちなみにヨーロッパでは神を持ち出して煽ると直ぐに誰もを怒らせ易く、ナチス時代はユダヤ教徒を炙り出すのにも使えたからな。日本は無神論者が多過ぎてつまらん”等とレッドプールは笑みを浮かべながら続けて話す。

自他問わず生死に執着しない超越した喰種。心身共に余りに完成した殺戮の個。その姿は喰種からすれば本当に赫者などではなく覚者なのかもしれない。

「……………そう言う割にはよく喋る……………」

「まあ、そうだが……………だってもう君は二度と戦えない身体じゃないか？」

そう言つてレッドプールは冷めた目で地に伏す微の腰部に目を止めた。そこには血が滲み、明らかに浅くはない傷が刻まれていることがわかるであろう。

実際に微はレッドプールによって致命的な一撃をその場所に受けたために下半身の感覚が全くない。レッドプールがここで彼女を殺そうとそうでなからうと彼女は既に詰んでいたのだ。

そして、微がいつもお守りとして持っていた家族の写真を手に取り、小さく溜め息を吐く。その姿は酷く人間らしく見えた。

「それに君は母親だ。同じく子を持つ身の好<sup>よしみ</sup>として私は君を殺さん」

「黙れ……………どこまで愚弄すれば気が済む……………！」



「まあ、そうだろう。だが、この場において私は君の神だ。生かすも殺すも私の自由。そして、生をチラつかされた君は自害も出来ない。ほら……私は神様だろう？　神など所詮——」

「おいつ、お前！　ソイツを喰わないんだな？　なら俺たちにくれよ！」

そこまで言ったところで、微と戦闘が終わってから話し込んでいたため遠巻きで眺めていた数体の喰種が現れ、レッドプールの言葉を遮る。

それを見た微はこの喰種らに喰われると確信する。何せレッドプールは自身は殺さないと言ったが、他に殺させないとは言っていない。レッドプールは言葉の穴を突く悪魔のような喰種であることは、短い間でも多少なりと理解していたからだ。

相変わらず笑みを浮かべているレッドプールは何が面白いのか笑みを増すと、喰種たちに声を掛ける。

「ああ、いいぞ。私は彼女を殺さないからな。君らに喰われるのもまた天命だろう」

「ありがてえ！　もう暫くなんも食べてねえんだ！　恩に着るぜ！」

「それはどうも」

そんな少しの会話後、薄汚れた風貌の喰種たちは微を取り囲む。

微は赫子を喰種たちの足の間から絶えず笑みを続けるレッドプールを眺めた。そして、喰い殺されることを否応にも受け入れ、最期に家族の安否と様々な後悔、そして思

い出を駆け巡らせながら目を瞑る。

その直後、微へ向けて四方八方から喰種が突き立ち、その血肉を存分に抉り穿った――。

――レッドプールの赫子が、数体の喰種たちを。

彼女の肩部の羽赫及び肩甲骨下部の甲赫が捻れるように融合し、鱗赫に近い形状と化した二本の赫子は、軍服の袖を通って伸び、袖口から出た直後に一本が数百本もの触手のように枝分かれし、目のない蛇のような形状を取ったそれらが喰種たちの全身を貫いていた。

瞬時に身体中を穴だらけにされた喰種たちは何が起きたのか理解すらしていない表情で皆絶命している。そんな骸を触手に付いた口のようなものが開き、グシャグシャと音を立てて咀嚼する音が暫く響き渡り、みるみる内に体積を減らす。

赫子でモノを喰う。どれほど貪食な生涯と、食に対する異様な執着心を持てば、赫子がその性質を持つというのだろうか。

「まあ、そうは言ったが……同時にこの場の神は私だとも言った筈だ」

素晴らしいながらレッドプールは足を崩して立ち上がると微の前まで歩いて来る。そ

して、随分と小さくなってしまった喰種たちの骸へ更に声を掛ける。

「教養がないのはいい。喰種故に致し方ない。食欲を満たしたい衝動も構わない。喰種の本能なのだから。しかし、無礼だということだけは頂けないな。まあ、それ故にこうして頂いてしまった訳だが……」

そんな事を言つて肩を竦めた頃には喰種たちの姿は、地面にぶちまけられた人数分にしては僅かな量の血とボロの衣服を残し全て消滅していた。

「さて……」

「うあ……ぐっ!？」

レッドプールの枝分かれした赫子の一本が微の腰部の傷に宛がわれる。そして、赫子の口が開き中から舌のようなものが内側から傷口を掻き乱す痛みに微は声を上げる。

しかし、直ぐにそれは終わり、気づけば破れた衣服から覗く傷口は跡形もなく治癒されていた。

「足は治してやらん。私と君の出会いの”記念と呪い”だからね」

「ふざけたことを……これ以上私に何をする気だ……?」

すると更にレッドプールは微を両腕で抱える。それはお姫様抱っこ等と呼ばれるものであり、そのままレッドプールは何処かへ歩き出す。

しかし、微には抵抗する力も動かせる足もなく、それにされるがまま運ばれるしかな

いであろう。微の問いにレッドプールはさも当たり前のような様子で小首を傾げながらポツリと呟く。

「……？ 迷子の友人を家に返すことに理由が必要か？」

「なに……？」

微はあまりにも突拍子のないレッドプールの言葉に思わず呆けた声を上げる。しかし、それを疑問と受け取ったのか、彼女は更に言葉を続けた。

「不思議か？ だが、友人とは、出会いとは、元より数奇なものだろうか？ なんだったか……ああ、一期一会、もしくは袖振り合うも多生の縁だ。ククツ……人間は言葉と思想だけは良いものをよく作る」

”まあ、とりあえず……ハトの本部にでも連れて行くか”等とレッドプールは呟きながら一際良い笑み浮かべ、目と口の端を三日月のように歪めた。

「とにかく……君と私はもう友人だ。真戸微。何せ、ここまで楽しめたのは久方ぶりだからな。近頃は君<sup>ハト</sup>らも喰<sup>グール</sup>種も根性がなくてつまらん。私にここまで食い下がった者は本当に久々だ」

殺戮者であり、快樂主義者であり、破滅的でありながら義理固く、純粹なまでに己の意思にただ真つ直ぐな悪魔。それこそがレッドプールという喰種。

いつしか微は彼女へと向けていた敵意が薄まり、憎悪や恨みのようで、畏怖や敬愛の

ようでありながらそのどれでもない不思議な感情に駆られる。

「もしまた私と戦いたければ……」呪い”を解きたくば私を探すといい。そうしたらその足を綺麗に治してやろう。それ以上を望むのならそれもまた考えよう」

少なくとも既に微はレッドプールをただの駆逐対象のSSSレート喰種として見ることは出来なくなっていた。

「私としては……君とまた死合いたいものだ。なあ……？ 真戸微」

足の傷が記念なのならば、それこそ彼女が言った”呪い”なのかも知れない。

これは今よりも少し昔、気紛れな喰種と喰種捜査官の最初のお話。



「つらたん」

あなたの目の前でゲームのコントローラ片手に、TV越しの机で突っ伏している芋ジャージ姿の女性喰種——ヴィルヘルミナはとても情けない言葉を吐いていた。

少し前の安価で決まったアトリエシリーズ全作品プレイ及び何故かそれに自身で勝手に付け足した実況動画を投稿すると言うことが、想像の倍以上に苦戦しているらしい。

「これやべーわ……頭ん中が一日中淫夢例のアレ語録まみれになるわ……誰だよアトリエ淫夢実況上げるとか安価出しやがった奴……」

そこはヴィルヘルミナ自身が勝手に付け足した部分である。完全自業自得以外の何物でもない。

「まあ、手足は足りてるんだけどさ……」

『カエツテコレタヨ！ ハツハツハイキ（ゼツメイ）』

『イイダロオマエセイジンノヒダロ（イミフメイ）』

『コンナモノ!!（コナモノ!!）』

『イヤダイヤダ！ オヤサイナンカタバタクナイ!』

『カワイソウニ・キンニクガタリナイカラソソコトファイウンダネ……』

リビングに隣接する和室を見れば、ヴィルヘルミナが何処からか運び込んで来た五台のPCが並び、その全てに彼女の似姿をした赫包かつ赫子の化け物である人型実体が座り込んでおり、うわ言のような言葉を呟きながらそれぞれ動画編集をしていた。

地獄みたいな光景である。しかし、二週間もすると流石にあなたは慣れた。悲しい適応であることは想像に難しくない。

実際、30分超えの動画時間の淫夢実況動画を1日に少なくとも3〜4本投稿するという人智を超越した動画投稿速度を維持しており、スレ住民や視聴者から心配されているが、彼女に言わせればまだまだ序の口とのことである。

「ん……なんだ気が利くじゃないか」

『アリガトナス!』

『イイゾゝコレ』

『ウレシイダルルオ!?!』

『クオクオア…』

『チガウダロオ?』

”実はDMだけじゃないんだろうか?”等とあなたは大変失礼なことを思いつつ、疲れを労うために彼女の為に購入した最高級の珈琲を赫子の分も含めて六つのコップに淹れてそれぞれに手渡す。

「うん……そうだな。少し気分転換に夫婦つぼいことするか」

そう言って彼女は立ち上がり、芋ジャージのフアスナーを全開にし、下着すら着ていない裸体を露にするとあなたをそつと胸に抱き寄せる。

そして、一切臆することのない真剣で純粋な眼差しでそのまま一言だけ言い放った。

「抱かせろ」

『ハクシン』

あなたは相変わらず子供のような夫婦知識に加え、男らし過ぎる言葉に彼女元来の不



器用さを覚えつつ、そこもまた可愛らしいと思いつつながら言われるがままに寝室に向かうのであった。

【赤ちゃんは】SSSレート喰種だけど質問ある？【どこから来るの？】

【赤ちゃんは】SSSレート喰種だけど質問ある？【どこから来るの？】

1：東京喰種

キャベツ畑でコウノトリさんが君のママをファックして産まれるのだよ

2：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

あまりに汚すぎる

3：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

例えで例えろ

4 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そんなことしちやダメだろ(戒め)

5 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

包んだオブラートでファックさせようとするな

6 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんだこれはたまげたなあ……パツキン巨乳喰種姉貴ですね……間違いない

7 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

こんなこと言う人妻はわからせなきや……

8 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前がママになるんだよ!

9 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ふあつきゅー

10：東京喰種

童貞が性の何を私に教えるっていうんだ？

11：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やめないか

いきなり正論で殴るのは

12：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ど、どどど童貞ちやうわ!!

13：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

戦争だろうが……。疑ってるうちはまだしも、それを口にしたら……。戦争だろうがっ……。！ 戦争じゃねえのかよっ……。！

14：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

無差別攻撃は止めロツテ！

15 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

クラスター爆弾は条約違反なんだよなあ……↑悔い改めて↑

16 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種姉貴だって処女じゃないのにお前らと来たら……

17 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

(言葉の切れ味が) 太過ぎるツッピ!

18 : 東京喰種

さて、スレも温まったところで早速本題に行こう。今日は旦那に”人間と喰種の子供はできるの?”等と聞かれたので、それについて答えて行こうと思う

お前らも喰種の彼女が出来たときに使える知識だな

19 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ゼロに何を掛けてもゼロなんだよなあ……

20：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
人間でも喰種でもいいので彼女をください……

21：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
喰われるのが落ちゾ

22：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
温めたんだよなあ……

23：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
結婚兄貴は氏ね

24：東京喰種

さてさて、まず喰種は胎生で人間と同じように繁殖する。一度に産まれる児の数や妊娠期間もほぼ差異はないな。ぽこじゃか増える訳ではない

25 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そこから話すのか……

26 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

戸棚のウラはグールの卵でいっぱいだー!

27 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

”ぼこじやか” って表現はじめてみた どの生まれの人?

28 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

誰だ、グールの卵なんて言ったやつは 留年させるぞ!

29 : 東京喰種

>>27

ドイツ

30 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なるほどジャーマンだけにか

31：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

山田くん座布団全部持つって

32：東京喰種

動物のお医者さんすき

33：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

話してる内容より気になることを呟くんじやない

34：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種姉貴はペット好きなん？

35：東京喰種

>>34

大好きだぞ。何せ現在進行形で大きなペットを飼っているぐらいだからな



旦那という名の

36：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ヒエツ

37：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やっぱりな♂

38：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そんな気はしてた

39：東京喰種

小粋なグルルジョークはここまでにして本題に戻ろう。先に言っておくが、人間と喰種の間の子供を作ることは可能だ

40：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

結婚兄貴はペットだった……? ?

4 1 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おう、早く孕むんだよあくしろよ

4 2 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

本当のマツマにならなきゃ……(使命感)

4 3 : 東京喰種

しかし、異種族間の交雑は母体が妊娠する確率自体が低い上に、母親が喰種であれば母体が胎児を吸収してしまうので生まれることはほぼなく、母親が人間の場合は一応可能だ

4 4 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

えっ、つまりパツキン巨乳喰種姉貴は……あつ(察し)

4 5 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

仕方ないね……(許容の心)

46 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

結婚兄貴が女かかも知れないダルルオ!?

47 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>46

あ、そつかあ……(納得)

48 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>46

男の人は男の人同士で、女の子は女の子同士で恋愛すべきだと思うの

49 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ミミちゃんハウス!

50 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

まあ、実際結婚兄貴とは言うが、あのエロ画像だと細い背中ぐらいしかわからないか

ら性別不明なんだよな……

51：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
男性器確認できず

52：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
結婚兄貴は野獣先輩だった……？

53：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

・男性器確認できず

・大胆な告白は女の子の特権

・東京在住

・まずうちさあ、屋上あんだけど……焼いてかない？ あー、いいつすねー（コクリア全焼）

・彼女がいた（当時の年代から見ても既に既婚者になっていても可笑しくない）

・嫁が淫夢厨（淫夢語録しか喋れない野獣先輩の嫁が自然に淫夢語録を喋ってしまうのは当然）

つまり野獣先輩は結婚兄貴であり、パツキン巨乳喰種姉貴は遠野。Q. E. D. 証  
明終了

54 : 東京喰種

>>53

ガバガバアナルグラムがない、やりなおし

55 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前がやり直し要求するのか……

56 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種姉貴は既に淫夢ファミリーの一員なのかもしれない

57 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>56

素材が綺麗過ぎるから失格

58：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ホント、パツキン巨乳喰種姉貴って見た目だけは別の星の王女様みたいだもんな……

59：東京喰種

>>>58

屋上

60：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

うーん、この

61：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

口さえ開かなければなあ……

62：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

”一応”可能ねえ……どうせとんでもない穴があるんだろ。騙されんぞ

63：東京喰種

>>>62

無論だ。例えば人間の母親が、喰種の父親で孕む事が出来ようともその生育には喰種の栄養が必須で、無ければ餓死してしまう

64:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
うわあ……

65:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ヴェツ!

66:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
止めてくれよ……(恐怖)

67:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
食事中なんですけど……

## 68：東京喰種

要するに人間のマツマは妊娠中に最低でも月1〜2回程の頻度で人肉を接種しなければならぬというわけだな。うーん、素晴らしきかな母の愛。喰種と人間の間の子――半喰種は産まれる前から確かな愛を受けたという証明だね

69：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

聞いてないんだよなあ……

70：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

愛まで歪んでるのかパツキン巨乳喰種姉貴は……（啞然）

71：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

安価で結婚するような奴が歪んでないわけないんだよなあ……

## 72：東京喰種

ちなみに喰種の肉を食うのはオススメしないゾ。喰種は人間の10倍近いRc細胞を持っているため、濃いあるいは高過ぎる栄養価は胎児には返って毒となる。故に安心



して共食いに勤しむがいい

73 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

だから聞いてねえって言ってるんだろ!?

74 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

いつたいどう育てられたらこんな歪んだ娘になるんですかね……

75 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おそろしい……でも それ以上に哀しい子…… 日常が地獄だったはず……

今こうして笑顔でいられるのが奇跡的なほどの……

b y ビスケツトIIクルーガー

76 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

笑顔 (アルカイツクスマイル)

77 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

## 笑顔（愉悦部）

78：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

笑顔（ニチャア）

79：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

地獄どころかコイツが悪魔と化してるんだよなあ……

80：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種姉貴を嫁にして数ヶ月以上過ごしている結婚兄貴って実は凄まじい  
いのでは？

81：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

しかし、子供を産むために十数人も犠牲になるとやっぱり共存とか難しいねん  
な……

82：東京喰種

>>>81

ん? いや、月一度に摂食する人肉の量は精々150〜200g程度。そうさな、キチンと冷凍保管しておけば一人分も肉は使わんよ

83: 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
マ?

84: 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
はえー、喰種の赤ちゃんって燃費いいんすね

85: 東京喰種

いや、これは別に赤子の喰種に限った話ではなく喰種全般がそうだ。なので、節制さえしていれば平均的な人間の1人分の死体で、喰種コミュニティの当面の食事が賄える

86: 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
マジかよ、そのわりには喰種絡みの事件起き過ぎなような……

87：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
役に立つ時が来たぞお前ら

88：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
せめて最期は美少女の喰種に……

89：東京喰種

>>>88

φ | ( ^ q ^ ) | φ

90：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
お前じゃねえ座つてろ

91：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
パツキン巨乳喰種姉貴は頭から丸飲みにされそうでこわい

92 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
絶対全部身体喰われる

93 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
申し訳ないが、ババアはNG

94 : 東京喰種  
全くお前らと来たら、折角こんな超絶美少女に食べられる(意味深)機会があるとい  
うのに恥ずかしがり屋さん共め

>>93  
貴様は犬の餌だ

95 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
こわい(直球)

96 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
パツキン巨乳喰種姉貴の容姿で美少女は流石に無理があり過ぎる……

97：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

いや、確かに若くて超絶美人なんだが、美人過ぎてな……

98：東京喰種

>>>86

まあ、その辺りは喰種の思想的な比率の問題だろうな。あくまでも大雑把な参考程度だが――

40% 人間と共存して細々と生きる

30% 嫌々ながらも折り合いを付けて共存している

25% 人間に敵対的

5% 快樂主義者や異常者を含むその他↑私こ→こ←

こんな感じだな。基本的に喰種の大部分は人間に友好的とまでは行かないまでも、波風を立てぬようにひっそりと生きている。まあ、基本的に誰だつて争いたくはなからうな。ましてや同じ程度の知能、思考、心を持つ生き物相手ならば尚更だろう。

そのため、CCGと正面から争つて二ユースになるような奴らは少数派だな。CCGに親兄弟や仲間を殺された、下等生物にかしず傳くなど御免被る、殺すことに快樂を覚える、

もつと沢山美味しいモノを食いたい等々様々な理由で人間を殺し回っている

99：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

マジかよ東京行つて喰種の嫁探して来なきや……（使命感）

100：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種姉貴はその中で一番やべー奴らか……うん、知ってた

101：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

真偽は兎も角安価でコクリア襲撃したり、たらふく蕎麦食べたりする奴だもんな。快  
楽主義者過ぎる

102：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんだつていい人外娘の嫁を得れるチャンスだ！

103：東京喰種

ああ、ちなみにだが、普通に上手くやればワンチャンあると思うぞ。何せ喰種的生活

水準は浮浪者レベルでも普通だからな。むしろ、生活水準の高い喰種は血で血を洗ってその暮らしを会得している者が多いため危険だ。逆にマトモに人間を殺す精神もないようなお優しい喰種は、識字どころか生活すらままならないほど低い生活水準をしていることが多い。そのため、拾って世話をすれば直ぐになつくかもしれないぞ？

あつ、ちなみに喰種は人間を獲りやすい個体が進化の過程で必然的に残りやすいため、基本的には美男美女ばかりだぞう？ 後は自己責任だ

104：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

閃いた！

105：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

(CCGに) 通報した

106：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

出たつ！ パツキン巨乳喰種姉貴の予防線だ！

107：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。



東京さ行くだ……

108 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

養わなきや……(使命感)

109 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ヤメロオ!(建前) ナイスウ!(本音)

110 : 東京喰種

@  
「 さて、他に話す事と言えば……ああ、半喰種についてももうすぐくえrちゆいおp

111 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

何があつたパツキン巨乳喰種姉貴?

112 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種姉貴がこわれちゃった！  
いつもか

113：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
遂にだな……思ったより遅かったな

114：東京喰種

誤送信すまん。膝の上にいるチビチビちゃんが構って欲しいと少し悪戯して来てな。  
良い子だからもうちよつとだけ大人しくしてなさい

115：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ああ、そーいや子供いるんだったもんな

116：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
連れ子かあ……そそる（迫真）

117：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

性癖のデパートかよパツキン巨乳喰種姉貴はよお!?

118:東京喰種

それで半喰種だったな

半喰種とはそのまま人間と喰種のハーフだ。特徴としてはライオンとトラの雑種動物のライガーのように、雑種強勢に則って人間及び喰種よりも高い能力を持つ

また、一概には言えないが、大きく分けると人間寄りと喰種寄りの個体があり、喰種寄りの個体が誕生する確率はかなり低い

人間寄りの半喰種は、人間と同じように食物を摂取して栄養に出来る代わりに赫子を持たず、身体能力が極めて高い。逆に喰種寄りの半喰種はほぼ喰種と代わりないが、並みの喰種を超える力を持つ

ただ、特に人間寄りの半喰種ではデメリットとして短命な事が挙げられるな。二十代に入ってから急激に肉体的な老化が進む。喰種寄りの半喰種の方は延命する方法があり、揃いも揃って強大な喰種となるため、同じデメリットがあるのかは不明……というよりもそこまで私は知らないというのが正しいな

喰種寄りの半喰種は最高に旨くてな。これまで私は敵対した個体を我慢できずに喰ってしまっていたのだよ

119：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

はえー、なんか喰種寄りの半喰種の方がつよそう（小並感）

120：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

設定の限りだと人間寄りの半喰種は無茶苦茶微妙だなあ

121：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なーんでそんなことまでパツキン巨乳喰種姉貴は知ってるんすかね……

122：東京喰種

それはほら……私が第二次世界大戦中に所属していた国はどこで、何をしていたことで有名でしょうか？

123：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

それはもちろんナチスドイツ……あつ（察し）

124 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
人体実験……いや、喰種実験かあ……

125 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
あつ、そつかあ……(納得)

126 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ナチスなら仕方ない

127 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ナチスはフリー素材

128 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
出典があまりに強すぎる

129 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

何してもやってそうで片付けられる感

130：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

総統閣下「スグにワシを化け物にしたがるお前らなんか大っ嫌いだ！」

131：東京喰種

さてさて、お前らお待ちかねの安価を z x c v b n m

132：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

待ってない

133：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ヤメロオ！（建前） ヤメロオ！（本音）

134：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やだ怖い…やめて下さい…アンパンマン！

135 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
もう助からないゾ

136 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
また、チビちゃんにキーボード奪われてる……

137 : 東京喰種  
失礼……チビチビちゃんがあまりにも構って欲しいようなので、今日はこの辺りでお開きしておこうと思う。安価が無くて悪いな

138 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

いなり(安価)が入ってないやん! いなり(安価)を食べたかったから注文したの!

139 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
止めろ煽るな

140：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

CCG襲撃して欲しかったのに残念だなあ……

141：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

喰種兄貴が居たぞ！ 駆逐しろ！

142：東京喰種

ノシー



「お婆ちゃん遊んで！ 遊んで！」

「こらこら、赫子で髪を引っ張るんじゃない」

あなたは卓袱台に座ってパソコンを叩いているヴェルヘルミナの膝の上で、彼女の髪



や身体を赫子で引つ張っている小さな少女の喰種を微笑ましく見ていた。

珍しくやや困り顔のヴィルヘルミナは小さな少女の赫子でペチペチと叩かれつつも頭を撫でていた。また、観念したのかパソコンを閉じて小さく肩を竦める。

屈託のない笑みを浮かべる少女は一桁程の年齢であり、片方の瞳だけが赤く黒い喰種の赫眼になっていることもわかるだろう。

少女の名は“さえきりづ 冴木梨津”。

見ての通りの半喰種であり、彼女の両親がどうしても外せない用事があるため、2、3日程だけ預かって欲しいとのことで預かっているのである。ちなみにヴィルヘルミナから見た両親との関係は義理の母であり、梨津との関係は義理の祖母に当たる。

つまり一応、彼女とあなたにとつての孫に当たる存在らしい。また、どちらかと言えば男の子っぽい遊びを好む。

「お婆ちゃんばーんちー！」

「くそつ……こんなヤンチャ盛りのチビチビちゃんを私に置いて行くななんて悪魔かアイツら……」

ヴィルヘルミナは梨津から繰り出される無駄に音の重い小さな拳を微動だにせずを受けつつ、反撃とばかりに赫子を伸ばし、梨津の赫子ごと容易く身体を掬い上げた。

「一転攻勢！ お婆ちゃん高いたかーい！ からの……こちよこちよこちよこ

「ちよー!」

「うえへ、あはははははははー!」

ヴィルヘルミナは梨津を赫子で脇を抱くように天井付近まで掲げながら、細く長く変えたその先端でくすぐ擦る。その様子は微笑ましくすらあっただろう。

孫の梨津が訪ねて来てからわかったことだが、どうもヴィルヘルミナという喰種は、意外なことにとんでもなく面倒見が良いらしい。子育てをした経験があることは幾度となく聞いていたため、あなたも知るところだったが、流星にここまでとは思わず内心驚いていた。

「ぎやおー! たーべちやうぞー! 怪獣レッドプールだー!」

「ぎゃー!」

後、レッドプールはどうやら怪獣だったらしい。楽しい笑顔でリビングと和室中を逃げ回る少女を、どしどしと音を立てながら追い付かないようにゆっくり追い掛けているヴィルヘルミナの姿はキャラ崩壊を通り越して、幼児への向き合い方に感心を覚えるレベルである。

「グ……ズ……ギャアアアム!!」

「えへへー! 私のかちー!」

「ルナの負けだよ……」

怪獣レッドプールはいつの間にか梨津に負けたらしく、ヴィルヘルミナは床に突っ伏してうつ伏せになりながら背中に彼女を乗せている。

そんはヴィルヘルミナを微笑ましく眺めつつ、あなたはコーヒートを淹れるのであった。



「すう……すう……」

「やつと寝たか可愛い怪獣め……」

どうやら最終的に遊び疲れた梨津が、ヴィルヘルミナの膝を枕にして眠るということで一応の終わりを迎えたらしい。

とりあえず、淹れたコーヒートを彼女に渡しつつあなたは彼女の意外な一面を直接問いつける。

「ぬ？　気が利くな。んぐんぐ……んう？　子供が好きなのかだど？　いや、嫌いだぞ。

疲れるし、融通が利かんし、こちらの話も聞かんし、疲れるし」

”まあ、ハト共よりは余程に素直だがな”とコーヒーカップに口をつけながら付け足すヴィルヘルミナ。

あなたは照れ隠しかと少しだけ考えたが、そんなことをするような質ではないため、本心で言っているということを理解する。

「しかし、子供を笑わせられぬ者が道化を名乗ることは出来まい。加えて言えば、子供の肉は個人的に青臭くて小さくて筋張っていて喰えたものじゃないため、私からすればまだ早過ぎるのだ」

そこで肉質についてまで言及する辺りはヴィルヘルミナらしいとあなたは思いつつ、梨津の両親について問う。

あなたの記憶が正しければ、父親の名は“さえきからお 冴木空男”、そして母親の名は“冴木道乃美”みのみと言った筈である。

「クククツ……なに大した話ではない。少し前に喰種と人間の子供カップル等という面白いモノを目にしてしまったため、そのまま歩めばどのようになるか見たくなってしまうてな。まあ、波風もなくこんな感じに落ち着いてしまったわけだが……」

「すう……むにや……えへへ」

”つまらん”と口で言って少し眉を潜めつつも梨津の頭を撫でるヴィルヘルミナ。その姿は彼女の若い見た目も相まって祖母というよりも、手の掛かる娘を見る母のよう

にあなたは思えた。

あなたは喰種と人間のカップルがこうして子供まで儲けていることに感心し、そのために幾つも障害を乗り越えて来たのであろうと、夫婦を素直に讚えた。

しかし、ヴィルヘルミナは少し愉しげに笑みを浮かべ、小さく人差し指を振るジェスチャーをしてそれを否定する。

「いいや、そこまでのことはないさ。私の子だというだけでVからは箔が付くからね。そこそこバリアフリーな社会参加が可能になった筈さ」

そう言うヴィルヘルミナにはあなたは首を傾げる。彼女は強く殺戮者にして大罪人なのはあなたもよく知るところだが、それならば人質としてむしろ生きるリスクが上がるのではないかと考えたからだ。

「人質……？ 私にとつて？ ——面白い冗談だ」

次の瞬間、あなたの首に彼女が伸ばした赫子が巻き付く。それは強めに巻かれているため、あなたは徐々に息苦しさを覚え、赫子に手を掛けるがびくともしない。

「善い顔だな……ふふふつ。ああ、私には惜しむものなど何処にもないさ。全て身は己を飾る彩りに過ぎん」

直ぐにヴィルヘルミナが赫子を解いたため、あなたは大きく息を吸い込む。そのままその赫子はあなたの頬を優しく撫でた。

「ファッションとは自身を着飾り美しく魅せるものだろうか? 例えばそうだな……好き  
なデザインの帽子を買おうとしよう。確かに買った帽子は愛でる。外に被って行き肌身  
離さず丁寧に使う。汚れば洗ひもしよう。しかし、どうしようもなく破れてしまえ  
ば、少し後ろ髪は引かれるが捨てて新しい物を求めるといふもの」

”誰だつてそうだろう?”とあなたにヴィルヘルミナは問い掛け、更に言葉を続ける。

「そして、それは帽子が好きなのではなく帽子を被つて着飾る己が可愛いのだ。まあ、お  
気に入りのモノを誰かに壊されれば……新しいモノを探す前に報復と弔いぐらいはす  
るだろうなあ。それをVは恐れているのだよ」

つまりVはヴィルヘルミナの玩具を壊す、壊されることで引き起こされる彼女の戦闘  
行為を何よりも恐れているらしい。

あなたはVが世界を裏から牛耳る組織だということには聞かされているが、そこまで警  
戒されるほどの被害をもたらすものなのかと疑問を覚え——片手間にコクリアを全焼  
させて見せたことを思い返し、仮に本気で彼女が暴れたのなら何れ程の被害……最早  
災害を出せるのかと考えてしまった。

「梨津の両親の願いはね。」遠くへ行きたい”ということだった。無論、ふたりで。だ  
からそれを叶えてあげたのだ。私は優しいからね」

ヴィルヘルミナは”もちろん、対価は頂いたよ”と嬉しげに呟くと、ペロリと舌を出

して自身の下唇を舐める。

そして、彼方を思い返すように何処かを見つめて少し想い耽り、悪戯っぽく目を細めた。

「空男の父親と——道乃美の両親の人間性は兎も角、身体は美味であったぞ？ コーヒーありがとう、アナタ」

あなたはひよつとすると彼女は本当に悪魔なのかもしれないと思いつつ、それに寄り添う己も大概だと考え、彼女が下げたコーヒーカップを片付けるのであった。



## お姉さんっぽいのとデート 前

「アナタ、今からデートに行こうじゃないか」

ある日。脈絡もなく突然そんなことを言ってきたヴィルヘルミナの言葉にあなたは飲んでいたお茶を少し吹き出しそうになった。

いつも突拍子もないことをする彼女ではあるが、こういった色恋沙汰の直球の内容は稀である。

ようやく普通の恋愛観を身につけたのかと考えたあなたはとりあえず理由を聞くと、彼女はコロコロと笑いながら居間で起動しているパソコンの画面を指差す。

「うん、ちよつと“CCG見学”に行こう。さつき安価で決まった。所内の売店で限定販売している何かしらの土産品を買ったら達成だ」

あなたはどうせそんな事だろうと思ったと自身を納得させつつ、同意を得る前に出掛ける支度を始めているヴィルヘルミナを見ていた。彼女がやることなすこと事後承諾なのはいまに始まったことではないのだ。

そんな彼女が余所行きの服を身繕っている最中、またあなたに声が掛かる。

「ところでアナタよ。外国人妻っぽいのと、お姉さんっぽいのならどっちがいい？」

・外国人妻っぽいの

・お姉さんっぽいの

突然現れたギャルゲーのイベントスチル染みた選択肢にあなたは面を食らう。

それと共に互いに率先的に外出したがる質ではなく、テレビを並べて一緒にゲームをしたり、映画やアニメを見たりして休日をご過ごししており、買い物は専らネットショッピングで済ませているため、全く二人で外出するということがなかったことに思い当たる。

また、彼女の食料事情の問題で外食に行く事がなかったり、行動力の化身のため何かするときはあなたを介さずに既に終わっている事も上げられるだろう。

・外国人妻っぽいの

・お姉さんっぽいの ↑

とりあえず、あなたはお姉さんっぼいのを選択することにした。外国人妻っぼいのも惹かれたが、あなたよりも日本に長く滞在していそうなヴィルヘルミナにそれを求めるのは酷であろう。また、今度にすることにする。

「ほー、ほうほう……あいわかった。アナタも物好きだなあ」

微妙に貶されているようなことを言われているが、あなたは果たして二択に正解はあったのかと内心首を傾げた。

口元を歪め、ペロリと赤い舌を出して見せたヴィルヘルミナは更に言葉を続ける。

「ああ、ついでに私の”食事”も少ししておこうと思つてな。そのつもりでいてくれたまえ」

嬉しげにそんな事を言う彼女にあなたは小さく肩を竦めるばかりであった。



「ここがニッポンのCCG……はえ、スッゴいわねえ……。あつ、そうだ。記念撮影しましよ記念撮影？　ちようど……その人！　このカメラで写真撮ってくださいならいい？　構えてここをぼちーつと押してくれるだけでいいから……そうそうありがとう。じゃあ、お願いしまーす！　ほーら、アナタも入って入って！」

女は化粧物ということわざがある。女が化粧や服装などによって見違えるほど変わってしまうという意味だ。

彼女は何か言動や行動が明らかに可笑しく、現在は家から少し離れた17区にある喰種対策局の支部をバックに通行人に持参したカメラで写真撮影をねだり、異様な明るさと押し強さを見せているのはまさにそれだとあなたは考えていた。

まず、彼女の容姿がガラリと変わっている。

ヴィルヘルミナは背中がザツクリと空いた露出の多過ぎる灰色のセクシーなニット——”童貞を殺すセーター”等と俗に呼ばれる物に薄手のカーディガンを羽織り、ロングスカートを着て、ハイヒールを履いている。背の高い彼女らしく、それ自体は良く似合っているが、存在そのものから漂うネタ臭は拭えないだろう。

まあ、童貞を殺すニット等という凡そ現実の人間が着こなすことが不可能な物体を、ほぼ違和感なく完璧に着こなしている辺り、やはり彼女は人外染みた美貌の持ち主と言える。

「いい絵が撮れたわねアナタ！ んー？ 私の顔に何かついてるかしら？」

また、今の彼女の目は赫眼ではなく、人間と同様に白目があり、極上の雫のようなワインレッドの瞳をしていた。

どうやら元々の彼女の目はこのようなものらしく、こめかみに力を入れつつ少し眼輪筋にも力を掛けると、その間はこのように元に戻るそうだ。

「ほーら、早く入りましようよ！ 折角、予約したんだもの……ね？」

屈託のない自然な笑みを浮かべ、腕を絡ませてあなたを引く彼女を見るあなたは嬉しさで困惑が半々の表情をしている。

何故なら今のヴィルヘルミナは確かに人間のように綺麗な瞳と態度だが、あなたはどちらかと言えば赫眼のままのいつもの彼女の方が綺麗に映り、その感覚に環境に適応し

つつある溜め息と何とも言えぬ煩わしさを覚えていた。

「表面でもCCGの部署内を見れるツアーなんて滅多にないものねー。ドイツではそんなの無かったもの」

”そりゃあ、ヴィルヘルミナなら建物ごと破壊しそうだから無いだろうね”等とあなたは思いつつ、局内のエントランスに入る。そこは吹き抜けで広々とした空間に厳格ながらも洒落た内装がされており、明らかに風体がサラリーマンのそれではないスーツ姿の人間が行き交う様子は、あなたから見ても異質に覚えた。

「すごいすごいー！ あなたの部屋の何倍も広いわ。流石、人類の守り手の最前線って感じねー。お姉さん楽しみ」

ネアカでテンションが高い様子のヴィルヘルミナは、エントランスにいるスタッフや喰種捜査官であろう人間の視線を集める。それもそのはず、日本では中々お目に掛からないタイプの美女であり、大多数の人間目線で見れば何故あなたのように平凡な人間の隣にいるのかわからない程であるからだ。

そんな周りの視線はまるで気にせず、”ほら、行くわよ?”とだけあなたに声を掛けたヴィルヘルミナは、受付まであなたの腕を引いて向かった。

「Guten Tag. 見学を予約していたブリギッテ・シユレヒテと私のダーリンよ、ここが受付で合ってるかしら？」

「わ、わあ……」

「ああ、ごめんなさい。時間よりも少し早く来過ぎてしまったかしら……まだ、10分はあるものねー。私のことはぶつきーって呼んでいいわよ?」

「あつ——はい、すいません! 少々お待ちを!」

異星の女王様のような別次元の美貌を持つヴィルヘルミナに見とれていた受付嬢は、彼女の促しですぐに動き出し、ヴィルヘルミナはそれを微笑ましげに眺めていた。

当然ながらブリギッテ・シユレヒテ等という者は存在しない。ここまで惜し気もなく堂々とした態度で嘘を吐ける彼女は、確かに道化を自称するに足るであろう。

「あちらのソファアールでお待ちを……時間までお待ち下さい。何かお飲み物お持ちします」

「あら気が利くわね。なら、メロンソーダをくださいいな。子供っぽいかもしれないけれど私、昔から大好きなのよ。あなたは何を飲むかしら?」

手渡されたメニュー表からほぼ即答でそれを選ぶヴィルヘルミナ。メニューにはしっかりとコーヒーがあるにも関わらずである。

あなたは紅茶を頼むと、そのまま二人でソファアールへと向かい少し辺りを見渡すと疎らに他のツアー客の姿も見え、そちらに目を向けていると直ぐに注文した飲み物が届いた。

鼻唄混じりな様子で直ぐにヴィルヘルミナはそれに口をつける。

「うーん、良く冷えてて美味しいわねえ」

ヴィルヘルミナにとつて全くそんなことはない筈であるのはあなたも良く理解している。それを全く表に出さない演技に舌をまくあなただったが、わんこそばを百杯食べ切った精神力を思い出してまだまだ序の口だとも悟った。

暫く一般人が知る程度のCCGや喰種の話や、日常の他愛もない話をしていると時間が来たようで、事務員らしき女性の誘導に従う。

そして、所内の入り口にある空港の金属探知機のようなゲートが目に入る。

それはRc検査ゲートと言い、Rc因子の値を潜るだけで即座に判定する機器である。普通の人間のRc因子数値は200から500、これが喰種になると1000から8000となり、平均的に高いRc因子を持っている。それを踏まえて伝説級の赫者であるヴィルヘルミナともなればRc検査ゲート程度の簡易測定器では測定不能なレベルの値であり、通常通れば確実に発覚するため、ただでは済まない。

ちなみに”私のRc値は53万です”とは本人談である。

「なにこれ？ 空港に置いてある奴？」

「いいえ、Rc検査ゲートと言いまして——」

しかし、案内人が続いてあなたとRc検査ゲートを潜ったヴィルヘルミナは、ゲート



に反応すらされなかった。

それもそのはず、ヴィルヘルミナが時々語るVとはCCGの根幹を成している者たちでもあり、全CCGのRc検査ゲートは、Vに所属する喰種のみ検出しないように設定されているのである。そのため、現状少なくとも所属上はVに籍を置くヴィルヘルミナはCCGには検出されない。

つまり、元より喰種捜査官と喰種の争いは出来レース。互いが互いに喰らい喰らわれ、殺し殺されることこそ常とされるのが今の世の理なのだ。

ヴィルヘルミナが問題なくRc検査ゲートを通過したことで、彼女の容姿がとあるSSレート喰種に酷似している事で、エントランスの端から目を光らせていた喰種捜査官も訝しげな表情と共に本来の職務へと戻る。

その後は一般向けに公開されているあなたにとっては退屈なツアーを、終始愉しげで驚きにココロと表情を変えるヴィルヘルミナと共に暫く過ごした。



「ちやっちい土産品ねー。原価は40〜50円ぐらいかしら？ もうちよつと安くしてくれたって罰は当たらないのにねー」

ツアーが終了した後、売店で買ったマスコットキャラクターがあしらわれたキーホルダーを指でくるくると回しながら口を尖らしているヴィルヘルミナは、あなたと共に喰種対策局の外に設置された掲示板を眺めていた。

そこには17区内で頻繁に捕食行為を繰り返す、喰種捜査官に顔が割れる等の様々理由で手配されている喰種が、指名手配犯の手配状のような謳い文句で書かれている。「アップルヘッド……なーんか弱くて美味しそうな名前ねえ。却つて変な興味を持った人達が近寄りそう……とまではいかないまでも警戒心は薄れると思うわー」

”リング頭よりリング頭、名前の印象つて意外と大事なのねー”等と言いながらヴィ

ルヘルミナはあなたに手を絡ませて引き連れながら、何処かへと歩いて行く。

どうやら標的を見据えたらしく、また今の彼女は喰種を食べたい気分らしい。鼻を少しだけ鳴らした彼女は目を瞑って蛇のような笑みを見せる。

ちなみにこれも本人談であるが、彼女の嗅覚は鮫よりも優れるらしく、人間や喰種を通常よりも多く食べているなどの食性に差異のある喰種は臭いだけで10km以上先でも解るらしい。まあ、そうでなくとも彼女は幾つかの搜索ルートを持つため、あなたが気になるようなことはないであろう。

いつまでも演技を続けている彼女に何とも言えない気分になりつつ、あなたは彼女に着いて行く。

「ところでこのニットどう？ 結構可愛くて機能的だと思っただけで？」

暫く他愛もない話をしつつ目的地へ向かう途中で、ヴィルヘルミナはそう言いながらカーデイガンを少しだけずらし、あなたにざっくりと空いた背中を見せる。

そう言われてみれば確かにこの童貞を殺すセーターなるものは、喰種の羽赫、甲赫、鱗赫、尾赫の全ての発生源に布地がないため、これ以上無いほど機能的である。その上、無駄に扇情的で情欲を掻き立てるような造形と彼女の素材の良さはあなたにとつても言うことがないほどであった。

「へー……へー、そう、お姉さん喜んでくれたなら嬉しいわあ」

また暫く二人で歩いているとヴィルヘルミナは不意に足を止める。そして、鼻を小さく鳴らすと道の反対側の少し先をシルバーカーを押して歩いている老婆の姿を見つめた。

「手配写真とはだいたい違うけれど背格好は大体同じ……それに老人車に何て大胆なモノ積んでるのよ。お弁当代わりかしら？」

ヴィルヘルミナの口振りからすれば、その老婆がアップルヘッドという喰種であり、シルバーカーの荷台の積み荷には人肉の類いがあるのであろう。大胆この上ない犯行である。

「もうちょっと人気の無い——あら？」

途中まで言ったところでヴィルヘルミナは言葉を止めてまた嗅ぐように鼻を小さく上下させた。

「人間と赫包の香りがふたつずつ……捜査官が二人いるわね。片方は……ああ、”かすか微の旦那……たぶん知り合いだけど、もう片方は新人さんかしら？」

あなただけに聞こえるように小さくそう呟いたヴィルヘルミナは立ち止まると小首を傾げて空を見上げる。

「んんん……」

そして、唇に人差し指を当てると、彼女の顔は次第にあなたのよく知る表情へと歪ん

で行く。

「今日は見学と食事だけのつもりだったけれど——やめたわ」

やめたらしいヴィルヘルミナは、口の端を吊り上げ、三日月のように目尻を歪めると彼女らしい悪戯っぽい笑みを浮かべて見せた。

## お姉さんっぽいのとデート 後

「出迎えご苦労。捜査官殿方」

東京1区。喰種対策局本部が置かれ、生きた喰種はほぼ存在しない筈のこの区のよりもよつて本局の玄関口にそれは来ていた。

朝露と黄金を束ねたかのようにきらびやかに光る長い金髪を持ち、喰種のためにデザインされたナチス親衛隊の軍服と軍帽を身に纏っているという一度見れば忘れられない出で立ちをした喰種——SSSレート喰種レッドプールが、数多の喰種捜査官達に囲まれてそこにいたのだ。

半径150 m程の範囲でクインケをつがえた数多の捜査官達に囲まれているにもかかわらず、レッドプールは深めに被った軍帽を少しだけずらして赫眼の片目を露出させると調子外れに嗤う。

「どうした貴様ら？ 英雄様のお帰りだぞ？ 囲むだけでなにもしないのはレディの扱

いに長けているとは言い難いな」

はつきり言ってこれまで日本CCGではレッドプールというSSSレート喰種の評価を見誤っていたと言えるだろう。

第一次世界大戦の最中に世界初のSSSレートに指定され、第二次世界大戦ではナチス・ドイツの喰種部隊隊長を務め、彼女が参戦した戦は不敗だったと言う無敵の将兵”赤い霧”。SSレート以上の中国喰種及び特等捜査官を壊滅させ、二度に渡り中国喰種対策局本部を文字通り消滅させた”龔工”。何れも耳を疑うような伝説級の喰種である。

しかし、そんな彼女は日本に来てからと言うもの。24区でモグラ叩きを稀に壊滅させる事と無差別に高レートの喰種を喰らう事以外は目立ったことはしておらず、二十数年のそうした平穩により人間はすっかり彼女の脅威を忘れてしまったのだ。

それこそ、彼女が嘲笑い続ける人間の業でもあり、実際に過ぎた傲慢の対価を払わされていた。

「微、君のオフィスは何階だ？ 場所は適当な事務員にでも聞くからいいぞ」

「……………ここでもいい。頼むからもう止めて帰ってくれ……」

「おやおや？ これでも私は責任感が強く、義理堅い性分なものでね。君を受け取りに誰も来ないならば私が直接出向かねばならん」

ここまでレッドプールという喰種がキレた女だとは誰も思わなかったのだ。何の脈絡もなく敵地に取り込む様は異質極まりない。

その上、彼女の腕の中には、モグラ叩きで出会ってしまったレッドプールを止めるため、命を賭して立ち塞がった喰種捜査官の真戸微の姿がある。誰が見ようとも狂つているとしか思えないであろう。

『レッドプール、お前の要求はなんだ？ 速やかに真戸微を解放し——』

そんなレッドプールに対し、こうなつた原因のモグラ叩きで班長として陣頭指揮を執っていた丸手齋が拡張器で声を張り上げ——。

「ぬかせ」

その瞬間、レッドプールを見ていた筈の視界がうねるような赤い波で埋め尽くされ、捜査官らは一様に驚愕を覚え、半数の捜査官は立ち尽くす。

まるでダムが突如として決壊したかのように、あるいは爆弾が吹き飛んだかのようにレッドプールを中心とした全方向へ向けて、明らかに質量を無視した大量の血のように赤い液体が拡散したのだ。

それは血でも水でもなく、如何なる喰種にも流れている液体のままの赫子に近いもの



だと予想出来ようとも、150mという距離を瞬きをする程の間に拡散し尽くすと共に塗り潰す。

日本喰種対策局SSSレート喰種「レッドプール」。その通称は赫子を液状化させたまま操作していることが多いため、小馬鹿にする意味を込めてそう揶揄された。

故に誰も知らず、見くびっていたのだ。喰種が赫子の洪水を発生させる等というあり得ないことになど決して起こるまいと。

僅かに反応出来た半数の捜査官らは己らへと迫る赤い波にクインケで歯向かうか、反射的に後方へ全力で逃走した。結果、賢かったのは後者と言えるだろう。

前者の中で遠距離型のクインケを持つ捜査官は狂ったように赤い波へと乱射し、近距離型のクインケを持った捜査官は到達する赤い波の先端へと合わせて刃を突き立てた。

その結果——赤い波はクインケの掃射をもともせず弾きながら進み、突き立てられたクインケは余りの強度によって一様にへし折れるか欠けて、それら全てを無為かのように呑み込む。

そして、立ち向かった捜査官と、何も出来ずに立ち竦んだ捜査官は全て赤い波に飲まれ、唯一逃げ去った極少数の捜査官だけが難を逃れ、その中には丸手斎や真戸微の夫の真戸呉緒の姿もあった。

『顔と声……匂いも覚えてるぞ……。微を置いて逃げ去った最たる痴れ者が……。あの場で微の他に評価できた者など、貴様に止められなければ共に戦おうとしたそのな旦那ぐらいのものだ』

そして、蠢く巨大な”赤い水溜まり”はくぐもった言葉を響かせる。多数の捜査官らがその中に取り込まれて浮き沈みしており、さながらお伽噺の血の池地獄のような光景であった。

その場で逃げ延びた捜査官らは皆一様に考えたことであろう。”一体、我々は何と戦っているのだ?”と。

「それともこの場で貴様が死ぬか?」

その言葉と共に赤い水溜まりの中から、変わらず微を抱えたレッドプールが現れる。

そして、赤い水溜まりはうねり狂うように振れると、レッドプールの背から生える大木のように変わり、中にいた捜査官たちは葉か花のように枝分かれした先端で拘束されていた。

レッドプールの足元一帯に散らばる破損したクインケの数々が、それだけの数の捜査

官が無力化されたことを否応なしにわからせるだろう。

そして、何よりも異様なことは、先端に拘束された捜査官らは一様にもがいており、今のところ誰一人として死亡者は出ていないということであった。

「それも良い……貴様の無礼ひとつでここを更地と焦土に変えてしまっても構わんのだぞ?」

「お前は……いったい……?」

啞然とした様子でそう呟く丸手斎と同様に、ここまで来て、捜査官らは真に開けてはいけない蓋を抉じ開けたことに気づいただろう。

過去に斯様な出来事を引き起こした喰種が、幾らか集まったところで、人間の手に負える筈もなかったのだ。

そんな彼にレッドプールは「強いて言えば神だ」とだけ呟き、赤い大木を背に生やしなから軽い足取りで近づいて来る。

「少なくともこの場で生殺与奪を握る私は紛れもなく貴様らの神だ。媚びて死のうが歯向かつて生きようが、酔狂に悪戯に気紛れに私が生かし殺すのだ……これを神と呼ばず

なんという？　日本は元来、理解の及ばぬ怪異を拝み倒して神にするだろうか？　それと同じさ」

そう言つてレッドプールは嗤うと、捜査官らを拘束していない枝のような赫子が更に枝分かれをし、数千を越える細く長い針と化した赫子の切っ先を一斉に丸手齋へと向ける。

「さあ、喰種<sup>グール</sup>という悪魔にして、貴様らの神の赫子を舐める。無論、その全身で」  
そうして、全ての赫子を震わせ、木々がざわめくのにも似た音が響く。

空に聳え立つ赤い樹が敵意を剥き出しにしたようなそれは、お伽噺の針山地獄のようであり、明らかに人間ひとり殺すには余りあるだろう。

その次の瞬間――。

「きゃん!？」

「やめろ」

抱かれている真戸微が、レッドプールの顔面をグーパーンしたことで、彼女の行動は無

理矢理止められた。

思いの外、可愛らしい声を上げたレッドプールの顔から微の拳が退けられたが、レッドプールの顔は一切傷付いておらず、逆に殴った微が己の拳を撫でているのが印象的だろう。

レッドプールは少し困ったような表情で口を尖らせた。

「なんだ？ 黙っていれば君を殺そうとした嫌らしい人間がひとり消えたのだぞ？」

「私を送るだけだっただろうが、同僚を勝手に消そうとするな。それから別に恨んじやない。あの時、最も実力のある人間をひとり残す判断が最適だった」

「むう……」

「むうじゃない」

まるで友人との何気ない会話のような奇妙なやり取りを続ける微。それからしばらく二人は話し合った後、渋々と言った様子でレッドプールはポツリと呟いた。

「はいはい、捜査官の方々を解放しますよーだ」

次の瞬間、レッドプールの背に生えていた赤い大木がドロリと崩れ、天辺から地面にゆっくり落ちると、拘束されていた捜査官らが弾き出されるように勢いよく次々と解放される。

やがて全ての捜査官らを赫子が吐き出し終える頃には、いつの間にかレッドプール

は、真戸微の夫である真戸呉緒の前に立っていた。

しかし、クインケのほとんどは今のレッドプールから離れた位置にある上、それ以前に自然でも相手にしているかのようなあり得ない赫子を目の当たりにした捜査官らに何が出来る訳でもないであろう。

嵐が過ぎ去るのを人間はただ待つしかなく、触らぬ神に祟りはない。たったそれだけのことなのだ。

そんな中、レッドプールは呉緒へ向けて微を手渡した。その作業は余りに軽く行われ、見ていた者たちが唾然としてしまう程だ。

「すまないな……死にぞこなった上に災厄を連れて来てしまった」

「ああ……ああ……いいんだ……生きッ……生きていただけで……!!」

微はぼつが悪そうながら、どこか穏やかな様子であり、そんな彼女を呉緒は力強く抱き締め、ボロボロと大粒の涙を溢す。

そんな真戸夫妻の前でレッドプールは調子外れに手を叩いており、その人間性の邪悪さが滲み出ているであろう。

「さてさて、感動の再会を見届けたところで……。微を捜査官として再起不能にしてみたってのは大変に申し訳なく思っている。これはその罪滅ぼしだ」

その直後、レッドプールは背中に手を回すと、己の背に腕を突き入れ、肉が裂ける異

音が響く。

そして、肉々しい何かが筋組織の糸を引き、それを引き千切ることで無理矢理抉り出された。

「ほら私の赫包だ……。まだ人肌に熱いぞ？」

それは紛れもなくレッドプールの赫包であり、静かに脈動する様は一切死んでいないことを思わせる。

そんな一塊をレッドプールは己の手から、呉緒の手へと握らせた。

「なに……」

「微が夫にするほどの男だ。次は君が楽しませてくれ」

それだけ告げるとレッドプールは軍帽を直し居住まいを正すと右手を伸ばして掲げた。

何をするわけでもなく少しそうして佇むレッドプールが、ナチス式敬礼をしていると、いうことに気づくいた者は現代に置いてそう多くはないであろう。

「Keinem vernünftigen Menschenen wird es infallen, Tintenflecken mit Tinte, flfleckensmit. lwegwaschen zu wollen. Nur Blut soll immer wieder mit Blut abgew

a s c h e n w e r d e n .」

詠うように軽やかなドイツ語で何かを話した直後、レッドプールの素肌や髪が血のよ  
うに赤く変色し、明らかに人型の輪郭が歪んだ。

「おヤオや？ ドウやらタイムリみツトラシい。それデはまたあおうしょクン……Ts  
c h ・ s s ——」

そして、最後にそう眩かれた刹那、レッドプールの身体が崩壊し、バシヤリと水音を  
立てて地面に水気のある何かが飛び散る。

既にそこには赤く濡れたレッドプールの軍服が落ちているばかりで、まるで溶け消え  
たかのように他には何も残ってはいない。

始めからレッドプールなどいかなかったのではないかという喪失感と現実離れた感  
覚は、真戸夫妻の手にある静かに脈動する赫包が現実塗りに潰すことだろう。

「……………アイツは何と言った？」

呉緒がそう眩くと、微は軽く溜め息を吐いて小さく笑みを浮かべながら眩いた。

「まともな人間はインクの染みをインクで、油の染みを油で洗おうとはしない。だが、血  
のみが血で持って洗い流されようとする……だそうだ」



後にこの場の状況を科学的に検証し、残ったレッドプールの軍服や赫包を調べ尽くした結果指し示された事は、捜査官らがレッドプールだと思っていた存在は、その赫包ただひとつが変態していただけだったという事実であった。



「G u t e n T a g.

手際がいいのね！ ニッポンの喰種捜査官は！」

そして、現在——新米二等捜査官の亜門鋼太郎と共に、17区のアップルヘッドという喰種を駆逐した”准特等捜査官”の真戸呉緒は、見覚えしかない人間の形をしたソレに声を掛けられていた。

白い肌に長身で長い金髪をした外国人。ノースリーブのセーターに薄手のカーディガンを羽織り、ロングスカートにハイヒールを履いた女性。そこまでならまだいい。

しかし、その目が覚めるような美女である顔つきが、あまりに呉緒が知るとあるSS Sレート喰種に顔つきが似ていた。

「貴様アア……ッ!!」

「真戸さん!?!」

呉緒の行動は最早反射的だった。

彼女に対して突撃しつつ、気分次第で変えて持ち歩いているクインケを捨て、普段から常に持ち歩いている刀袋に収まったクインケを抜き放つ。

それは真昼を染め上げるように黒く、紅蓮に鈍く輝く炎のような刃文が浮かぶ妖刀のようなクインケであった。

「あら、洗礼とか可愛がりって奴かしら?」

呉緒は飛び込みながら女性を一閃し、女性は体勢を傾けて避けると、何故か更に後方

に4〜5mほど跳んで何かを躲すように移動する。

その直後、呉緒のクインケがなぞった軌道に火線が走り、焼却音と共に4〜5mに及ぶ炎の刃が、その線の一切を薙ぎ払った。

炎は丁度、彼女の鼻先を掠めるように通り過ぎ、熱波による異質な風が亜門と、彼女の隣に控えていた人間にも届き、思わず身構えている。

「無茶苦茶な……ッ！」

亜門はそう吐き捨てつつ、彼女と共にいた人間の元へ向かい、体格の良い自身の背に隠すように離れさせて壁際まで下がる。

その際、小さくお礼を言われ、今度は自身の善意が間違っただけでいかなかったことに亜門は少しだけ表情を緩めながら二人の苛烈を極める闘争を眺めた。

「んっ………！ 変わらないわねえ……向こうもコツチも」

終始愉しげに笑みを浮かべている彼女が酷く調子外れで、背筋をなぞるような底知れぬ畏怖すら覚えるであろう。

「抜かせレッドプール！」

「SSSレート喰種のレッドプールだつて……？ 真戸さん！ しかし、その方がまだそうと断定は——」

「それからでは全て遅いのだッ!!」

亜門の制止もまるで聞かずに、そのまま呉緒は狂ったかの如く幾度となく追撃を繰り返す。斬撃とそれに付随する炎の刃は酷く美しく、彼が鍛えた極めて高い技量も合わせ、芸術の域にすら思えるだろう。

そして、それらを手で躲し続ける彼女は舞い踊るようで、赤に照らされた金の髪が幻想的な光景を作り出していた。

「えー……他人の空似よー。よりにもよつてあの喰種に間違われるだなんて失礼しちゃうわねー」

よく見れば、呉緒が振るつたクインケの軌道をなぞるように光を受けて僅かに反射する火の粉にも似た赤い何かが舞う様が見える。

美しさに溜め息を漏らすように息を吐いた彼女は、それを見つめたままポツリと言葉を漏らす。

「斬つた瞬間、刀身からガス状の羽赫が尾を引くように飛散し、少し間を置いて、斬つた軌道を火線が追撃する刀……。火線の追撃時間を短縮延長も可能で、攻防共に極めて優れる……素敵ねえ」

「どうやらそう言った刀のクインケの機関らしい。尚も彼女の口から言葉が吐かれ続ける。」

「それからその柄から切つ先に至るまで真っ黒く、炎を閉じ込めたかのように揺らめく

紅蓮の刃文が特徴的な刀……んふふ！ いいクインケをお持ちねえ。日本CCG製SSレートクインケ”オウマ 1/2”でしょうそれ？ 中々お目に掛かれるモノじゃないわ……」

どこか恍惚な表情をしながらそんな呟きをする彼女に痺れを切らしたのか、呉緒は彼女が数回ステップを踏んで、十数m飛び退いた最後の着々に合わせ、クインケ——オウマの機構を作動させると、刀身全体が焼き入れされたかのように紅蓮の光を灯す。

そして、明らかにリーチが足りていないにも関わらず、彼女の心臓に目掛けて突きを放つ。

「ジャアッ!!」

「——それは予想外ね」

それは瞬時に彼女へ向けた点の炎槍と化し、端から見ればまるでSF映画の光線のような光景を作りつつ着弾し、その衝撃と貫通力によつて30〜40mほど後方に吹き飛ばす。

吹き飛ばされた彼女は、身構えたまま直立不動で佇み、胸からオウマによる白煙を立ち上らせていた。

「これが真戸さんのSSレートクインケの力……はっ?! その方は赫子も赫眼も出してはいませんよ真戸さん!」

「ハッ……！　今の直撃で生きていたらどのみち人間じゃないさ亜門くん。本当に一般人だったのなら私は潔く殺人でお縄につくよ」

それもまた、その通りであろう。また、呉緒の狂人としか思えない行いとその覚悟は確かなものだと言える。

「チィ……浅かったか……」

「な……」

そして、実際に白煙が晴れると——赤黒い槍状のクインケを胸の前に構えて耐えていた彼女の姿があった。白煙は点の攻撃を器用に棒で受け止めたらしく、その部分から立ち上っていた。

”人間離れし過ぎているが、辛うじて特等捜査官相当の人間”——今の彼女の状態はどのように評価できるため、呉緒は眉をひそめている。少なくとも亜門が言うように赫眼も赫子も確認できないため、法律上喰種とは断定できず、駆逐対象にはならない。

「あつつううう……！　やっぱ、出力が段違いねえ……」

眉をへの字に曲げて熱がりながら槍をバトンのように回転させつつ、呉緒の方に歩いて戻りながら彼女は口を尖らせた。

「——残念だけど……特別なクインケなら私だって持つてるの！　ドイツ喰種対策局製制式採用量産型SSSレートクインケ”ゲイ・ボルグ”。型番は33/33よ？」

”まあ、2分の1もSSSSレート喰種の赫包を用いたあなたのそれ程じゃないけどねー”等と言いながら彼女は槍の石突きに手を触れる。

すると槍は急速に石突きへと縮んで行き、完全に消え、そこには掌に収まるほどの菱形の赤い宝石のようなクインケがそこにあつた。

「うわっ!!」

「ちよつとキミの上司とお話がしたいからそれ持つてて新米クン。あー、それで遊んでもいいわよ?」

「なんのつもりだレッドプール……?」

そして、彼女はそれを亜門に向けて投げ渡すと、降参したように両手を大袈裟に挙げながら呉緒の数m前で止まった。

相変わらず、笑みを浮かべた表情の彼女を呉緒はオウマの切っ先を赤熱させて向けたまま訝しげに見つめる。

そして、数秒間、呉緒と彼女は見つめ合った後、彼女の方から先に口を開いた。

「誤解があるようだから言っておくけど……私は、ドイツ喰種対策局 装備課 実験クインケ運用班所属 准特等捜査官”のブリギッテ・シュレヒテよ。ちやーんと証拠も……アナタちよつと、いつまでも新人クンの後ろにいないで私のポーチの内ポケットの

中身渡して」

「は……？」

「あつ、新人クン。言わないでも私のダーリン守ってくれてあんがとね。私と違って吹けば飛ぶから、正直流れ弾で死なないかひやひやしてたわ」

「あつ、はい……」

その言葉に従い、亜門の背後にいた人間が歩いて彼女——ブリギッテの隣まで来ると、ポーチをまさぐる。

そして、その中からドイツCCGの捜査官手帳及び、ドイツ語で掛かれた文書のコピーが折られて入った小さなファイルが出てくる。ファイルはキョトンとした表情の黒猫の可愛らしい写真が印刷されたもので、麗人的な美しさを持つ彼女には少々可愛らし過ぎる物に見えた。

それが呉緒に手渡され、それを呉緒が眺めている間、亜門はやや批難するような視線を呉緒へと向けていた。

「……………手帳は本物か……。文書はこの場で判断は付けようがないな」

「証拠に両方とも持つてつていいわよ？ 正式な配属まではまだ少し時間あるし、どのみち日本版で刷り直すらしいしね。あー、今週末に本部に行く予定あるからその時でも



所在だけ知れたら嬉しいわ。あつ、これ名刺ね？　ところで新人クン階級どこどこ？」  
「あつ、これは丁寧にどうも……。今年本局に配属になりました二等捜査官の亜門鋼太郎と申します」

どう見てもCCGの物と寸分の狂いなく、証明写真までご丁寧に貼られた手帳を何とも言えない表情で見つつ、呉緒はオウマを下ろしはしたが、いつでも抜けるように気を張りつつ亜門とブリギッテのやり取りを眺める。

「ああ、そうなの！　最初から二等捜査官だなんて優秀ねー！　私も来月ぐらいから本部勤めになるからよろびくー！」

「そうなのですか……？」

「うん。ニッポンの平均的な支部を下見……をダーリンとのデートのついでにしてたら駆逐現場に出くわして眺めてたってわけなの！　まだ、未配属だけれど、喰種の討伐現場なんて見掛けちゃったら喰種捜査官として捨て置けないじゃない？　だから駆逐されるまで遠くから槍構えて眺めてたのよ！　けれど全然事も無げに駆逐しちやっただかと思わず声を掛けちゃったわ！」

「そ、そうなんですか……」

「あつ、ちなみにその文書に書いてあるけど、私はニッポンのコクリアが全焼して、多数の捜査官が殉職し、またコクリアが再稼働してそちらの守備隊を増員したら本局の人員

が減ったことに対しての補充要員なんだってね！ いやー、とんでもないことされてるわね！ しかもやったのが”赤い霧”だなんて……ホント酷い話ねー！ さっさと人間様に駆逐されれば良いのよあんなの」

ブリギッテはネアカで非常によく喋り、呉緒に殺され掛けたことなど既に忘れていたかのようなフレンドリーな振る舞いに亜門は苦手な性格らしく、若干押され気味な様子に思える。

何故かこの時、ブリギッテが伴侶だと言っている人間が絶妙な半笑いの表情を浮かべていたが、恐らくは余りにも明るい言い方でコクリアの件を語っているからであろう。

数か月前に起きたレッドプールによるコクリア襲撃。実際には襲撃等という生優しいものではなく、捜査官も喰種も問わないただの殺戮であった。

突如、施設全体の配管と通気孔から液化化した大量のレッドプールの赫子が侵入し、雑に行き渡った直後、全ての赫子がオウマのように発火したのである。

例えば水の沸点は100℃だが、気体の状態では熱すれば熱するほど温度が上昇するため、炎よりも高い温度の水蒸気ならば、紙に吹き掛ければそれを即座に燃やすことが出来る。また、マグマなどは液体にも関わらず極めて高い温度を有しており、それに触れれば大概のものは発火するであろう。

それを踏まえて、コクリアで観測されたレッドプールの液体赫子の温度は約8000

℃である。

マグマの温度が約9000〜12000℃。ガスバーナーやガスコンロが約1700〜1900℃。炎の最高温度が約4000℃。太陽表面の温度が約6000℃であることからしてもその異常なまでの高熱がよくわかるであろう。

更には言えば、建材で多く使われる鉄の融点は1536℃で、沸点は2863℃。金属の中でも特殊なタングステンでさえも融点は3407℃で、沸点は5555℃である。

多くが地下施設であり、なだらかな三角錐を逆さにしたような円柱状の構造をしているコクリア全てにそれが放たれたということは、コクリア自体が鋳工業などで高熱を利用して物質の溶融・合成を行う際に使用する湯のみ状の耐熱容器の坩堝のようになったことは想像に難しくない。

実際には更に悲惨な状況であり、当時のコクリアは人間も喰種も関係なく逃げ惑う地獄以外の何物でもなかった。

無論、逃げ遅れて最も多く焼死したのは身体能力も抵抗力も低く、監獄されている喰種の数も最も多く、実質一般人と言っても過言でもないようなC層にいた喰種なのは言うまでもない。

それを知っているのかいないのか、ブリギッテはカラカラと笑いながら愉しげに口を開く。

「まあ、焼けちゃった捜査官やアテンダントの方々は可哀想だけど、無駄に保管してる使い途のないゴミが沢山焼けたんだからそこはプラスよね？ 亜門クンもそう思うでしょ？」

「えっ……あつ……」

「まあ、元々喰種なんて害獣だけど……お姉さん嫌いなものねえ。クインケにもなれず、自衛すら儘ならない低俗なゴミって何で生きてるかわからないと思わない？ そんなの飼つとくために血税を使うだなんて……それこそ悪趣味ね」

「ほう……」

「税金ドロボーよ税金ドロボー」等と言つて頬を膨らませるブリギツテに亜門は目を見開き、逆に呉緒は少しだけ態度を軟化させる。

「……何にせよ喰種なんて残らずみーんな居なくなればそれが世界の為に越したことはないわよ」

そして、ブリギツテは居住まいを正すとこれまでよりも遥かに真剣な様子で言葉を吐く。

「それで……今日の事は手合わせつてことにしとくわ。若しくは何もなかった。私としては喧嘩でも何でもいいけどねー、クインケ持ち出した捜査官同士の喧嘩なんてコツチでもそう珍しくないでしょう？」

「……………そうなんですか真戸さん？」

「……………日本ではそんなことはないが……………今日のところはそういうことにはしておこうか」

それだけ言うと呉緒はブリギツテに近づき、彼女にだけ聞こえるように小さく呟いた。

（捜査官の真似事とは反吐が出る。その首叩き落とすまで精々、大人しくしている）

（もー、だから私は准特捜査官のブリギツテ・シュレヒテだって。ぶつきーて呼んでね♡）

そして、二三の言葉を交わした後、呉緒は亜門を連れ、ブリギツテは伴侶を連れてそれぞれ真逆の方向へ歩んで行った。



「いやあ……今日は愉しかったわねダーリン！ とっても刺激的なデートだったわー」

自宅に戻り、相変わらず、よそ行きの性格のまま、いつになく機嫌が良さげな様子のヴィルヘルミナにあなたは顔をひきつらせていた。捜査官とのやり取りの最中も破顔してしまわないように必死だったのである。

そんな彼女にあなたは本気で捜査官になる気なのかと問い掛けると、彼女は少しキョトンとした後、ポンと手を叩いた。

「ああ、そう言えばアナタには言ってなかったわね。うん、私ね。元々、愉しそうだから喰種捜査官トになることにしてたの。共働きの妻つてのも夫婦つぽくない？ まあ、私の赫子は忍法影分身も出来るから程々にやるわ」

” Vヴィーの連中だっていっぱい捜査官やってるんだからへーきへーき”等と言いながら、

ヴィルヘルミナはさも当然のように付け足した。

「つきましては、来年に新米”三等捜査官”兼私の相棒になる予定よ。ねー、ダーリン♡」

そう言つてヴィルヘルミナは、スーツ姿のアナタの写真がしつかりと載つたCCGの仮証明書は何処からともなく取り出し——あなたは目が飛び出そうなほど驚いた。

「なにダーリン？ 夫婦一緒に捜査官をしているなんてドイツじゃ珍しくもないし、私の士気が上がるからこれは上官命令よ？」

どうやらヴィルヘルミナの中では、あなたを喰種捜査官にする気満々らしい。一般人のあなたからすれば堪つたものではないため、流石に食い下がる。

そんなあなたの言葉を聞いた彼女は本棚に向かい、一冊のマンガ本を手に取るとあなたの目の前に置いた。

「大丈夫よ。だつてほら……じゃん！ この”ダイの大冒険”だつて大魔王バーン様を倒すまで、長くともたつたの3ヶ月ちよつとのお話なのよ？ それより4倍近い期間がある上、教えるのはこれまでいっっぱい喰種も捜査官も食べてきたお姉さんだもの！ 大船に乗つたつもりで任せて！」

乗せられている船がUボートな上、ドイツの軍艦もロクな目に会っていないため、あなたは不安しかないので、それをヴィルヘルミナはのりくらりとかわす。

”せめて現実と創作の区別はつけて欲しい”と切に願ったあなたではあるが、そもそも彼女はほとんどファンタジーに下半身ほど浸かった存在であることも思い出して、ガツクリと肩を落とした。

「まあ、さっきの彼らのようなものは一部の例外で、普通の喰種捜査官なんて警官に毛が生えたようなものだし、最悪”シユピール<sup>オ</sup>ドローゼ”でも取り寄せるから大丈夫よ。私が持つてるちよつとだけナチス時代の技術的で素敵なクインケだからきつとアナタも気に入ると思うわ！ あー……いや、普通に心配だからひとづぐらい取り寄せようかしら？ うんうん、それがいいわね！」

そう言つてヴィルヘルミナはとても愉しそうに笑う。かなりSつ気もあるため、こういうときの彼女は大抵あなたにとつての面倒ごとを持ち込むため、とんでもないことが待っているのは想像に難しくない。

更に言えば”オルゴール”なるクインケがどんなものなのか詳細を聞こうとしても、彼女は要領を得ないような事しか話さないため、あなたの不安は募るばかりであった。そんなあなたをたつぷりと眺めた彼女は、舌を小さく出し入れしてから妖艶な視線を向けると、身を寄せて抱き着く。

「んっ……」

そして、何の脈絡もなくあなたの唇に己の唇をそつと重ねた。いつもならばムードも



へつたくれもないため、予想外の不意打ちにあなたは身を強張らせる。

初々しい恋人のような優しいキスの後、唇を離れた彼女は、あなたをしつかりと見つめて言葉を溢す。

「お姉さんっぽいのは今日一日だから、寝るまでしてようと思うんだけど………一  
緒にシない？」

いつもと同じく背中から触手のように伸ばされたやや滑りのある赫子が覗くが、童貞を殺すセーターの背中から出ているため、やや生活感のある妙な艶やかさがある。その上、いつもとは違う性格の人外妻。

完全にそういったプレイと化しているが、元より彼女のことを大好きなあなたにとつて、そんな誘いに抗うことなど出来よう筈もない。

しかし、流石のあなたもあまりに傍若無人は今回の件は腹に据えかねた。それから最近になって気づいたが、あまり彼女に対して遠慮しても善いことはないのである。

なので、せめてもの小さな報復として、あなたは近くをふよふよとた漂っていたヴィルヘルミナの触手のような赫子を口で啜えてみた。

舌で赫子の先端を舐めてみると、そういった行為のための性質を帯びているのか存外柔らかく割りと舌触りがよい。少し歯を立てるとむにむにと中身が移動するのがわかる。

「ツ!？」

すると何故かぶるりと彼女が身を震わせ、少し頬を朱に染めて目を見開き、あなたはハテナを浮かべた。

「ちよつと……何をして——んっ!? やめ……赫子を人間に愛撫なんてされたことな——ふぁ……」

他の赫子も触るとまた彼女が大きく反応する。どうやら赫子を愛撫するような酔狂な人間に彼女はこれまで出会って来なかったようだ。

そもそも赫子は液体の筋肉と形容されるものであり、神経が通っているのかなどあなたは知らないが、どうやらヴィルヘルミナほどの喰種ともなると少なくとも感覚はあるらしい。

そんな事実にとりあえずこれから起こるであろう現実を一旦忘れたあなたは夢中になるのであった。

【バキのピークは】SSSレート喰種だけど質問ある?  
【スベック戦】

1 : 東京喰種

アニメより漫画の方が絵が動くんだもの。それはそれとして、旦那を強くしたいんだが、どうしたらいいと思う? 後で安価取るゾ

2 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なんだア? てめエ……

3 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
独歩、キレた!!

4 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

話を始めるな。まず、スレタイに突っ込ませろ

5：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種姉貴もバキ読んでるグラップラーだったんスね……

6：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

当たり前だよなあ？（スレタイ同意）

7：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

安価に安価を取るなって言ってるんだろ（クソウマギャグ）

8：東京喰種

>>>5

ピクル編ぐらいまでは、まあ首を傾げつつも格闘漫画の彼岸島ぐらいの感覚で楽しめたんだが、流石にそれ以降はちよつとな。ネタ的には美味しいが、武蔵編なんて始まりも終わりも意味わからんし、親子の決着もアレでいいのかとおもふ

9 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ただのフアンな読者で草

10 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ちゃんと読んでますねクレワア……

11 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

喰種の範馬勇次郎みたいな奴が何を……

12 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>11

むしろ、垣ママなんだよなあ……

13 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ターバンのはガキはジャック・ハンマーだった……? ?

14 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

## 浦安鉄筋家族やめろ

15 : 東京喰種

&gt;&gt;&gt; 14

頭空っぽにして笑えるからアレすき。春巻先生はもつと遭難してどうぞ

16 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そつかぁ……（思考放棄）

17 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

強いなあ……

18 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

スレ主が進行を放棄するんじゃないツツ!!

19 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

前々から知ってたけど、コイツかなりオタクだゾク

20：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

スベック戦の躍動感に関しては完全に同意なんだよなあ……

21：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>1

ちなみにパツキン巨乳喰種姉貴ってどんな漫画が好きなん？

22：東京喰種

>>>21

割りと色々読むけれど、特に好きなのは主人公が成長したり、クソほど苦勞して強くなつて強敵を破るようなバトル漫画とか、ギャグ漫画とかかな。バトル漫画は倒す相手が強ければ強いほどいい

ああ、主人公死亡とか、バトルエンドで終わる漫画はモヤモヤするのであんまり読まない。恋愛漫画とかも眠くなるから読まんなあ

23：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

主人公に倒される側の喰種が何か言ってますね……

24：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

男子中学生みたいな趣味してんなこの人妻

25：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

バキ好きなわけだ……

26：東京喰種

ああ、付け足すと別に恋愛模様はどうでもいいが、ヒロインが途中で死ぬ作品もNGだな。感情移入させたところでカチスカシをさせたいのかも知れんが、そんなもの日頃から見飽きているので面白くもない

バキでも武蔵編でやられた時はキレそうになったぞ

27：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

わかるマン



28：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

(あれ……？ 思ったよりパツキン巨乳喰種姉貴って俺らだぞ……？)

29：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

バキってヒロイン死んだっけ？ 涼風とかはわかるが

30：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そうだな……義理堅く情に厚い人間の鑑みたいなヒロインだったものな……

31：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ああ、俺もどうせ他のキャラみたいに、トンデモ理論で生き返ると思ったら本当に死ぬとは思わなかったよ……

32：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

大擂台賽編では、一番刃牙のことを気に掛けてたり、復活したときは誰よりも喜んでりしてたしな……

33：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

川でバシヤバシヤしたりぐるぐるパンチしちゃう可愛さよ……

34：東京喰種

ああ……料理上手で褐色肌で黒髪お下げの似合う素敵なヒロインだったんだがな  
……

35：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

はえー、グラップラー刃牙ってよく知らないけど、女性も普通に戦うんすね。表紙とか絵のむさ苦しさとか見る限り、男しか出ないレベルかと思ってたわ

36：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前らナチュラルに烈海王をヒロイン扱いするの止めろ

37：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

違うの!?(驚愕)

38：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

誰が何と言おうと、バキのヒロインは烈海王だったんだよなあ……生き返れ生き返れ……（叶わぬ望み）

39：東京喰種

烈がヒロインでないだと……？ 貴様義務教育を受けていないのかツツ!!

40：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

バキは義務教育系喰種

41：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

何スレか追って確信したが……パツキン巨乳喰種姉貴はただのオタクだよな

42：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

綺麗で喰種な俺ら

43：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

で？ 結局、今日のスレって何の話だっけ？

44：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

今日のバキスレはここですか？

45：東京喰種

ああ、忘れてた。そうそう、旦那を強くしたいんだが、何かいい方法ある？ 後で安価取るゾ（鋼の意思）

46：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そんな意思捨てちまえ

47：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

安価しないと生きていけないんですかねえ……？

48：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

結婚ニキネキに何があつたんだ……

49：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

まあ、男と生まれたからには、誰でも一生の内一度は地上最強の男を夢見るからね、仕方ないね♂

50：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

結婚ニキネキの性別は不明定期

51：東京喰種

>>>49

女の子でも最強を夢見た結果が私だゾ

52：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

常に誰かを殺傷したい病の勇次郎ですら、手にかけるのは戦力を有している者か、敵意を向けてくる者だけだ。自重しろ馬鹿がツツ!!!

53：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

山の頂きに立つたら高過ぎて降りて来られなくなったただけなんじゃないの？

54：東京喰種

てへぺろ★（・ω・）

55：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

（イラッ……）

56：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ノリが軽すぎる　　|114514

57：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

どれぐらい結婚ニキネキを強くしたいの？

58：東京喰種

>>>58

とりあえず、私の第一形態と戦えるぐらいかな？

59：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

変身をあと2回残してそう

60：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

フリーザ様は第四形態までとゴールデンフリーザがあるからね

61：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

まず、第一形態のスベックを貼って貰えるかな？（面接風）

62：東京喰種

>>>61

そうだな……よし、ちょっと動画撮ってくるから待ってるお前ら

1  
0  
3  
:  
東京喰種



ただいま

104 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

山へおかえり!

105 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

うわ、帰って来た

106 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

デーデンデーデンデーデン♪

107 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

デー·····デッデン♪デッデッデデン♪

108 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

この前ニコ動見てたらすね

109 : 東京喰種

うん

110 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

うんじゃない

111 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

星ちゃんニュースまで知っているのか…… (啞然)

112 : 東京喰種

さて、という訳で1分程度の動画を撮ってきたので見るがいい

【動画】

113 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

えっ……500円玉とトランプ……あっ (察し)

114 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

スゲー……500円玉を指でへし曲げて、ランプを指の形に挟り取ってる……

115：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

うーん、これはピンチ力

116：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

握撃じゃないかツツ!!!

117：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

花山薫やめろ

118：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やっぱりバキじゃないか(歓喜)

119：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

指きれい(現実逃避)

120：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

確かこれって掌全体じゃなくて指2〜3本だけでしている関係で、600kg〜1tぐらい握力必要なんだっけ？

121：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ヒエツ

122：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

これにつねられたスペックは確かに泣き叫びますねえ……

123：東京喰種

私第一形態はこんな感じだな

- ・軽く500円玉をぺしゅんにしたりトランプを千切り取ったりできる
- ・400m3・4秒
- ・裏拳で寺の鐘鳴らせる
- ・無呼吸潜水時間284分
- ・Sレート以下のクインケはほぼ肉体の頑強さで弾く

・マグマはぬるま湯

・超絶かわいい

124：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そう言えば前に人間の100倍以上の身体能力があるとか言ってたもんな……

125：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

第一形態って要するに赫子使ってない素のスベックじゃねーか

126：東京喰種

>>>125

そうともいう

127：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

走力だいたい時速400kmなんです、それは……

128：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

確か、裏拳で寺の鐘を鐘つき撞木と同じように鳴らすって時速305kmぐらい必要で、エネルギー量で言えばアンチマテリアルライフルの4〜5倍必要だつて聞いたことがあるゾ

これは120〜200mm程度の鋼板をぶち抜く程度の威力で、鋼板を装甲としていた大戦兵器と比較するとティーガーやISなどの重戦車を真正面から殴り壊せる程度の威力らしいゾ

129：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

プロボクサーのパンチが時速30km〜40kmらしいので約10倍速。威力∥速度×質量の2乗なので約100倍の威力だな

130：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ホモは博識

131：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そんなこと知ってる兄貴たちなんでこんなスレにいるんですかね……

132 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

喰種のことをやたら正確に語ってくれるスレ主なんてコイツぐらいだからだゾ

133 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

つまり第二次世界大戦で、時速400kmで駆け回りながら正面から拳で重戦車破壊してたのかコイツ……

134 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

しかも裏拳ってことは正拳突きならもつと威力あるっていう

135 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

握力で石炭を人工ダイヤモンドにはできないの？

136 : 東京喰種

>>>135

あれ、やってみたんだが、赫子使わないと無理。10万気圧は素手じゃ無理だし、1200℃も赫子じゃないと無理

137：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

もうやってるし……

138：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

うわ……この喰種赫子なら人工ダイヤモンド作れるって言ってる……

139：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ここまであわいい指摘なし。ここからかわいい指摘なし

140：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

シッ！ 言っちゃダメでしょ！ 彼女が可愛くないことなんて誰でも知ってるんだから！

141：東京喰種

>>139

>>140



気の毒だがボウヤ。こいつは使わねエ。分かるかい？ 俺の拳は凶器より危険と言  
う事さ

142：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ムチャシヤガツテ……

143：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おもしろいやつらをなくした

144：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

スバツク止める。無呼吸連打284分とか、花山がミンチになるじゃねーか

145：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

まあ、凶器とか使うよりぶん殴る方が強いのは間違いないだろうしな……

146：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

申し訳ないが、ティーガー戦車の正面装甲をぶち抜ける拳を人体に使うのはNG

147：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

手足で神を破壊してそう（小並感）

マジで、この喰種……なんでこんなに強いんだ本当……

148：東京喰種

>>147

オレはね、レベルを最高に上げてから敵のボスキャラに戦いを挑むんだ。敵のHPは10000くらいかな。オレは全然ダメージを受けない。しかしオレの攻撃も敵の防御力が高くて100くらいずつしかHPを減らせないんだ。妙な快感を覚える反面ひどく虚しくなる

149：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

仙水やめろ

150：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

幽白とか懐かしすぎる……

151 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ネタの範囲が広過ぎる +114514879

152 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

嘘つけ、絶対敵のHPに10万ぐらいのダメージ出せるゾ

153 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

だからコイツ虚しくなってこんなスレとか始めたのか……

154 : 東京喰種

>>153

そうだよ(便乗)

155 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ちよつと可哀想

156：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>155

ストックホルム症候群だ騙されるな

157：東京喰種

これはね坊や。喧嘩のような甘くくい世界じゃないんだ。私のような世界に生きる人間にとって、勝負とは？

——安価だ（旦那を強くする方法）

>>168

>>171

>>180

>>181

>>189

158：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

安価だったのか……

159 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

大胆な安価は女の子の特権

160 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

筋トレ

161 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

安価番号に114514がない | 1145141919879

162 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ムエタイ

163 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

喰種捜査官になろう

164 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>161

1の位の数字を縦によく見ろ

165：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
汚すぎる

166：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
あのさあ……

167：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
先輩!? まずいですよ!?

168：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
二人は幸せなキスをして終了

169：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
八極拳

170：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
捜査官狩り

171：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ご機嫌な朝飯

172：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ジム通い

173：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
念能力

174：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
柔道

175：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
キックボクシング

176：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

いや、まずクインケ使わせてやれよ

177：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パパがね…2つしかくれないの………キャンデイ…ボクは…たくさん欲しいの  
に………

178：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

同人活動

179：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

師匠を見つける

180：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

無呼吸連打



181：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

14キロの砂糖水

182：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

相撲

183：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

琉球王国のみに伝わる歩法

184：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

シャオリー

185：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

一回し受けてパツキン巨乳喰種姉貴の火炎放射を防ごう

186：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

護身完成

187：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
空掌

188：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
環境利用闘法

189：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
中国拳法

190：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
魔界のオジギソウは気が荒い

191：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
グルグルパンチ

192：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

バキまみれかツツ!!

193 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

流石に草

194 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

まあ、今日これまではほとんどバキの話してたからな。仕方ないね♂

195 : 東京喰種

ふむ、まとめると――

・二人は幸せなキスをして終了

・ご機嫌な朝飯

・無呼吸連打

・14キ口の砂糖水

・中国拳法

こんな感じか、無難だな

196：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
無難かな……そうかな……そうかも……

197：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

5分の2は食べ物なんですがそれは……

198：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

結婚ニキネキかわいそう(他人事)。というか、無呼吸連打は未だしも中国拳法なんて  
どうやって習わせるんだ？

199：東京喰種

>>198

その辺りは考えているから問題ない。既に暇そうにしている中国拳法の達人な飛  
びつきりのゲストを呼ぶ手筈を整えたからな

さてさて、それではここから先は——バキの話でもするか

200：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やっぱりバキスレじゃないか  
ツツツツツ!!!



「おはようアナタ」

朝、睨がまだ重たいあなたは、いつものように先に起きているヴェルヘルミナの声で起こされた。

妻らしい奥ゆかしさ……というわけでは全くなく、彼女は朝5時には自然と起きてしまうため、ほぼ必然的に起きているのだ。最初にその話を聞いた時に”おばあちゃんみたい”等と思ったが、口に出さなかつたあなたは賢明であろう。

そして、ゆつくりとあなたが睨を開けて、枕元で正座をして仏頂面でこちらを見下ろすヴェルヘルミナを視認し——何故か彼女の髪型が、”三つ編み”になっていることに

目を丸くした。

それも不思議な程によく整えられた見事な三つ編みであり、彼女の髪の毛の長さもあつてかなりロングであるが、それでも相変わらず、彼女の美しさを更に引き立てているのだから流石と言えよう。

「まず、ひとつ——」

すると次の瞬間、ヴィルヘルミナの背からしゆるしゆると触手状の赫子が伸びると、あなたの背中を少し浮かべて座らせるように支える。

それと共に彼女が近づき、彼女の唇があなたの唇へと重なった。

「ん……」

あなたは突然の行動に固まり、そのまま数秒の時間が流れる。

そして、ヴィルヘルミナは唇を離し、それと共に赫子も背に引つ込むと真顔のままポツリと口を開いた。

「二人は幸せなキスをして終了」

この発言で全てを察したあなたは真つ先に”スレをチェックさせてください”とヴィルヘルミナに懇願する。

それを許可してから、朝飯があるのでリビングに来るようにとだけ促して部屋から退出した彼女を尻目に、あなたはパソコンを立ち上げると、2く3分と経たずに頭を抱え

るのであった。



「おいでおいで」

リビングに来たあなたはヴィルヘルミナに招かれるままにフローリングではなく、和室の方に通された。

そこには丸く如何にも庶民的な一人か二人用のちゃぶ台が置かれており、その上にあなたのための満載の朝食が置かれている。

その献立は卵を4つも使ったベーコンエッグ、ワカメのみそ汁、さんまの塩焼き、大盛りごはん、ポウルいっぱい山の盛りキャベツらしい。それにあなたは猛烈な既視感を覚え、思わず顔を引きつらせた。

「あざめし機嫌な朝飯だ……」



ニンマリとしたり顔でそんなことを呟くヴィルヘルミナ。如何に下らない事であろうとも、行動力の化身が如く行う彼女の無駄なプロフェッショナル精神は他者も見倣うべきところであろう。

「一度言ってみたかった」

尤も当の本人はその一切を全力でエンジョイしていそうな辺りは始末に負えないところだ。

あなたはそんなことを考えつつ、常人には些か朝にはキツイ量のご機嫌な朝飯と云えども、とりあえず作ってくれたヴィルヘルミナに感謝を述べつつ平らげようとするのであった。



「では強くなろうじゃないか、アナタ」

なんとかご機嫌な朝飯を完食したあなたは、ヴィルヘルミナにさせられるままにジャージを着せられ、ゴルフ場のように広い庭の中にポツンと屋敷が建っているようなただっ広い場所に来ていた。

そして、目の前には三つ編み姿のまま、あなたと同じデザインジャージを彼女も着ており、誰が見てもこれから身体を動かすということはわかるであろう。

経緯としては、食後直ぐに着替えさせられると、外で既に運転手付きの黒塗りの高級車が手配されており、それに乗り込んで着いたところが、山間に近い東京郊外のここに降ろされる。そして、ここはVが所有している施設のひとつらしい。

”ある程度、ヴィルヘルミナが暴れても問題にならない場所”。要するにここはその為だけにVが貸した場所である。世界レベルの超問題児のために最大限の譲歩をしなければならぬVという組織をあなたは気の毒だとすら思っていた。

「君イ、頼んでたモノは持つて来てくれた？」

「ええ！ モチロンですよヴィルヘルミナ様！ さきつ、こちらをどうぞツッ！」

そして、笑みを浮かべたスーツ姿の好青年が、ひれ伏すような勢いで、ヴィルヘルミナにそれらを見せる。

それらは彼のそれぞれの手にある”果糖”と書かれた貼り紙が付いた古めかしい壺と、銀色が眩しい金属バケツ、そして足元に2リットルのミネラルウォーターが7本ほ

ど置かれていた。

彼はここまでの運転手兼雑用係にされており、この場に置いての一番の被害者であることは明白なため、生暖かい目をあなたは向ける。

「よし、これでいつでも毒を裏返せるな」

「バキ面白いですよねえ。無茶苦茶なところがまた面白いと言いますか」

「まあ、喰種も大概似たような存在だがな。イチイチ、我々の身体に突っ込んでいたらキリがない」

「いえいえ、そのようなことはありませんよ!」

まあ、不幸中の幸いと言えば、何故か珍しくヴィルヘルミナが雑用係の彼に対して初対面から好意的な事であろう。

後、何故か彼も割りとサブカルチャーに明るい。恐らく、そういう意味でも気を使つた人選をしたのだろうとあなたは考えた。

「さてさて、後は無呼吸連打と、中国拳法だったな。ちゃんと先生も用意したぞ」

そう言われたあなたは彼に目を向ける。糸目で細身の男性のため、確かに中国拳法を修得していても可笑しくはなさそうだとあなたは納得する。

「ええっ!!? ボクですか!!? そんな滅相ありませんよ!」

しかし、彼は表情をコロコロと変えて、あなたの疑念を全力で否定する。

どうやら彼ではないようだが、そうなった場合、この場にはあなたとヴィルヘルミナと彼の三人しか存在しないため、首を傾げるばかりであった。

「おいおい、いるじゃないかここに……こんなにも素晴らしく美しくも愛らしい師匠が——」

その次の瞬間、ヴィルヘルミナは着ていたジャージの上下を目にも止まらぬ速度で取り去って、彼方へと放った。

そして、彼女は余りに扇情的で、スリットがとても深く、羽赫と甲赫を出すことに全く支障がない程度にザツクリと開いた赤い——チャイナ・ドレスを着ていたことに気付いただろう。

「じゃーん！ 今日特別ゲストの中国SSSレート喰種——”？糞工”ちゃんを連れてきちゃいました！ 彼女は中国に滞在した20年以上の間、赫者でありながら暇潰しとして、ありとあらゆる中国拳法を体得した天才武術家ツツ!!」

その言葉と共に胸を張るヴィルヘルミナに、あなたは目を丸くした。そして、遂に彼女の思考が創作と現実の区別がつかなくなってしまうのではないかと本気で心配もする。

しかし、その心配事は目の前で彼女が明らかに堂に入った構えを取り、技の完成度や足の運びが明らかに異なる殺陣を披露して見せたことで消え去った。

絵面はまるで華のように美しいが、その中身は明らかに一撃一撃が人体の破壊や急所を突くことを目的としたもので、異質なほど殺傷に特化しており、はつきり言つて真つ当な武術とは決して呼べぬ代物である。

しかし、素人から見ても触れでもしようならば、瞬時に己が弾け飛ぶ情景がありありと浮かぶほど、それらは速く、重く、鋭く、それ以上に洗練されていた。

そして、約一分ほど殺陣をしたヴィルヘルミナは、最後に拳を掌に合わせ、深くお辞儀をすると終わりを迎える。

「私が世界最強の喰種を目指していたのは本当のことだぞ? 何せ昔からリアルでもレベルを最高まで上げてボスキャラに挑むようなポリシーだ」

”まあ、暇潰しだがな” と言いながらヴィルヘルミナはカラカラと笑った。

それから辺りを見回し、無造作に放置された2〜3mほどの庭石に目をつけると、片手で拳を作つて軽く構えたままゆっくりと歩いて行く。

「んー……とりあえず」

そして、庭石の目の前まで来ると、握り拳で軽くコツンと触れ、踵を返すとあなたへと向き合った。

「この辺りが努力目標かな？」

そう呟いた直後、ヴィルヘルミナの背後にある拳をぶつけた庭石が爆弾でも仕掛けられていたかのように派手な音を立てて爆散する。

余りにも現実離れた光景に思わず、あなたは真顔になり、雑用係の彼も僅かに顔をひきつらせていた。

「ちなみに今日の雑用係は私が直接指名したんだがな。何故だと思うかね雑用クン？」

そんなことを言いながらヴィルヘルミナは何故か己の胸の谷間に手先を入れる。

そして、手が抜き出されたとき、そこには赤い宝石のようなもの——ヴィルヘルミナの赫包から出来ているSSSレートクインケ、ゲイ・ボルグの待機形態が現れた。

更にそれを變形させて赤い槍に変えると、そのまま雑用係の彼の方に身体を向けて、屈託のない笑みを浮かべたままゆつくりと歩み寄る。

その明らかに異質な彼女の様子に彼は朗らかな笑みを浮かべたまま、さも平然だが不安げでもあるような態度を示す。

「さ、さあ……私のような浅慮の輩には滅相も——」

「御託は並んでいいぞ？ こちとら一世紀以上、嘘を吐き続けた道化ビエロにして大嘘つきよ。他人の嘘などは手に取るようにわかる。君イ、その実欠片足りとも他者に気を許していない気の張り方なんてしてたら丸わかりだぞう？」

その言葉に雑用係の彼は僅かに目を見開き笑みを幾らか消す。その表情は怒りにも見え、眼光は睨むようにも思えただろう。

「私がどれほど様々なモノを喰らうて来たか……とく佳い匂い、血肉の質、筋の撓りしな、細胞の音、どれを取つても通常の”半人間”のそれではない。並み居る特等捜査官よりも出来るだろうなあ……」

「……なんのこゝとでしよ——」

「拾え」

その言葉と共にヴィルヘルミナはゲイ・ボルグを彼へ向けて放つたと思えば、あなたから見れば消えたとしか思えない速度で彼の正面に迫り、心臓に目掛けて振り絞つた拳を放つた。

それに対して、即座に反応した彼はゲイ・ボルグを拾い上げると共に、拳に合わせて矛先を突き出す。

そして、互いの拳と槍が交錯したその瞬間——。

「あ——？」

ゲイ・ボルグの矛先がバキリと音を立ててへし折れ、飛び散ったそれが彼の頬を掠める。

更にそのまま、ほぼゼロ距離に迫ったヴィルヘルミナは、もう片方の拳を彼の胴体へと吸い込まれるように放つ。

「があっ……!?!」

たった20〜30cm程度の腕の移動動作によつて、人体から決して出てはいけなような鈍く重い音が響き渡り、くの字に身体を折り曲げた。

十数m転がると、四つ這いになって胃の中のもの全てを吐き出した彼を見れば、勝敗はその一撃でほぼ決した事が見て取れるだろう。

「まずは中身を出さねばな。んー……」

とは言え、ゲイ・ボルグの赫子部分を殴り壊したヴィルヘルミナの拳も無事では済まなかったようで、拳には大きな傷が刻まれている。

拳を少し眺めた彼女は何を思ったのか、もう片方の手で手首を持つ。

「えいつ。あーん……はふはふ……。うーん、やっぱり私は美味しいなあ……」

そして、傷付いた拳を手首ごと引き千切り、それを骨や爪ごとムシヤムシヤと食べると、直ぐに根元から無傷の新たな拳が生えた。

それは実に喰種らしく、理不尽に満ち溢れていることだろう。



ちなみにあなたからすると、彼女が口寂しくなったり、ゲームで負けて悔しがっていたときにたまに見掛ける行為のため、爪を噛む癖のようなモノの延長線だと解釈していたりする。人前ではお行儀が悪いので、後で叱らねばならないとあなたは決意する。

それに相對している雑用係の彼は、地に伏したまま再びゲイ・ボルグの発生機構を作動させると生え変わるように元の槍へと戻った。どうやら本体の石突き部分さえ無事ならば問題ないらしい。

SSSレートクインケの刺突を、赫子すら纏わせていないただの喰種の拳が突き穿つ。そのようなことは常識的にあつてはならない。

しかし、目の前の喰種は非常識と殺戮が服を着て歩いているような存在である。

「ふざけやがって……!」

クインケの起動の直後、彼は無手で完全に油断しているヴェルヘルミナへ飛び掛かると、しゃくりあげるように槍を振るう。

それは紛れもなく、彼女の顔を捉らえ、確かに薙ぎ払うと共に硬い何かに当たったことで止まった。

「はああ……!?!」

「流石に硬いな……中を少し切ったぞ」

しかし、槍の切っ先がヴェルヘルミナの鋭利な歯で止められている光景を目にして彼

は叫ぶ。

更に槍先がミシミシと異音を立て始めたことで、彼はクインケの作動を止めて縮めると彼女から距離を取り——その瞬間に数倍の速度で地を駆けて、彼の背後に回り込んだ彼女が背中中に肘打ちを叩き込んだ。

「……ぎゃい!?!」

「私に特等捜査官数人を当てねばならぬのは、? 糞工と呼ばれていた頃に出来た規則でな。速過ぎて誰にも捉えられぬから困むしかないのだ。君ならばとも思ったが……興醒めだな」

ヴィルヘルミナは目の前で地に沈んだ彼の背を見つつ、手から離れたゲイ・ボルグを蹴って飛ばして無力化してから、まだ口が回るようでも語り始める。

「そもそもそのクインケはいつの赫包を使ったと思ってる? 半世紀以上前のこの私の赫子だぞう? そんなもの性質も実力も最早別人——」

「——!」

そこまで言った直後、うすづくま蹲っていた彼が身を翻すと共に2 mもない距離から飛ばされた筈のゲイ・ボルグによる刺突を繰り返す。

それには流石のヴィルヘルミナも目を見開いていた。

種明かしは簡単なことであり、元々が小さな特性から、彼自身も保有しており、それ

をこの場で初めて展開して見せただけのこと。つまりこれまでの彼は演技のようなものであり、彼女は彼の実力を見誤りながら隙を晒したことになる。

そして、その慢心は余りに大きく、展開されたゲイ・ボルグにとつてはほぼゼロ距離と言つても差し支えないため、確かにそれは回避が間に合わぬヴィルヘルミナの掌と肩を刺し貫き――。

――即座に腕をもう片方の腕で切り離れた彼女から強烈な膝蹴りを受けて身体が浮き、残った手の殴打で地面に落とされ、止めに踵落としを胴体へと受けてより地に深く沈む。

「あろろ……ろ……？」

「――喰種にとつて手足などあつてもなくとも大差ないものだ。自分で切り離れた分ならばすぐに生える」

彼を踏み付けながらそう言う彼女の片腕は、肉々しい水音を立てながら即座に生え直す。

新たな腕の感覚を確かめるように、腕を回して拳を何度か握つて開いた後、彼女は指を一本立てておちよくなるように横に何度も振つた。

「冥土の土産に覚えておけクソガキ。不意討ちなんぞで他者を倒そうとする輩はな。本物の強者を知らず、向上心すら端からない弱者だと己を思いたい連中がやることだ。そ

んなもの……百億万回やったところで私には届きはしない」

そして、彼の手元から離れた2本目のゲイ・ボルグを待機状態に戻して”これは君との戦いの記念に貰って行くぞ?”と言ってから回収すると、おもむろ徐に残った己の腕の残骸に口を付けて、その美味しさに頬を緩めているように見えた。

「ク、クソゲー……なにこ、なにこれ……聞いてない……」

「私が強いのではない。他の喰種や人間に向上心が無さ過ぎるのだ。誰が言ったか、他者より強く、他者より先へ、他者より上へ。不遜に、傲慢に、全てを殺してでもそう願った結果が私だ。誰よりも美しく、気高く、最強であると己を愛し続けた喰種がこの私だよ。……君はそれほど自身を愛せているかね?」

「……………ああ、それは勝てないですねえ」

ヴィルヘルミナの問いに数秒間、沈黙した彼は観念したようにそう呟く。

実際、彼女の攻撃は何れも並みの人間が受ければ、一撃で血染みに変わるような威力であり、それを耐えているだけでも彼は恵まれた肉体をしているのだろう。

しかし、彼女はそれすら比べ物にならないほどの別次元だった。ただ、それだけの事である。

「後は有馬貴将とかいう奴ぐらいか……。そちらはもう少し愉しめるといいのだがな。強さとは我儘を押し通す力! うーん……私の生きざまにピッタリの素晴らしい言葉

だな」

「絶対このひと……生まれる世界、間違えてるよ……」

嘆くように呻く彼に、ヴィルヘルミナは「ちなみに今まで使った技の大半は義和拳という奴だ。鍛えた肉体は銃弾すら弾くとか宣っていた義和団で有名な奴だな」等と付け足しつつ、何かを思い出したように手を叩く。

「ああ、そうそう……それで君を雑用係に指名した理由だったな」

そして、ヴィルヘルミナは小さく舌を出すと、己の下唇をぺろりと軽く撫でた。

「顔合わせで行った和修家で遠目からざつと目を通した限り、君が一番殺し喰らい甲斐美味がありそうだったからだよ。要するに君は今日のランチだ」旧多二福「クン？ それとも本名の和修旧多宗太と呼ぼうか？」

「——人生オワタ」

そんなあなたからすれば至って平常運転なヴィルヘルミナの行為を眺めつつ、流石にヴィVと、ここまで運転してくれた旧多二福が気の毒に思えて来たため、そろそろ止めようかと悩み始めるのであった。

ちなみにあなたが普通自動車免許を持っており、ヴィルヘルミナも本物を偽造した自

う。動車免許を持っているため、帰りの手段は特に問題なかったことをここに記しておく。

## 鳥刺し

「しよんぼり……」

旧多二福という半人間らしい青年をヴィルヘルミナが倒し喰らおうとしてから数分後。

芝生の上に互いに座りつつ、あなたに諭された彼女の姿があった。

これも最近になって気づいたことだが、いつもあなたを振り回しまくる彼女ではあるが、安価等の決まった予定にないことは割りと普通に折れてくれるのである。

まあ、今回は半人間は美味しいらしいので彼女も渋っていたが、彼女のために用意した六台のゲーミングパソコンをメンテナンスまでキッチンと小まめにしに来ている<sup>ヴィ</sup>の涙ぐましい努力と配慮を語った辺りで、義理堅いと自称している彼女は、口をへの字にしつつも折れた。

あなたからすると、メンテナンスの度にスーツ姿の体格のいい男性数名が家に来るのは、未だに余り慣れないがそれはそれである。

「あの……なんでもいいですけど、助けていただけるとはならそろそろ何かしらの処置か、救急搬送を手配して頂きたいのですが……こう見えて僕結構ギリギリでして……」

すると地に伏しながら辛うじて頭だけ上げてそういう旧多が、笑みを浮かべたまま、まだ余裕そうに余裕の無さそうなことを言っていた。

確かに笑みは浮かべてはいるが、脂汗とも冷や汗ともつかぬ汗を額から流しており、割りと限界そうにも見えるため、何かしらの処置が必要なのかも知れない。

しかし、処置をしようにもヴィルヘルミナにあれだけボコボコにされたとなると、あなたが出来るような処置の範囲は超えているだろう。また、救急搬送にしてもここは閑静な山間の施設のため、多少時間が掛かるのも目に見えている。

ならばと、あなたはヴィルヘルミナに声を掛けた。

「えっ、デジマ?」

マジもマジである。あなたはペットを拾ったら最後まで面倒を見なければならぬように彼にも責任を最後まで持つように諭す。

要するにヴィルヘルミナの赫子は治療も出来ることはあなたも知るところのため、彼女が治療するように促すのであった。

「なんか日に日に凶太くなってるような……」

「——もがっ!?!」



”SSSレート喰種なんだぞう”等とブツブツ呟きつつもヴィルヘルミナは、あなたに従って旧多の傷口や口に向けて赫子を差し込む。

相当根深く体内まで赫子を入れているのか、若干白目を向き、ビクビクと身体を痙攣させる旧多だったが、30秒もしない内に処置が終わったようである。赫子は引っ込められた。

しかし、まだ地に転がっている旧多に彼女は口を尖らせる。

「おい、治療は済んだぞ？ オマケに幾つか病の根になりそうな部分も治しておいたか

ら、むしろ戦う前よりもマシなはず——」

「リゼ……お婿に行けなくなっちゃった……」

「……………」

流石のヴィルヘルミナもそんなすつとんきようなことを言っている旧多に、話の途中で閉口した。

やはりまだまだ余裕があったのかも知れないとあなたも思うが後の祭りである。

「まあ、なんでもいい……。旦那もこう言ったことだ。それに免じて物理的に歯向かわなければ不問にしてやろう。もちろん、頼んでいたコイツのクインケは持って来ているな？」

「え……？ いや、確かに持って来っていますが、制御もままならないあれを素人にいきな

り使わせるだなんて自殺行為以外の何物でもないといいますが、そもそも一般の方なら倫理的に見せるのも控えた方が——」

「うん、そんな些細なことはどうでもいいから今すぐに持つて来い」

「アツハイ」

自身の妻に凄まじいジャイアニズムを感じている中、旧多は健気にも今いる広い庭に隣接する平屋の日本家屋の豪邸までダツシユで向かう。

そして、暫くするとクインケが入っている銀のアタツシユケース——と言うよりもマジシャンが脱出マジックで使うような人が入る大きさの改造ロッカーのようなものをひとつ抱えて持つて来た。

どう軽く見積もつても100〜200kgはありそうなものに、中身が詰まっているとすると70〜80kgはありそうなそれを重さを感じさせずに持つている辺り、確かに旧多は実力者なのだろう。

「ぜえ……ぜえ……お待たせいたしました。確かにここに——ナチス・ドイツ製旧式オルゴール”ナグルファル”、識別名”鳥刺し”です」

鳥刺し——野鳥を籠や鳥餅や長い棒などで捕獲する昔の職種名が付けられた棺桶のようでもあるその扉が開かれ、中身が露になる。

そこにはあなたよりも一回りほど小さな体格をした色白で黒髪女性の姿があり、

ヴェルヘルミナのものよりも若干簡素なナチス親衛隊制服を着ている。そして、そんな彼女はまるで眠るように安置されていた。

あなたは一見したところではアラブ系の美人に見える女性を見つつ、本来あなたのクインケが入っている筈のところ、服装から恐らくは喰種かヴェルヘルミナの所縁の者であろうと予想の立つ女性が入っていることに首を傾げる。

「んもー、これが前に私が言ったあなたのクインケよー？」

するとあなたの肩に手を乗せて、いつぞやのお姉さんっぽいものとしての口調でそんな事をヴェルヘルミナが言ったため、考えないようにしていたあなたは遂に観念した。

「よし、ではまずドイツ語でシユピールドーゼ。日本語でオルゴール、そして我がナチスの”ナグルファル”というクインケの事から説明しよう——」

それから彼女は非常に懇切丁寧な説明が始まった。

ナグルファル——第二次世界大戦時代にA S S S レート相当の戦闘能力を持つ”

最後の大隊”<sup>ラストバタリオン</sup>の兵士が戦死し、喰種の死体が残った場合にそれを余すこと無く有効利用

しようとした結果と、いつまでも戦争をしていたという隊員の総意が生み出した悪魔の産物である。

クインケの赫包コントロールと遠隔起動機構を応用し、兵器として造られたナチス・ドイツ製の試作クインケの総称であり、自立式人型クインケである。喰種本来の身体能力と赫子を生かす事がコンセプトなのだが、当然のように人道の配慮などされていない。

そして、後世になるとナグルファルと似たようなコンセプトで造られたクインケはシユピール<sup>オ</sup>ドル<sup>ゴ</sup>ーゼと呼ばれ、ドイツCCGでは試作運用されたが、結果は芳しくはなく、表向きには破棄されたアイデアとなっている。実際はV<sup>ヴィー</sup>が回収して日夜開発が行われていたところ、最近になってレッドプールが参入した事によって技術提供されたナチス・ドイツのクインケ技術の一部により、大幅に研究が躍進したらしい。

また、ナグルファルとは、北欧神話に登場する死者の爪で造られた巨大な船であり、ラグナロクの際には巨人や死者の軍勢を乗せてアースガルズに攻め込むこととなる。

更に心底どうでもいい蛇足だが、死者<sup>ツ</sup>あるいは妖精<sup>ハ</sup>の狩獵団<sup>ト</sup>とどちらの名前がいいか、”最後の大隊<sup>ラストパタリオン</sup>”内で多数決を取った結果、ワイルドハントになったのだが、命名者のヴィルヘルミナがブルー垂れたため、ナグルファルになったらしい。

「ちなみにナチス・ドイツの形振り構わぬクインケ技術は現代のクインケ技術でさえ、オーパーツと言わしめる程に高かったぞ。実際、当時の技術の粋を集めて造ったナグルファルは未だにV<sup>ヴィー</sup>ですら完全なブラックボックスだ」

”まあ、当時はクインケではなく単純に生体兵器だったがな。戦争は技術を最も躍進させるとはよく言ったものだ。それ故にブラックボックスの現物以外の技術を”  
ラストバタリオン  
 最後の大隊”の残党ごとほぼ全てを持ち逃げした私を、いち組織として奴等は恐れているのだ”等と更に言葉を続けるヴィルヘルミナ。

つまり目の前にあるこの女性性は、紛れもなく人型女性の形をしたあなたのクインケらしい。悪意で造られた善意のプレゼントである。

「あのー……一応、僕はVなのですが、べらべらと喋って宜しいので？」

「こやつめ、ハハハ。私の経験上、君のような者はより長いモノに寄生し、虎視眈々と宿主の首を狙い、あわよくば己とすげ替えようとする。それが、今は大人しくしていると  
ヴィー  
 は言え、Vと正面から十全以上に殺り合える”最後の大隊”の感情を少しでも逆撫でする理由があるかね？ 最低でも勝手に潰し合わせ、あわよくば私の力を己の手にしたい。そんな算段なのだろう？」

「ははは、いえいえ、そんな滅相ありませんよー！ 買い被りすぎですってー！」

更にヴィルヘルミナによれば、この旧多二福という青年もかなりの腐れ外道らしい。あなたはどこから突つ込むべきか悩んだ結果、とりあえず自身に一番関係のある方に意識を集中させた。

「おお、そうだ。このナグルオフアルルの説明が未だだったね。彼女のナチス・ドイツ時代の

コードネームはパパゲーノ。本名はアシラ。元ドイツ喰種対策局“SSSレート喰種”であり、当時は“鳥刺し”と呼ばれていた尾赫の赫者だ——」

ヴィルヘルミナ曰く、彼女はパパゲーノ、あるいはアシラという名のアラブ系女性喰種。美しくも可愛らしい容姿とは裏腹に、人体に風穴を開けることに快楽を覚える異常者とのこと。基本的に人間と喰種の生存競争などは本人にとってはいつでもよく、己の意思で自分自身の欲求を満たせばそれで良いと考えている。性格は根暗ツンデレ。

また、ヴィルヘルミナ曰く、赫子は喰種の想いや、意思や精神の強靱さが反映される訳で、SSSレートともなると基本的に性格が捻れ狂い我が強過ぎるアレな奴しか居ないらしい。

「この辺りは完全にVの記録上のお話ですが……。 ”我々最後の大隊”ラストバタリオンの前身組織の“赤い霧”を、然したる思想もなく、純粋な一個人の戦闘能力とカリスマ性のみで、後

にSSSレートに認定された”十数体”の喰種を幹部に置いて纏め上げていたため、ヴィルヘルミナ様は世界初のSSSレートに指定されたそうです」

「よせ、褒めるでない」

旧多の呟きに、絶対に誉めてはいないと思いつつ、確かにそんな危険分子が、ナチス・ドイツと合流したら誰だって危機感を覚えるとあなたも理解する。

「さて、早速起動しようじゃないか。君のクインケだぞう？」

”絶対に嫌でござる！絶対に嫌でござる！”と全力で首を振るあなただったが、その反論は虚しく、絞首台に吊るされる大海賊時代の死刑の罪人の如く無理矢理クインケの前に立たされた。

明らかにさつきよりも距離を取ってニコニコしながらこちらを眺めている旧多を横目に見つつ、あなたは大きな溜め息を吐き、とりあえず操作方法などはどうすればいいのかが聞いた。

「んー……？ そんなものは無いぞ？」

とんでもない聞き返しに耳を疑うあなたに、ヴィルヘルミナは心底愉しそうな様子で口の端を歪めて更に言葉が続ける。

「制御装置？ 操作？ ハハハハ、そんなものは設計段階のレベルで最初から付いてない。生き物と同じさ。ナグルファルはオルゴールと違って、そもそも死者となりてもまだ闘争を続けたいということがコンセプトなのだからな」

「……なのでV<sup>（こちち）</sup>としても正直、もて余しています。何せ、最初に起動させた時はAとSレート相当のナグルファルを数体実験として起動させたそうなんです、その瞬間から襲い掛かって来まして、大変なことになったそうです。ちなみに後の調べで、人体組織を与えるか、少しでも傷付けると即座に起動するそうで、リスクが高過ぎるために高レートのナグルファルの赫包の採取をするわけにも行かず、こちらでは完全に爆弾扱い

ですね」

「まるでSCPオブジェクトだな」

”まあ、だから管理面倒臭くて置いてったんだけど”等と昔を懐かしむように呟く  
 ヴイルヘルミナ。

果たしてそれはクインケどころか、それ以前に武器と呼べる代物なのだろうか？ あ  
 なたは訝しんだ。

それではまるで、死者蘇生であると思ひ——ナグルファルはVでは完全にオーバーツ  
 扱いにされているということを出し、そう言うものだと言身納得させた。

「鵜飼い、鷹狩、猟犬など現代でも人間は生き物を武器として用いる。また、古来より伝  
 書鳩などで遠距離の通信手段を確立したり、闘魚や闘犬や闘鶏などの様々なブラッド・  
 スポーツが嗜まれてきた。他にはヴォイテクというポーランドのヒグマを知っている  
 かね？ ヴォイテクは成り行きでポーランド軍に育てられ、軍内で親しまれた結果、移  
 動の規約を乗り越えるために階級を与えられるまでに至った。ヴォイテクはポーラン  
 ド語を理解していた他、他の兵士と相撲に興じた際にはクマが人間に負けてやるといっ  
 た気遣いまで見せており、仕事では人間数人掛かりで運ぶような砲弾をひとりで運んで  
 いたという。つまり……喰種そのものがクインケでも何も可笑しくはないのだよッ!!」

”そうかな……そうかも……”と納得しそうになったあなただったが、やはり可笑し



いことに気づく。

しかし、指先に痛みが走ったかと思えばいつの間にかヴィルヘルミナの甲赫の赫子で薄皮が切られており、僅かに血が滴ると共にそれを彼女は小瓶に少し集めた。

「……………」

いつものことだが、流石に少し止まるあなたに、小瓶に血を集め終えたヴィルヘルミナはまだ血の滲む傷口をそつと眺める。

「ん…………ちゅ…………うま」

そして、何を思ったのかあなたの指をくわえて少し吸う。血が止まるまでそうしていた彼女は、口を離してから最後に赫子で傷口をひと撫ですると即座に傷口は塞がっている。

そんななんでもないたまにある夫婦の日常の風景を、旧多はどこか羨ましそうな表情でここではない遠くを眺めながら見つめていた。

「ていつ」

そして、あなたの血の入った小瓶を女性型クインケ——パ Pager の口に入れて、中身を流し込んだ。

量にすれば数滴程度だが、それをされた直後、パ Pager の喉が動くのがあなたにも見えた。

そして、ピクリと身体を震わせた後、彼女の瞳が開かれ、煤のような灰色の瞳が露になると共にやや気だるげで訝しげな表情に変わる。

「おハロー、アシラちゃ——」

その次の瞬間、あなたは浮遊感を感じた。

何かと思えばいつの間にかヴィルヘルミナが伸ばした赫子で後方に投げ飛ばされており、無理矢理距離を取らされているのだ。

そんな状況に困惑した直後——パパゲーノが入っているケースが音を立てて吹き飛ばすと共に、パパゲーノの背にある腰部に近い部分の赫子用の袖から黒々とした樹の幹のような一本の赫子がヴィルヘルミナへ向けて伸ばされたことに気づく。

パパゲーノの赫子は一度くねると直線的にヴィルヘルミナへと迫り、その間に先端は削り立ての鉛筆のように尖ったと思えば、大量の針のようなものが先端の周囲を埋め尽くした。

そして、あなたが声を上げるよりも前に、ヴィルヘルミナは既に伸ばしていた赫子を金属のように硬化させると、パパゲーノの赫子を正面から受け止める。

つばぜり合いによりギチギチと金属と金属が擦れ合うような異音が響き渡り、接触部から激しく火花が生まれる光景から互いに並みの赫子ではないことは明白であろう。

そんな最中、パパゲーノは目を細めてヴィルヘルミナを睨み付けながら先に口を開いた。

「折角、地獄で日課の釜茹お風呂での後、針山で遊んでたのに……なんでまた呼び戻したの……？」

「ほう……？ あの世界とは仏教圏だったとは知らなんだ。私もそのうち愉しみにしておこうじゃないか」

芝生に背中から着地しつつ、あなたは知り合い同士の挨拶のようなものであると思いつたり、そのまま暫くそっとしておくことに決めたのであった。

ちなみに。パパゲーノはドイツ語を話しているが、あなたはヴィルヘルミナの影響でドイツ語を半ば強制的に身に付けたため、それが初めて役に立ちそうなことを密かに喜んでいた。



「……………」

お昼時、修行は中断されて庭から見えていた平屋の日本家屋にあなたは居た。

外観とは裏腹に洋間もあるらしく、長いテーブルを挟んだあなたの目の前にパパゲーノはおり、椅子には横に座りながら面白くなさげに他人と目を合わせないように床をじつと眺めている。

ちなみにこの空間の中には、何故かヴィルヘルミナはおらず、あなたとパパゲーノの二人つきりにされているため、何とも居心地の悪い状況が続いていた。

ヴィルヘルミナに襲い掛かったパパゲーノは、少し打ち合った後に攻撃を止め、そこ

にすかさずヴィルヘルミナが「昼食をご馳走する」と言ったためにこうなっているのである。

目の前の女性喰種は第二次世界大戦時代のSSSレート喰種であり、ヴィルヘルミナの言葉を信じるのならば、かなりキレイな女であるということは明白である。しかし、比較的マシな部類とも前に言っていたことを思い返し、対応を決めかねているのだ。

そんな折りである。

「……………」

ふと、パパゲーノに目を向けると、彼女は視線だけこちらを視ており、目が合った瞬間にまた目を逸らして床を眺めた。

どうやら向こうもこちらを気にしていなくはないらしいと考えたあなたは、彼女に当たり障りのない話題から振ってみる事にする。

とりあえず、あなたはパパゲーノに今の体調を気に掛ける。死体をどういうわけか、ナチス・ドイツのクインケ技術で擬似的に蘇生させられたわけで何処かしらに異常があっても可笑しくはないであろう。

「別に……生前のままよ……」

しかし、それだけで会話は切られた。態度からわかつてはいたが、どうやらこのパパゲーノという女性喰種はかなり口下手か、相手への興味が薄いらしい。

後者ならば怒らせる原因になりかねないが、ヴィルヘルミナとの日々で精神とコミュニケーション能力が鍛えられているあなたは、何てこともない話題を彼女に振り続けた。

その度に短い返事だけは返してくれるため、どうやら口下手なのではないかという線があなたの中では濃厚になる。

「貴方ってなんなの……？ ヴィルヘルミナが珍しく気にかけているのはわかるけど……」

すると10分程後によくパパゲーノの方から質問が来る。

そのため、スレで結婚するに至ってから今までの顛末を話そうとしたが、50年以上前の者に伝わる筈がないと考え、とりあえず旦那になったという事実だけ伝えた。

「は……？ 結婚……？ アイツが……アイツが？」

するとよほどに驚いたのか、パパゲーノは目を見開いて驚いている。そのうち、わなわなと震えて口を開く。

「いちやついてる恋人たちなんて、もれなく全員死ねばいいのに……」

それは理不尽な呪いであったが、なぜかあなたにもスツと共感出来るものがあるであろう。

「……ねえ貴方。ところで穴はすき……？」

すると。パ Pager ノは、若干机に身を乗り出して唐突にそんな事を言う。よく見ると何故か頬を少し染めており、話す内容がよほどに好きなのだということがわかるであろう。

「うふ……ふふふ……うふふふ……。私ね……小さい頃は砂場でよく遊んでたのよ。それで山を作ってそれにトンネルを掘るのが好き……開通して手と手が触れたときが愉しいわ……」

全体的に黒く暗い印象から呪術師や魔女的にも思える見た目に似合わず、可愛らしい趣味を持っているらしい。

あなたはそれに頬を綻ばせ――。

「だからそれを死体に開けた穴で初めてしてみたときはもつともつと愉しかったわ……！」

尾赫の赫子を出して針のように尖っている先端を撫でつつ、恍惚な光を暗い瞳に宿し始めた彼女を見れば、やはり彼女もヴィルヘルミナと同様に S S S レート喰種だと言うことを思い知らされた。

彼女の赫子の異様で用途の明らかな形状から彼女が、何に執着し続けて大成した喰種なのかは明白であろう。そして、S S S レート”鳥刺し”とは職業と共に、読んで字の如くの意味なのかも知れない。

「貴方にも……素敵な風穴を開けて——」

「ただいまアナタ！ ご飯にする？ 昼食にする？ それとも昼餉ひるいげ？」

突如、ヴィルヘルミナが帰つて来るなり、新婚一択を披露して見せる。

それにカチンと来たのか、パパゲーノはあなたに伸ばそうとしていた赫子をヴィルヘルミナへ弾丸のように跳ばす。

しかし、後に展開した筈のヴィルヘルミナの方が速く、パパゲーノの尾赫を渦を巻くようにがんじがらめに押さえ込んだと共に、密かに先端が赤熱した赫子をパパゲーノの首筋に突きつけて止めていた。

「凶に乗るなよ。パパゲーノ大尉？ 誰が法だか忘れたとは言うまいな？」

「……………」

パパゲーノは心底嫌そうな表情でヴィルヘルミナを睨むが、直ぐに赫子を収めて大人しくなった。

やはりと言うべきか、どうやらSSSレートの中でもヴィルヘルミナの戦闘能力は突出しているらしい。また、これまでパパゲーノがSSSレートならば使える筈の赫者形態を取らない理由は、恐らくは使っても勝てないことが解り切っているからなのである。

「新鮮な猪と野鳥、田舎の人間を仕留めて来たからな。ジビエだジビエ」



ヴィルヘルミナは特にパパゲーノを気にした様子もなく、それぞれの腕に持っていた大きな猪と、近くに偶々いたと思われる成人女性を机に置いた。

両方とも既に事切れており、ほんの小さな外傷のみで殺しているようで、死体の表情から死んだことにすら気づいていないような様子で死んでいることが見て取れ、あなたはヴィルヘルミナの流石の所業に感心する。

「フフン、スゴいだろスゴいだろ?」

ヴィルヘルミナはパパゲーノに赫子を突き付けるのを止め、あなたの目の前で猪と野鳥と成人女性を赫子で解体し始める。

血抜き、脱骨、脱皮に至るまでその手際も一流の猟師すら舌を巻くほどで流石と言う他無く、どこからか持ってきたボトルに人血を入れている彼女にあなたは獲って来た一部始終を何気なく聞いていた。

「ええ……」

何故かそんなあなたをパパゲーノは半眼で眺めていたが、あなたは思い当たる節がなく首を傾げる。

「じゃあ、旧多クン調理任せれる?」

「はい、シェフが駐在しているのでお任せを!」

やがて解体も終わり、血塗れで毛だらけになった洋間をあなたも片付けつつ、昼食を

待つ時間となったが、ヴィルヘルミナが現れてから更にパ Pager の口数が少なくなつた。



あなたのテーブルの前には猪と野鳥で出来た食欲をそそる料理が並んでおり、それはヴィルヘルミナの希望でああなたの隣に座っている半喰種の旧多の席にもあつた。グレイビーソースが香り、存分にジビエの良さを引き出していると言える。

あなたの目の前に座るパバゲーノと、彼女の隣に座っているヴィルヘルミナには当たり前だが、ほぼ素材そのままで調理法の違う人間料理が並んでいた。とは言つても見た目や並びがハイソなため、人間から見ても一見はただの簡素な肉料理程度に見えるであろう。

そして、特に荒れることもなく昼食は進んでいた。隣にいるため、食事のためか、パバゲーノ自身からヴィルヘルミナに話し掛けている。

「アンタ、Vに入るだなんてどういう神経してるの……？ とつくに世界でも壊していると思つたわ……」

「買い被り過ぎだ。私とて、人らしい生活を魅力に感じないわけではない。近年は娯楽も増えた故に特にね。そも世界を破壊したくば、とつくの昔にそうしているさ。私はこれでも今の世界をそこそこ気に入っている。故にVに不満は無い」

”まあ、奴等が裏で何をしようとしているのかは知らんし、興味もないがな” と言って更にヴィルヘルミナは続ける。

「やはり、喰種と人間は殺し合わねば面白くもなんともない。大戦中は人間の元で大手を振つて人間を殺せたからそうしていたまでだよ。今は捜査官の質も悪くはない故、娯楽には困らんさ」

「……私が言うのも可笑しいけれど……大隊長として死んだ仲間やドイツ兵への哀悼や

責任が少しはないの……?」

「哀悼に責任だと……? ククク……この私がか? 見くびるなよ。パパゲーノ大尉。私の本質は何も変わってはいない。根暗ツンデレな君と違って、仲間や愛郷だけなら兎も角、人間なぞに愛着を覚えるものか」

「ツンデレ……?」

1990年代にすら概念もなかった単語に頭を傾げているパパゲーノを他所に、ヴィルヘルミナはあなたと旧多を見る。

ヴィルヘルミナを見てみると、なんだかパパゲーノの方がよほどに真人間にあなたは見えて来ていたが、実際のところそうなのかも知れない。

ヴィルヘルミナは最後の大隊で比較的マシな部類とは言ったが、自身の位置付けは話してはいなかったからだ。ぶっちぎりで彼女がアレな奴なのはあなたがよく知るところである。まあ、それが人外らしくて好きなわけだが。

「そうさな……。ひとりと半分は人間もいることだ。少し昔話をしてやろう」

そして、少し考え込むように顎に手を触れてからまた言葉を続けた。

「英国が1919年に施行したローラット法を知っているかね? 植民地のインド民族運動弾圧法で、簡単に言えば逮捕状なしに逮捕し、裁判なしに投獄出来るという法だ」

”ガンジーが非暴力で戦った事でも有名だな”ともヴィルヘルミナは付け足す。

「そもそも今私が吐いた蔑称もそれだ。イギリス人、黄色人種、黄色人種の白人思想、日本人、ドイツ人、フランス人 e t c ……。他には黒人、黒人と白人のハーフ、イギリスの流刑地だった故にオーストラリア人や、最近なら日本鬼子などもそれに当たるか」

一旦話を区切ったヴィルヘルミナは、人肉のステーキのひと欠片にフォークを突き立てて咀嚼し、ワイングラスにあなたが注いだ血液を飲み干すと再び口を開く。

「二世紀程度も経たぬ昔は他民族をヒトとも思わぬことが当たり前のように横行していたのだ。いいや、常識だったのだよ。それに現代の倫理観を当て嵌める方が余ほどに烏澁がましいとは思わんかね？」

「まあ、今が改善されたかと言えば多少マシになった程度だがな」と付けたし、ヴィルヘルミナは調子外れに笑う。

「また、我がナチス・ドイツ等が、今でもやたらと民族差別や選民思想の槍玉に挙げられるのもまた原罪だろうさ。結局のところ、歴史とは勝者こそが全てというな」

「完全に負け惜しみだが、我々が勝つていれば世界はまた違った形になっていただろうな。やはりノルマンディー上陸作戦は部下に任せるべきではなかったかもなあ。なあ、パパゲーノ大尉？」と眩き、ヴィルヘルミナはクツクツと笑う。

「うるさいわね……」

それを聞いたパパゲーノは露骨に顔をしかめつつ、そう眩きながら目線をヴィルヘル

ミナから逸らした。

「何れにせよ。今の世は過去の戦争の果てにある。それは紛れもない事実だ。何れだけ言葉を飾ろうが、平和を謳おうが、愛を尊ぼうが……過去の夥おびただしい数の敗者と、それを遙かに超える戦うことさえ出来なかつた理不尽な死者を忘れ、踏みつけながら知りもしない平和や愛を語る。あるいは争いを繰り返す」

”百年以上生きた私なりの失笑と答えだよ”とウイルスヘルミナは特に愉しげな笑みを溢す。

「過去は過去、水に流す。なるほど良い言葉だ。しかし、私には現代の人間が、蕩け切つた腐肉と煤けた人骨の山の上に立ち、足元を見ずに張り付けた笑みを浮かべ、高らかに世界平和を説く……そんな滑稽で愛らしい生き物にしか見えぬのだよ。故に私より余ほどに悪趣味だ、人間という生き物はね」

そう言うウイルスヘルミナは皿の上のやや断面赤い人肉のステーキに、勢いよくナイフを突き立てて見せた。

「人間は誰しも一度はどこにでもあるようなナイフで、顔も知らん行人をひとり殺してみるといい。それまで立って歩き、当たり前のように今日を生きていた無辜なる人間が、致命傷を負わされつつも抵抗し、直ぐに四肢も満足に動かせぬほど衰弱していき、やがてひっそりと明日を奪われて事切れる。その一分程度で済む過程を己の手で、加害者

側から感じ取りでもしない限りは、生と死が如何に仲の良い友人なのかを真に理解は出来んよ」

”そして、それが人間の大好きな戦争というものだ”と言いつつナイフを持ち上げ、ステークを頬張った。

「故に万人が語るであろう平和や愛など、そもそも全て薄っぺらな戯れ言なのだ。そこには何の価値も意味ない。嘘だと思うかね？　ならばそのようなことを宣う詐欺師に人殺しをさせて見ればよく分かるさ。ほとんどの連中は二度とそんな戯れ言は吐けなくなるものだぞ？」

そう言えばとヴィルヘルミナのグラスが空になっていたことに思い当たったため、あなたはボトルに入った人血を注いだ。

「昔は侵略した国でよくやったものだ……なあ、パパゲーノ大尉？　神父や活動家を捕らえて散々痛め付けてからナイフを持たせ、目の前に捕らえた敵兵や民間人を手足を縛って並べ、一言耳元で”殺せば助けてやる”と囁く。するとどうだ？　躊躇はすれども最終的に殺さぬ者など数える程も居なかった。そして、生き延びて戦後にまた平和や愛を説いた者は更に居なかった。所詮、その程度なのだよ。そして、その行為自体は私だけがやっていたことでもない。戦争中ならば似たようなことを人間は幾らでもやったのさ。全く愚かで憎らしい生き物だ」

「……………私はそんなことしてないわよ。積年の恨み、憎しみ……………でも……………くだらないわ。そんなもの、自分の気持ちじゃないもの」

「ああ、そうか。君はそういう優しい娘だったね」

”まあ、私としても今と違って、テレビもネットもなかったから当時の娯楽のひとつ程度だったがね。今はクリスマスにダイ・ハードでも観た方が面白い”等と言ってヴィルヘルミナは言葉を区切った。

”相変わらずゲームのラスボスみたいなヴィルヘルミナらしい”とあなたは思っていると、彼女はあなたに目を向けて何か思い出したように別の話を始める。

「1920年代頃の日本での話だったか、戦前に”説教強盗”と呼ばれていた男が起こした事件を知っているかね？」

どうやらこれだけ扱き下ろした後で人間の話をするらしい。いつものことなので、あなたは微笑みだけ浮かべて首を振って何も言わずに話を聞く。

「まあ、バラバラ殺人なども名付けた大手新聞社が名付けたそのままの意味の強盗事件なのだが……………なんとその強盗は、強盗に押し入り、立ち去る前にわざわざ家主を起こして防犯の注意をするという律儀な男だったのだ」

どうやら本当にあなたが産まれる前どころか戦前の犯罪の話をするらしい。最早、歴史を聞いている気分である。



「まず、説教強盗の生まれは獄中出産だった。父親とは幼くして死別し、母親の再婚先で育つ。そして、小学校を卒業すると奉公に出されたが、直ぐに奉公先で横領と窃盗で捕まり、刑務所に入れられている」

”時代とはいえ、ここまで底辺の生活環境と悪辣な倫理観を受け付けられて育つ環境もそうあるまい”とどこかヴィルヘルミナは遠くを見る。

「その後、強盗をしなければならぬ状況に陥り、人を殺さず、傷つけずを信念に強盗を繰り返した結果、説教強盗が生まれたと言うわけだ。まあ、当然彼は暫く犯行を重ねた後に捕まり、無期懲役の判決を受けて投獄された。獄中で当時の両翼の大物から文字の読み書きの手解きを受けるなどという妙な体験をしつつ、戦後になって新憲法公布による恩赦によって、模範囚として表彰されつつ、18年の服役生活を終えて仮釈放される」

境遇や貧困を語る姿勢から、彼女が言いたいことはなんとなくわかってきたあなただったが、それを言ってしまうほど野暮ではない。

「その後は全く犯罪に手を染めず、刑務所で習得した印刷業などに従事して収入を得る平凡な生活を送る。まあ、若干は悪の華として持て囃されはして、防犯講演などを依頼されて行脚してはいたが、それだけの人間に彼の生涯は汚くも価値のあるものに映ったのだ」

”まあ、時代背景として、社会の底辺による反抗を他人事とは思えない程度には日本

全体が貧困していたというのもあるだろうな」とヴィルヘルミナは付け足す。

「そう、決して他人事ではなかったのだ。そして、一般家庭で一般的に生まれ一般的に育った人間が普通なのは当たり前のことだ。しかし、説教強盗は生まれも育ちも当時から見ても最底辺、その男が良心を保ち続けるとは奇跡にも等しいだろう」

”似たような境遇の私や大多数の喰種を見れば一目瞭然だろうか?”と笑うヴィルヘルミナ。

「そんな説教強盗は罪滅ぼしとして自身で願い出て、生涯無期懲役囚として保護観察のままだった。よほどに出来た人物でなければ出来はしないさ。薄汚れて穢れ貧しい中に清廉さを感じる……清貧とはこの事を言うのであろう。私が彼の存在を知った頃には既に死んでおり、とても残念に思ったものだ。一体、どのような心理を得ていたのか、是非とも本人の口から聞きたかったモノだよ」

”そも刑罰には犯罪を犯すな等と書いてはいない。したらどうなるのかが書いてあるだけだ”と区切つてから、ヴィルヘルミナはあなたにそつと問い掛ける。

「さて、綺麗な手で何も知らぬ者の語る上つ面だけの世界平和と、説教強盗のようなものが語る取るに足らない汚れた良心。君はどちらにより価値があると思うかね? まあ、私にとっては、それが人間の全てだよ。多くの人間にとつて喰種とは、また多くの喰種にとつて人間とは酷く遠いモノなのだ。それは交わることのない平行線のようにだが、平

行線とは常に隣にいる。その関係が酷く陳腐で愛らしい」

それにあなたは答えなかった。彼女が言うことを信じるのならばあなたもまた、彼女に取っては前者の人間であろう。

「いや、目の前で人体解体されるの流してたんですけれど……」

あなたの隣に座る旧多が非常に小さくそう呟いたが、あなたは少し負い目のある表情ながら言葉を返す。

ウイルスヘルミナにとっての食事にこれまで幾度となく付き合ってきたあなたには日常のことであり、基本的に彼女はあなたとの取り決めによって食べる分しか人間を殺さない。

「食べる前には“いただきます”もキッチンというため、人間が他の生き物を食べるのと大差ない事であろう。そもそも

「うーん……割れ鍋に綴じ蓋」

「さて、そんな我が旦那のクインケにアシラちゃんはなったのだ」

「決るわよ……?」

「ああ、そう言えばこれから私と、旦那は捜査官になることを伝えていなかったな」

「は……?」

ウイルスヘルミナは事の顛末とパ Pager の起動させた理由を全て伝える。無論、電子

掲示板については省き、彼女の思い付きであなたと結婚し、果てに暇潰しに夫婦で捜査官になるという内容である。

そして、さも当然のような表情を浮かべてそれらを伝え終えたとき、パパゲーノは真顔でポツリと呟いた。

「頭可笑しいんじゃないの……？」

「何を今更、一世紀ほど言うのが遅いぞ」

確かにヴィルヘルミナの実年齢を自己申告通りの124歳を信じるのならば、一世紀前の彼女の年齢は24歳になるため、まだ止められたかもしれない。

しかし、あなたとしてはどうにも124歳という自己申告すら若干嘘臭いと思っており、実際はもつと上なのではないかと睨んでいるが、流星にそれを口に出すほど野暮ではなかった。

「はあ……まあ、いいわ……隊長に逆らったって無駄なもの……」

するとパパゲーノは溜め息を吐いてから諦め半分な様子でそう呟く。どうやら彼女もまたヴィルヘルミナの扱い方を心得ているようである。

「では食事も済んだことだ。また、外に出ようじゃないか」

全員の皿が空になったところでヴィルヘルミナはそう言う。それに逆らえるものなど居ないため、あなたたちは庭へと再び向かった。



「……………」

庭にて、あなたは「武器は装備しないと意味がないぞ！」と豪語するヴィルヘルミナに言われるがまま、パパゲーノを装備させられていた。

装備なる状態はあなたの背にパパゲーノがしがみついて、前に手を回してほぼ手の力

だけで掴まっているというとんでもない状況である。どうやらヴィルヘルミナにとってパパゲーノは背部装備らしい。

「双王子スタイル」

よくわからないことをヴィルヘルミナは満足げに呟く。

確かに人型の武器を使うとなると自然に持ち方は幾つかに限られるが、このようになるのはあなたもパパゲーノも予想しておらず、あなたは日頃の運動不足が祟り、あなたより一回り小さいながらパパゲーノの重みで震え、パパゲーノはこれまで堪えていたツツコミ心にうち震える。

「それはパパゲーノ大尉が最後の大隊ラストバタリオンの中で一番、スタイルが良いからだな」

「そして、遂に堪忍袋の緒が切れた。パパゲーノは、そのまま尾赫の赫子を伸ばし、地面へと突き刺す。」

その直後、やや離れた位置にいるヴィルヘルミナが横に跳ぶと、彼女の居た位置に棘で出来た大樹のような赫子が天を貫く。腐ってもSSSレート喰種のため、凄まじく大迫力である。

「避けるな……」

「当ててみる！」

地をひよいひよいと跳ね回るヴィルヘルミナが居た地点を地中から生える棘の赫子が断続的に貫き続ける。さながらもぐら叩きの逆のような光景である。

そんな様子を少し眺めた彼はポツリと背中にいるパパゲーノに小さく声を掛けた。

「なによ……？ アイツのクセ……？ なにそれ……？」

絶えずヴィルヘルミナへ攻撃が行われ続ける中、少しあなたは助言する。それはヴィルヘルミナと何気ない日常を過ごして来た為にかかる感覚と、今の状況をゲーム画面のように見立てた場合の勘であった。

「まあ、いいけど……」

「お？ おお？」

パパゲーノは助言の通りにヴィルヘルミナを追い立てると、当然だが彼女の行動が多少変わる。

そして、暫く追い立て続けた直後、あなたは「今です」とどこかの軍師の如く呟いた。

「にゃー!？」

パパゲーノの赫子はヴィルヘルミナの腹に突き刺さった。正確には当たる直前にさも当たり前のように赫子でガードしたため、弾かれて上方に突き飛ばされる。

スポーンと擬音が付きそうな様子でヴィルヘルミナは飛んで行き、硬い地面に落ちた。

「……あ、当たったわ……」

何故か当てた本人のパパゲーノが一番驚いている。どうやら彼女にとつてヴィルヘルミナは何をしても絶対に死なないし、倒せないぐらいの認識の相手だったのかも知れない。

「やはりいいじゃないか。流石、私よりもゲーム上手いだけはあるなアナタ」

直ぐに復帰したヴィルヘルミナは腕組みをしながらそんなことを繁々と語る。

ちなみにスマ○ラやよくあるアーケードのような格闘ゲームや、ダークソ○ルのような対人ゲームではあなたの方が何故かヴィルヘルミナよりも得意である。数少ない自身の利点であり、考えていると悲しくなるところだ。

「だから素敵なクインケだと言ったろう？ センスはあるが、身体能力がクソ雑魚なメクジなことを補うのはこういうったクインケでしかやりようがない」

それだけ言うとおあなたの背中にいるパパゲーノを猫でも抱えるように回収し、地面に置くと笑顔で命令を下す。

「旦那の参考に赫者になれ」

「……？ まあ、別にいいけれど——」



その直後、パパゲーノは伸ばした尾赫を全身に纏わせて隠れたかと思えば、急速に体積を増す。

まるでアニメやゲームでも見ているかのように現実感のない光景が暫く続き、そして遂にパパゲーノは完全に赫者へと変貌を遂げた。

「わあ……これが本当に人間と戦争していた赫者ですか……やつぱりVの喰種とは迫力が違いますねえ」

「左様。」鳥刺しパパゲーノ”と言えば昔は皆、震え上がったものぞぞ?」

感心した様子の旧多にそう言っただけからパパゲーノに目を向けるヴィルヘルミナに釣られ、あなたもそちらに意識を向ける。

パパゲーノの赫者形態を目にしたあなたは、無意識に”モンゴリアン・デス・ワーム”というUMA、あるいはそれをモデルにしたと言われている”トレマーズ”というB級映画に出て来るグラボイズという地底生物を思い浮かべた。

まず、開かれた口にはヤツメウナギなどの円口類のように円形の口の内側に向かって牙や爪のように鋭利な大量の針山が並んでいる。

更によく見れば下部には短いながら爪のある腹脚を持ち、どちらかと言えば有爪動物のカギムシにも似ているとあなたは思い当たった。

そして、何よりもその太さは樹齢数百年の巨大な大木のように、ミミズに節を付けた

ような赤黒い胴体は、30〜40m はあろうかという異様な長さをしていていることが、  
圧巻と共に余りにもこの星の生物らしからぬ生理的な悪寒を覚えさせるであろう。

『やっぱり……少し反応が遅れるわね』

「肉体的に半世紀はブランクがあつたからな。少し動かして来い」

『ええ……そうするわ』

するとパパゲーノは円口類のような口を蠢かせ、そのまま地面に頭を押し当てると、  
即座に穿孔すると共に地響きを伴いながらあつという間に全身が地面へと潜る。

そして、数秒か十数秒経つと、数百m離れた箇所であつた頭だけ数m出して首を鳴らすよう  
に左右に頭を振るとまた地中に潜った。

それから暫くして比較的近くにある山の斜面で顔を覗かせる姿が見え、若干可愛らし  
くあなたは思う。

その一部始終を見た旧多の顔は引き攣っており、話には聞いていたが眉唾物だったと  
言わんばかりの良い反応をしつつポツリと呟く。

「戦時中にこれはヤバいですね……」

「わかるかい旧多くん？ コンクリートや、並みの金属ではパパゲーノの前には柔らか  
いプリン同然だ。その能力は他のドイツ兵の為に大量のトンネルや塹壕、地下施設のス  
ペースを掘り抜いたのだ。荒地地に半日で前線基地を建てた伝説もあるぞ？ 国連で

は私の次に重要な標的にされていたのだ」

「昔の人はあんなのよく倒せましたね……いや、ホントどうやって倒したんですかあんなの」

「にんげんこわい」

どうやらそもそもパペゲーノというSSSレート喰種とは、単純な戦闘員ではなく、極めて優秀で重機を内蔵した戦闘工兵だったようだ。

これまであなたは無意識に最後の<sup>ラストバタリオン</sup>大隊は、個々の戦闘能力に特化した組織だと思っていたが、どうにも戦争も上手い集団だったらしい。

「ところで厚かましいようですが、こちらの要求の品は……」

「わかっている。パペゲーノの赫包の定期的な提供だろうか？ とりあえず幾つか採ってやるから好きに使え。そうだ、迷惑料にひとつは君にもやろう……内緒だぞ？」

「……本当に食えないお人だ」

”ククク……しかし、彼女がいなければあそこまで戦争が泥沼化することもなかっただろうなあ”等とヴィルヘルミナは呟きつつそんな会話を旧多としており、争いの火種になることに率先的なのは流石彼女だとあなたは思っていた。

「さて、アナタ。大方、パペゲーノ大尉のスペックは理解できたことだろう。では——」  
ヴィルヘルミナは愉しそうに笑みを浮かべ、あなたに言葉を掛ける。

「アシラちゃんを、かわいがって、あげてね！」

ゲーム脳も考えものだ<sup>が</sup>とあなたは思いつつ、平常通りなヴェルヘルミナに内心で溜め息を溢すのであった。

【増量】SSSレート喰種だけど質問ある?【キャンペーン】

1:†死の天使†

どうもー。エヘへ、SSSレート喰種のメンゲレでーす。皆様よろしくお願いしますねえ! CCGからは天使ちゃんって呼ばれてまーす!

【画像】

【画像】

きやるーん☆

2:†死の天使†

お仕事はー、ナチス時代には研究者をしてましたー! 今も現役バリバリだぞう☆ミ

3 : † 死の天使 †

さあ、いっぱい質問してくださいねー？ 平日の昼間からスレ監視にお熱な人間の皆さま！

4 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ええ…… (困惑) 誰この美人…… (驚愕)

5 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そう来たかあ……

6 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

俺氏、パツキン巨乳喰種姉貴の急な路線変更に戦慄する

7 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ぼこじゃか増えるんじゃない

8 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

(パツキン巨乳喰種姉貴) 先輩! (メンゲレは) 不味いですよ!?

9 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんだこれはたまげなあ……

10 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ナチスはフリー素材

11 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前いくらなんでもナチス大好き過ぎるだろ

12 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

これが擬人化ですか

13 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>12

美人化なんだよなあ……

14：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんだこの画像のアルビノ片目赫眼の美女どこで拾えるんだ教えて下さいお願いします  
ます何でもしますから！

15：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

画像の女性が綺麗すぎるやり直し

16：†死の天使†

ちなみに元同僚のNo. 2で日本在住のスペイン系SSSレートの知り合いにも声を掛けましたがやんわりと拒否され、日本のSSSレートの”うろんの母”さんにも声を掛けましたが予定が合わず、同じく日本のSSSレートの”梟”<sup>フクロウ</sup>さんにも声を掛けましたが、無言の笑みと圧力で拒否されたので、今日は私だけですわっ！ つらみ

17：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

(交遊関係が) 太過ぎるツピ！



18：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ほぼ拒否されてて草しか生えない

19：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

思ったより人徳無いんすねパツキン巨乳喰種姉貴（カツコカリ）……

20：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

というか、パツキン巨乳喰種姉貴（仮定）の説明だところの人、片目だけ赫眼だから半喰種か

21：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

何が全然産まれないだ、早速いるじゃねーか

22：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

サラツと他のSSSレートが3体も日本にすることがわかったんですがそれは……

23：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

梟はまだしも、うろんの母なんて随分懐かしい喰種だな。とつくの昔にくたばったと思ってたゾ

24：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>23

喰種or捜査官兄貴姉貴は何か知ってるの？

25：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

20年以上前に名前を聞いた喰種ってことぐらいだな。今のCCGのトップとかが直々に相手をしていたような喰種だとかなんとか

26：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

死んだんじゃないのー？（コックカワサキ）

27：東京喰種

>>>1

スタアアアップ!!

28 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
うわきた

29 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
スレ監視乙

30 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
パツキン巨乳喰種姉貴!?! じゃあ、このアルビノ巨乳喰種姉貴はいつたい!?

31 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

新しい手法を取り入れ、スレ民を退屈にさせないスレ主の鑑にして喰種のクス

32 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
成り済ましスレじゃなかったのか……(困惑)

33 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

昔はラストバタリオン大隊長だったが、スレに模倣を受けてしまったな……

34：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種姉貴の模倣スレなんて乱立されてんだよなあ……

35：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

本物が一番狂ってるのでよくわかるっていう

36：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

24時間スレ監視してるからたまに本人飛んでくるしな。いつ寝てんだコイツ

37：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>27

で、この人知り合いなの？ それとも模倣犯？

38：東京喰種

>>>37

ナチスドイツSSSレート喰種のメンゲレちゃん。私が永遠の17歳になるより前からいる舎弟。半喰種にも関わらず、私に徹底的なコバンザメ行為を続け、ほはおこぼれだけでろくに戦闘せず赫者にまで至りやがったゴマすりクソバード

>>>36

分離した赫子でネット監視してるんだゾ

39：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ええ……（困惑）

40：†死の天使†

あざまーす！

41：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

プライド無さすぎて草

パツキン巨乳喰種姉貴はもっとマトモな事に赫子使ってください

42：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

どんな面の皮してんだよオメエよお!? なあ!?

43：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やだ……（二人とも）かつこわるい

44：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

半喰種って雑種強勢の法則で純粋な喰種より強くなるってパツキン巨乳喰種姉貴がこの前言ってたんだが……

45：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

さりげなくパツキン巨乳喰種姉貴が17歳教に入信してる……

46：†死の天使†

あなた方はパツキン巨乳喰種姉貴様の全盛期の貪食さと戦闘能力と性格を知らないからそんなことを言えるんですよお!?! 私から見ても未だに化け物ですよ化け物!

47：東京喰種

>>>1

お前、もう一回その呼び方したらまたランチにしてやるからな

48:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前がパツキン巨乳喰種姉貴って呼ぶのか……って書こうとしたら爆速で釘刺されてて草

49:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

主人に噛みつき始めたぞこのコバンザメ

50:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

本当はカミツキガメなのかも知れない

51:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

”また”なのか……(戦慄)

52:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

まあ、ゴマちゃんの言い分も聞いてやりなよ大人げない

53：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そうだよ。コバちゃんの言い分も聞きたいゾ（野次馬根性）

54：†死の天使†

そうなんですよっ！ イケイケな頃なんて、15で不良と呼ばれ、ナイフみたいにとがっては触るものみな傷つけたんです！ ギザギザハートだったんです！

55：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

止める、世代がバレルぞ

56：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

チエツカーズは草

57：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種姉貴は17歳どころか5歳で大人の喰種殺し喰らってんだよなあ



……

58 : † 死の天使 †

幼気で純粋な幼女で細々と暮らしていた私を捕まえて、毎日手足を食べては喰種の肉を喰わせて生やすことを繰り返していたんです！ ゴマ擦って生きる以外に何をしろと!?! 今ではこの様ですよ！

59 : 東京喰種

お前、まだ根に持つてるのか。鶏が産んだ卵を食べてるようなものだろうが。だって半喰種ってすごく美味しいんだもん

60 : † 死の天使 †

いてーんですよ!?

61 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

もんじやないんだよなあ……

62：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
関係が思った以上に闇が深過ぎる

63：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

《朗報》コバちゃんはおいしい

64：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

メンゲレちゃんなのか、ゴマちゃんなのか、コバちゃんなのか……

65：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

コバちゃんってなんだと思ったらコバンザメか

66：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そもそもなんでメンゲレなんだよ

67：東京喰種

>>>66

元々喰種は、名は拘る者が多いが、姓は持つ者すらあまり居なくてな。なので、成果を上げた喰種に地位や勲章と共にナチスドイツ将校の姓を与えていたのだ。それで、コイツに与えられた姓がメンゲレなのだよ。また、褒美なので複数与えられている奴も居る

68：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やだゴマちゃん姉貴絶対マトモな奴じゃない……

69：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

よりにもよってメンゲレが与えられるって何してたんだよコイツ……

70：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

研究者をしていた——あつ（察し）

71：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

無知でスマンが、メンゲレって誰なんだ？

72 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>71

ヨージェフ・メンゲレで g g r k s

73 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

はーん、てことはパツキン巨乳喰種姉貴もなんか名前持ってるの？

74 : †死の天使†

ロンメルとルーデル

75 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

つつよ

76 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

当時の評価ヤバ過ぎて草

77 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

化け物じゃねーか……化け物だったわ

78:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ナチスのフィンランド軍並みに頭可笑しい戦績はやっぱり喰種のせいかなぁ……

79:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ナチスは悪魔に魂売ってる

80:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

コイツら居たから第二次世界大戦があんなに泥沼化したんじゃねーの?

81:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

スマン、凄いやつと言うのはなんとなくわかるが、名前だとよくわからん。ガンダムで例えてくれ

82:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>81

ランバ・ラルとシャア・アズナブル

83：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>82

的確で草ア！

84：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

イカれてる者とイカれてる者を掛けるんじゃない

85：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そんなのがテロリストの首領をしてたのか……（恐怖）

86：†死の天使†

ナチスはフリー素材

87：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おまいう

88：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ナチスのことはあまり知らない俺でも空の魔王の時点でイカれているのはよく分かる

89：†死の天使†

まあ、我々が戦争を長期化させたのは紛れもない事実でしょうねえ！ どうだパツキン巨乳喰種姉貴様スゴいでしょ！? えっへん！

90：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

また、この娘他人の禪で相撲を取ってる……

91：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

薄々感じてはいたが、コイツもパツキン巨乳喰種姉と同じく喋らなきや美人タイプです  
すね……

92：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

薄々どころかド直球なんだよなあ……

93：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

SSSレート喰種って皆こんなのなの？

94：東京喰種

>>>93

そうだよ（便乗）

95：†死の天使†

>>>93

おつ、そうだな（便乗）

96：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

コイツら汚い

97：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。



隣でPC触ってるだろコイツら

98:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんでこういう奴らに限って美人なんだ……

99:東京喰種

>>98

そんな君に我々のようなネットスラングまみれの存在の良い見本を見せるものを差  
し上げよう

100:†死の天使†

>>98

(´・ω・`)つ鏡

101:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やめないか!

102：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
生憎俺は鏡に映らないんだ

103：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
そうぞぞ！ 暗くなったモニターに化け物が映るけどな！

104：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ヤメロオ！（建前） ヤメロオ！（本音）

105：東京喰種  
ちなみに諸君。誠に申し訳ないが、今日の安価は無しだ。少しばかり外せない予定が出来てしまった上、最近の我々は忙しいからな

106：†死の天使†  
そうですね！ シーズン9も最低ダイヤにはならなきやいけないですからね！

107：東京喰種

ヒーハー

108 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

A p e x もやってんのかこの喰種(驚愕)

109 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

安価なんてしなくていいから(良心)

110 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

コイツらどのレジエンドよりも強いだろ

111 : 東京喰種

うまびよい

112 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

だから他に気になることを眩くな

113 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
お前もトレーナーなのか……

114 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
雑食すぎる……

115 : †死の天使†  
好きですものね。ゴールドシツプ

116 : 東京喰種  
うん

117 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
うんじゃないんだが？

118 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ゴルシ推しは流石に草

119 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

奇行(喰)種

120 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

類は友を呼ぶってそういう……

121 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ちなみにApexだとレジエンドなに使ってるの?

122 : 東京喰種

>>121

レヴナント 上方ウレシイ……ウレシイ……

123 : †死の天使†

>>121

コースティック ジェネシスイベタノシイ……

124：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

キャラびつたりじゃねーかコイツら

125：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種姉貴撃ち合いでクソほど屈伸レレレ撃ちしてきそう　もしくは赫子でゴキブリみたいに壁登りそう

126：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

設定から入るタイプですねクレワア……

127：東京喰種

ヴァルキリーも好き

128：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

爆速で浮気するんじゃない

129 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ホント人生楽しんでんなコイツ

130 : 東京喰種

そんなことよりお前ら、メンゲレちゃんに何か質問はないのか?      こんな美女が何で  
もしてくれるんだぞ

131 : †死の天使†

バッチ来いだぜ!

何でもとは言ってない

132 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ん?

133 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ん?

134 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
今、何でもするって……

135 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
言っていないだよなあ……

136 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ホモは早漏

137 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
>>1  
ご趣味は？

138 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
>>1  
結婚してくださいって叫んだらしてくれませんか？



139：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>1

どの部位が美味しいの？

140：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>1

逆に我々に質問ありませんか？

141：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>>1

百何歳なんです？

142：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

質問は草

143：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

斬新だな

144：東京喰種

>>139

無難に大腿部とか美味しいゾ

145：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

食レポやめろ

146：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんでお前が一番に答えるんだよ

147：†死の天使†

>>137

人間か、喰種を使った実験を少々……／／

>>138

パツキン巨乳喰種姉貴様より強い方なら考えますよ？

148：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
頬を赤らめてもクソ外道なんだよなあ……

149：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
つまりあれか、独身宣言って奴だな

150：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
まだ、人体実験してるのかこのナチス残党……

151：†死の天使†

>>>141

124歳以上ですよお！

>>>140

うーん……もうちよつと考えさせてください

152：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

【悲報】パツキン巨乳喰種姉貴10歳以上サバ読んでいた件について

153：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そんな気はしてた

154：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

124が、134になったからと言って何だっけ言うんだ……

155：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

複雑な乙女心

156：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

俺的にはもっと魅力的になったゾ

157：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

野獣先輩に寄せて来てただけなんだよなあ……（マジレス）

158：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

上級者先輩つよいなあ……

159：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

134歳以上で更にストライクだなんて上級者どころじゃないんだよなあ……

160：†死の天使†

あつ、そうだ（唐突）

弱つちい人間も喰種もなんで生きているんですか？ 何もない弱者のクセに生きて楽しんでますか？

161：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ええ……（困惑）

162：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

いきなりSSSレート喰種に戻るな

風邪引くだろ

163 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
なんか魔王みたいなこと言ってますよこの半喰種

164 : 東京喰種

全く誰に似たんだろうな

165 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

>>164

お前やー!! (濱口優)

166 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ボケが二倍になってスレがヤバイ

167 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
増量キャンペーンってそういう……

168 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

何時まで経っても死なないし、殺されてないから生きてんだよ(マジ切れ)

169:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

そうだよ(便乗)

170:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前のスレが好きだったんだよ!(大胆な告白はry)

171:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おつ、そうだな(便乗)

172:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おいやめろ

173:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんだ俺か

174：東京喰種

うーん、割り切りが良い。90点

175：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おつ、結構高得点

176：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんの点数だよ

177：東京喰種

それぐらい理由なく気楽に生きることが案外真理に一番近いかも知れないということとき。そもそも人間は死を恐ろしく考え過ぎている。本来であれば生きていることの方が恐ろしく謎なことなのだ

178：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

突然、SSSレート喰種に戻るな



179:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

温度差で風邪引きそう

180:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

まるで化け物みたいだあ……

181:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

こんなのも一応、世界最高クラスの化け物なんだよなあ……

182:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

でもコイツ、うまびよいしてたぞ

183:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

コイツら、うまびよいしたんだっ!

184:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

うまびよい言うな

185：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

結局、うまぴよいってなんなの？ 教えてパツキン巨乳喰種姉貴

186：東京喰種

>>185

それはできない。わたしの力を大きく超えている

187：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

SSSレート喰種しよっぱ

188：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

カリスマを肥溜めに吐き捨てるがごとき所業

189：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おもしろー喰種

190:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
やっぱ、俺たちのパツキン巨乳喰種姉貴はこうじゃないとなつて――

.....



「アナタ、ちよつと24区までお出掛けしようじゃないか」

ラストパタリオン

最後の大隊のパパゲーノ大尉ことアシラがあなたのクインケになってから数日後。

あなたの妻であるヴェルヘルミナは唐突にそんな提案をして来た。

24区――。

多くの喰種が住まうコロニーとなっている東京唯一の楽園にして、人間からすれば万魔殿にも等しいこの世の地獄にして無法地帯である。主に地下区画がそのようになっているのは、喰種捜査官の掃討作戦が「もぐら叩き」等と揶揄されて24区で行われている事からも伺えるであろう。

無論、彼女の言う24区が地下深くまで行くことになるであろうことはあなたも理解したが、だからと言って何が出来るわけでもなく、少しだけ困り顔を浮かべて了承するのであった。

「うむ、それでいい。アシラちゃんも——」

「くぼえー」

ヴィルヘルミナが視線をあなたから変え、リビングの一角へ向けると、そこに置かれている”人をダメにするソファ”等と揶揄されるビーズクッションに崩れるようにもたれ掛かるアシラがそこにいた。どういう感情で出ているのかわからない鳴き声付きである。

「いつまで蕩けているんだお前は……さあ、出掛けるぞ」

「イヤよ……ここに住むの……」

「阿呆な事言つてないでさっさと行くぞ。上官命令だ」

何でもふかふかして沈む感覚が非常にお気に召してこのようになったらしい。あなたもわからなくはないが、ここまで蕩けているとどういう接し方をしていいかわからなくなるというものだ。

ちなみにヴィルヘルミナがあなたに付けている武術の修行の方は、当たり前だがさっぱり上手くは行つてはならず、パペーノに対する指示出しばかりが上達している。

そもそも肉体的な性能が余りにも違い過ぎる事は明白であるが、現状彼女は特に気にした様子はない。意外に気が長く、長命の彼女にとっては数日程度の時間は大した事はないのかも知れないと思う他無いであろう。

「まあ、パパゲーノ大尉からしたらリアル浦島太郎だからな。色々と目新しいものもあるであろう」

「やあん……」

いつの間にか、ヴィルヘルミナの赫子でパパゲーノは猫のように持ち上げられ、ビーズクツシオンから引き離されていた。本気で嫌ならば全力で抵抗すると思われるため、ただの犠牲だったのかも知れない。

ヴィルヘルミナはパパゲーノに現代の服装を見繕い始め、仕方ないと言った様子でパパゲーノも自身の足で立ち上がると、ビーズクツシオンに目を向ける。

「行つてくるねトルーマン……」

”お留守番よろしくね……”と呟き、パパゲーノは名残惜しそうに黒いビーズクツシオンを後にした。

ちなみにトルーマンとは無論、ビーズクツシオンに彼女が付けた名前である。共に生活してわかつた事だが、彼女はモノにやたら名前を付けることが多く、何故か政治家や王様の名前が多い。彼女なりの嫌がらせか何かかと思つたが、寝惚けまなこを擦る彼女を見ていると、特に理由はないと言うことは伝わって来たため、あなたはそれ以上考えるのを止めた。

ちなみにいつぞやあなたが購入した人肉用の小型冷蔵庫にはヘリオガバルスという

名前を付けている。 S S S レート喰種の思考は宇宙なのだ。



「カメラマンとー！ 照明さんのー！ 後に入るー！」

現在、24区の地下通路にてあなたは上機嫌に歌を口ずさむヴィルヘルミナを先頭に

進んでいた。

ふと、内壁に目を移すと所々に肉々しい赤ピンク色の時折脈動する外壁——Rc細胞壁があるのが目に止まり、まるで別世界のようにあなたは感じる。

「ゆけ！ゆけ！川○浩！！ ゆけ！ゆけ！川○浩——！！」

人間なら世代がバレそうな歌を口ずさみ続けるヴィルヘルミナに、そろそろあなたはツッコミを入れようかと考え始めるが、無駄に美声なためそれも何となく憚られる。

「それが最近のニホンジンの歌なの……？ 変なの……」

それだけは違うと、あなたはパ Pagerノに釈明した。少なくとも既に恐怖の大王もUMAこと未確認生物も廃れた時代である。

「……別に死ぬほどどうでもいいけど——」

「今のイスタンブールは昔コンスタンチノープルなのさ——  
 Now it's Istanbul, not Constantinople——  
 Been a long time gone, Constantinople——  
 Oh Constantinople——」



「これが最近の歌なの?」

あなたも知らない曲をヴィルヘルミナは歌い始めた。独特なリズム、耳に残る言葉、そもそも英語の歌のため、あなたは「そうかな……そうかも……?’’?」と思いつつ嘘は良くないため口を閉じるばかりである。

「んー? アシラちゃんも知らな——……あー、The Four LadsのIstambul Not Constantinopleはそう言えば戦後の曲だったな。悪い悪い」

そんなことを言いつつヴィルヘルミナはカラカラと笑うと、地下道の比較的高い天井を見つめて押し黙り、暫くすると口を開く。

「昔はよく隊の連中と歌ったものだな」

「それぐらいしか喰種にはいつでも楽しめる娯楽は無かったも……」

それはどこかここではない遠くの見えぬ空を見ているようにあなたは思え、それについて何を言うわけでもなくヴィルヘルミナに着いて行くのであった。



「こんにちはは大隊長！ アシラちゃん！ 今日メンゲレちゃんに会いに来てくれたんですか!?!」

「帰る」

人類未開の24区を潜る探検の果て、ヴィルヘルミナ探検隊が見つけたモノは、元喰種親衛隊”最後の大隊”ラストバタリオン 特殊医療班隊長——メンゲレの研究所であった。

そして、白衣を着て丸眼鏡を掛けたドイツ系の美女——メンゲレが出迎える。白髪に赤目の見事なアルビノであり、片眼だけが赫眼などところから半喰種であることがわかる

だろう。

そんな彼女が出迎えると、何故か彼女に対して拒絶反応を出し、散歩に行くと思っただけなら予防接種に来た事がわかったワンコのような顔をしつつパパゲーノは即座に帰ろうとする。

「イヤよ……そもそもなんでコイツまだ死んでないのよ……?」

「ブツダがゲイのサディストだからじゃないですかあ?」

あなたからするとこのメンゲレを自称する本名不明な半喰種の事について詳細は全く知らないため、妙に嫌われているらしい理由はよく分からない。

「まあ、それよりもだ」

するとヴィルヘルミナは、パパゲーノが逃げ出すのをそれとなく制してからメンゲレの前に出ると、何故かその頭を鷲掴みにした。

「いやいやいや、突然アポなしで来るなりご挨拶過ぎま——」

「三度は言わん。白衣は脱げ」

「コレは私のトレードマークでして脱いでしまったら——」

「白衣を脱げ」

「もー、強情なんで——ぎにやあああああ!?!」

「三度は言わんと言った」

すると更に何故か奇行に走るヴィルヘルミナは、メンゲレの白衣を素手で勢い良く剥ぎ取って捨て去った。白衣の下には黒セーターとジーパンを着ており、今の彼女はただの女性に見える。

「うえーん……酷いです……」

「白衣を着ているアンタはろくなことしない……」

そして、どうやらメンゲレから白衣を剥ぎ取るのは最後の大隊では割りとは常識らしい。さっぱりあなたには意味のわからない概念である。衣服から仕事モードになるような方なのだろうかとあなたは考えるばかりであった。

ふと、剥ぎ取った白衣の行方に目を向けたあなたであったが、何故か白衣は既に研究室の見える範囲の何処にもない。ヴィルヘルミナがどうにかしたのだろうかとあなたはそちらに思考を向けるのを止める。

「では伴侶さん。改めて自己紹介をば！ 私は羽赫の半喰種の死の天使なメンゲレちゃん！ あるいはあ……元ドイツ喰種対策局SSSレート喰種「ヴェーヌスベルク」です！ また、「元喰種親衛隊」最後の大隊<sup>ラストバタリオン</sup>「特殊医療班隊長」。最終階級は少佐です。呼び名はヴェーヌスベルク少佐でも構いませんよ？ お好きにお呼びください！」

するとあなたに詰め寄ってきたメンゲレは、ネアカなテンションで自己紹介をして来た。それに面を食らうあなたであったが、ネットでの様子を思い出して、凡そそのよう

な喰種なのだと理解した。

自己紹介を終えたためか、メンゲレはヴィルヘルミナの方に身体を向けて、やはり詰め寄るように迫る。彼女は少々、他人との距離感が不思議らしい。

「それで今日は何用で来たんですか! あつ、もしかしたら私に初めて伴侶の顔見せをしてくれ——」

「そんなの決まっているだろう?」

するとにつこりと笑みを浮かべたヴィルヘルミナの背から甲赫の赫子が顔を覗かせ、それを視認したメンゲレの表情が瞬時に青くなる。

あなたどころか、アシラの目にすらほぼ目にも止まらぬ程の速度で放たれた生きている日本刀のような甲赫の赫子は、切っ先がふたつに別れた直後、メンゲレの両足の大腿部の付け根を通過した。

「へっ?——へぶっ!?!」

そして、両足を根元から失ったメンゲレは、重力の作用で残った胴体と上半身がそのまま床に叩きつけられるように落ちる。

ヴィルヘルミナは落ちたメンゲレには目もくれず、残った両足を拾い上げると、嬉しげにその赤々とした断面を眺め、床に転がるメンゲレを一瞥した。

「貴様をランチにするためだ。パツキン巨乳喰種姉貴について二度目はないと書いた筈

だが？ 二回書いたから二本だな」

「あつ、足があああああ!!? ちくしょー!？」

「美味美味」

スレを思い出したあなたは絶妙な苦笑いを浮かべる。どうやらこの為だけに来たらしい。

メンゲレの足に口を付けながら舌鼓を打つヴィルヘルミナは完全にサイコ染みているが、既にそんな彼女に慣れきっているあなたは“喰種同士のコミュニケーション”程度に考え、少し困りつつも無意識に笑みが溢れる。

「……………」

そんなあなたをパパゲーノは心底奇妙で少し気色悪いモノを見るような目で見ていたが、二人に意識を向けているあなたは気付かなかった。

## メンゲレちゃん

「もう、そのジーパンお気に入りでしたのに……」

「ダメー、ジーンズとやらになつたではないか」

「短パンにされたんだよなあ……」

足を失つたため、地べたに転がされているメンゲレは見上げ、彼女の足に口をつけているヴイルヘルミナは見下ろしつつそんな会話をしている。

本物の悪魔並みに有言実行な性分かつ行動力の権現のようなヴイルヘルミナらしいと言えればそれまでであろう。

些かバイオレンス過ぎる行動にこれが喰種同士のコミュニケーションなのかと頭を過るが、横目に見たパペゲーノが二人に心底関わりたく無さそうな表情をしているのでそれを振り払うあなたであつた。

「伴侶さん起こしてー」

・ 起こす

・ 起こさない

すると何故かメンゲレがあなたに助けを求めて来た。赫子を出して足代わりに立ち上がったりはしないらしい。

割りと物臭なヴィルヘルミナは赫子を足代わりにして、新手の映画エクソシストのあれのような姿勢で寝たまま移動しているため、あなたは不思議な気分を覚える。

「喰うか？」

「食うわけあるか」

ちらりと他のSSSレート喰種の二人に目を向けるが、ランチと漫才に夢中で気付いていない。どうやらあなただけで決めなければいけないようだ。

・ 起こす ↑

・ 起こさない

「∞m」

まあ、メンゲレとは知らない仲間でもないあなたは彼女の両脇に手を入れて持ち上げ



る。確かにこうして会うのは初めてだが、A p e x は基本的に3人制のゲームのため、ヴィルヘルミナに付き合わされてパーティーを組んでよくやっているのであつた。顔を知らないネット上の友達という奴である。

「so so」

彼女に促されるまま椅子に座らせる。その拍子に足の断面から流れ出た血液が座面を染めてグロテスクな事になっているが、日頃からヴィルヘルミナと過ごしていると血沙汰には慣れたあなたにとつて大したことではない。

「その冷蔵庫の扉の内側にある栄養バーみたいな奴取つてくれませんか？」

メンゲレのその言葉と示された指に従い業務用の巨大な冷蔵庫を開け——真つ先に体育座りの姿勢で冷蔵庫に収まっている十歳前後の少年と少女の姿が目に入った。若干姿が似ているところから恐らくは二卵性の双子のようだ。

しかし、既に事切れており、死んだマグロのように虚空を見つめるばかりのため、あなたは喰種なら当たり前の事だと特に気にせず、扉の内側に立っている数本の栄養補助スナックのような棒状の何かを持つ。

冷蔵庫の扉は珍しい下まである大扉のため、なんとなく足で閉めてみた。普段出来な  
い少し悪いことをしてみたような気になり、内心でほくそ笑む。

「ええ……」

何故かパパゲーノが有り得ないモノを見るような目であなたを見てくる。どうやら彼女のメンゲレと普通にコミュニケーションしている姿はドン引きに値するものらしいと解釈した。

「相変わらず、小児食性者なのかお前は」

「食性に人聞きの悪いこと言わないで下さいよ！ 人間だつて子羊とか、仔牛とか高級料理で大好きじゃないですか!？」

「せめて高校生ぐらいの年齢にならなければとても食べる気になれん」

「かー！ 高校生のなんてもう初老ですっ！ これだから枯れ専は!？」

「なんだとお……」

どうやら食性の相違らしい。ヴィルヘルミナは大人しか食べない事を思い出し、好みの問題であり、喰種にとつて特に子供が不味い訳ではない事を知る。

ならばパパゲーノはどうなのかとあなたは目を向けて見た。

「こつちを見るな……」

あなたはパパゲーノにグイツと指で頬を押し戻される。どうやら彼女はあの二人の会話に入れられるとご機嫌斜めになるらしい。確かに二人に比べると彼女は相対的に常識人であろう。

また、気持ちはわからないでもないと思うあなたであるが、片方が伴侶でもう片方は

ゲーム仲間なので何も言えなかった。

「全くもー……」

するとあなたが冷蔵庫から持って来た栄養バーをメンゲレが食べ始め、それと共に凄まじい速度で両足が生え直す。

喰種という生き物が人間と異なる価値観を持つ所以のひとつを目にし、あなたは指を食い千切つては食べて生やして再び指を喰い千切り、また指を生やすというループ染みた爪を噛むような癖のあるウイルスヘルミナを思い出していた。

それと共に半喰種は人間の食物も食べられる事を思い出し、メンゲレは市販のそれを食べているのだろうかと解釈する。

「足が生えたのならRc細胞由来のモノか」

「そうですよ。食べます？ 市販のモノとそんなに遜色ないですよ？」

「そんなこと言っても騙されんぞ——モガッ」

するとメンゲレはウイルスヘルミナの口に栄養バーを差し込む。そう言う問題ではないのではないかとあなたは思いつつ、暫くするとウイルスヘルミナの方が動き出した。

「……………」

栄養バーが目に見えて徐々に減り、咀嚼しているウイルスヘルミナの口に吸い込まれていく。どうやら彼女の方から食べているらしい。

そして、暫くの無言の時間の後、全てを口に入れてもぐもぐと咀嚼する彼女は呟いた。  
「おいひい……」

「材料から拘つてますからね。ほらアシラちゃんさんもどうぞ」  
「嫌よ……そんな得体知らな——もぐつ」

いつの間にか、剥かれた栄養バーを先端に付けたヴィルヘルミナの赫子がパパゲーノの口に直撃する。

強制的に栄養バーを咀嚼するはめになったパパゲーノは苦虫を噛み潰した表情になり——。

「」  
その直後、パパゲーノは完全に停止する。パントマイムの途中のように行動そのものが完全に中断されたかのようにさえ思える。

「……………」  
そのまま暫く無言で咀嚼していた彼女は、居住まいを正して直立不動になると、片目の端から一筋の鈍い輝きを落としつつポツリと呟いた。

「美味しい……」

「お二人とも語彙力死んでますよ？」

まだ味を噛み締めているのか止まっている二人を他所に、メンゲレはあなたの前まで

来る。

それから徐に栄養バーを剥くと、花が咲くような笑みを浮かべながらあなたに差し出して来た。

「伴侶さんもうどうぞ」

特に気にせず、それを受け取ったあなたは口に含んで半分ほど一度に食べる。食べてからそう言えば「Rc細胞由来のモノ——」等とヴィルヘルミナが言っていた事を思い出したが、既に後の祭りである。

味はどこにでもあるような栄養バーであり、むしろ市販のものよりも若干甘めに感じるイチゴ味はスイーツっぽさもあり、女性に生まれそうな味だとなんとなく考えた。

「ええ、普通の栄養バーですよ？　ただ、喰種も食べられ、同様の味に感じられるだけで」

「これが甘いという味か……」

「甘い……」

そこまで言われてあなたはようやく気付いた。

あなたにとっては何んてことのない馴染みある味であったが、喰種ふたりにとっては違うのだ。甘味、酸味、塩味、苦味、それとうま味。それらの全ては人間だから感じられることであり、生まれつきの喰種である者にはこれまでまるで無縁のことであったのだらう。

いや、コーヒーは飲めるため、苦味や酸味は一部わかるかも知れないが、反応から二人にとつては青天の霹靂だったことは間違いない。

「前々から疑問だったんですよね。私のような半喰種は人間の味も人間の食べ物の味もわかるのに、なぜ喰種と人間の味覚はこうも解離しているのかと。不思議じゃないですか？　なので”人間でも喰種でも同じ味に感じる食糧”を作った結果のひとつがこれです」

「どうやらあなたが考えていた以上にメンゲレー——このヴェーヌスベルクというSS Sレート喰種は異次元の存在らしい。SS Sレート喰種に指定されている理由のひとつもそれとなく察するというものだ。

「どうやってこんなものを……」

「喰種が食べれる食べ物や加工品を先に作り、それを原料にして栄養バーを作ったんですよ。苺、大豆、マーガリン、砂糖、卵、ナッツ、あんこ、チョコレート等々に添加物を少々です」

「……………前に喰わされた人工兵糧の時は糞のような味だったような……？」

「<sup>50</sup>ナチスドイツ時代の話じゃないですかそれ？　その時は結局、”クソ不味い上に兵糧なんて戦場のそこら中にあるだろ常識的に考えて”とか言われておじやんになりましたけど、私はあの頃からずっと変わらず喰種と人間の研究を続けていますから日々精進

しま——」

「ギルティ」

「な、なんで!? 私、今回は何も悪い事……してなくはないですけどそんなには……それに私がしている研究の全ては大隊長も把握して——」

「私にこの研究成果を黙っていた理由は?」

「い、今の今まで興味を示してくれなかったじゃないですかあ!? 言いましたよ私!?

30年ぐらい前に……今度こそ美味しくなったので食べてくださいあい♡ってバレンタインチョコにして贈ったら一言——”キモい”って言ってチョコを吹き飛ばして、私のチョコ持っていた片腕をバレンタインチョコ代わりに食べたのはどこの誰ですか!?”

「美味であつたぞ」

「味は聞いてねーんですよ!?”

メンゲレは残っていた数本の栄養バーを机に叩き付け——ぶつかる寸前に目にも止まらぬ速度でそれらを回収したヴィルヘルミナは、パ Pagerノにも半分ほど栄養バーを配り、袋を開けると咀嚼し始めた。

配られた栄養バーを見つめたPagerノはポツリと呟く。

「これがあれば人間と喰種の最大の軋轢が無くなるわね……」

「——は? なーに寝惚けたこと言ってますか。そんなことしたら喰種と人間が相容

れない根本原理がなくなっちゃやうじゃないですか？ 嫌ですよ」

それにこれまでの笑みを崩し、真顔で即答したのは他でもないメンゲレであった。

更にメンゲレは、パペーノに詰め寄ると、酷く意志が籠つてはいるが、パペーノを全く見てはいない瞳で刺すように問い掛ける。

「私たちは、最後の大隊<sup>ラストバタリオン</sup>。あなたもそうだったように誰もが最期のその瞬間まで自己の身勝手に倒錯した正義を謳歌し、ありふれた理不尽に殉じた世界最悪の反動組織ですよ。それこそ我々が歴史に刻んだ地獄という何物にも代え難い勲章。我々から世界の癌であつたという偏執<sup>ブライド</sup>を捨てたら何が残るといふのです？」

「改めて言われなくてもわかつてるわよそんなの……。だからどうするだなんて私、言つてないわ」

「——えへへ！ そうですか、そうですか！ いえいえ、そうですね！ 我々が同士のアシラちゃんともあろうものが、そんな敗北主義者のようなことを言うわけがありませんものね！ 私が勘違いしていましたっ！」

「いやー、失敬失敬！」と破顔しつつ自身の頭を大袈裟に掻くメンゲレ。どうやらこう見えてもメンゲレは未だにナチスドイツ軍人あるいは、最後の大隊<sup>ラストバタリオン</sup>なのだということをあなたは知つたと共に、何か妙な既視感を覚えた。

「そうだな。私も今の世界の形が気に入っているのだよ。故にこれは我々だけの禁忌。



それよりも折角、私の伴侶もアシラちゃんもいることだ。研究所見学と洒落込もう。まずはこれの製造所が私も見たいな」

「ガッテン承知の助でい！」

強く返事をしたメンゲレに導かれるまま、ヴィルヘルミナらは研究室に隣接しているエレベーターへと乗り込んだ。



「はい、ここが加工前の生産プラントですよー！」

エレベーターの扉が開いた直後、明らかに地下とは思えない明るさに目が眩む。

少し目が慣れたあなたは学校の体育館にある水銀灯を更に巨大化させたような照明が幾つも高い天井から等間隔に下げられており、都市部の地下貯水槽のような莫大な空間だということがわかる。

そして、更に目が慣れたあなたは、赤と黒を基調とする余りにも常軌を逸した光景を目にした。

まず、幹と枝と葉がヒト組織で構成された木々が立ち並び果樹園が広がる。そして、その中央と周回を囲うように用水路があるが、それを流れるものは水ではなく、濾過されて全身に送り出されたばかりの動脈血のように鮮やかな赤々さをした人血のような何かだ。

更にその中では人間の肌質感と寸分の狂いもない表皮をした無毛の牛が何をされるわけでもなく何頭も放牧されており、それらが時折啄む草はまるで黒や茶のまだらな頭髪のようにであり、それらが生い茂る地は頭皮のように白くやや脂っぽいテカリが見受けられる。

また、思わず頭皮のような地を強く踏み締めると、肌のようにやや赤みを帯びる様が

見え、それとなくそつと力を緩めた。

「別にぞんざい扱って大丈夫ですよ。地上の自然の光景と違いは見た目ぐらいのモノなの——」

『タスケテ——』

あなたに気を使つたのか、メンゲレがこの余りにも肉々しい生産プラントなる場所の説明をしようとした直後、近くに居た人間のような肌をした無毛の牛が明らかに人間の声を上げた。

しかし、それはくぐもつて掠れていた上、イントネーションも不自然だったため、辛うじて聞き取れたに過ぎないが、そう聞こえてしまえば少なくともあなたはそちらを向かざる得ない。

『モドシテ——』

『オカーザン——』

『イヤア——』

更に周囲の人間のような牛も、まるで音が漏れるようにそんな言葉を呟く。

ただでさえ現実味のない肉々しい景色に、このような言葉が怨嗟のように響き渡れば、最早ここは地獄のようであった。

「前に来た時より随分増えたな」

「そりや、前に見に来たの15年前じゃないですか。それだけ経てば嫌でもぼこじやか増えますよ。品種改良もして行きまじしたしね」

そんな中、特に何か感じている様子もなく小首を傾げているヴィルヘルミナに、メンゲレはそんな対応をした。

どうやら喰種にとつてはむしろご馳走に見えているのかも知れない——とあなたは一瞬考えたが、パパゲーノが心底気色の悪いモノを見るように眉を潜めた絶妙な表情をしていることで、どうやら最後の<sup>ラストバトル</sup>大隊のトップと一部の幹部の頭が可笑しいだけだということを察する。

「気色悪い……」

「その分、味には自信ありますよ？　ここは見ての通り果物と牛のエリアです。果物はなんでも実ります。牛は肉牛にも乳牛にもなりますね」

パパゲーノにそう言ったメンゲレは近くに居た概ね牛に近付き、その頭を撫でる。するとそれは気持ち良さそうに目を細目ながら一声上げた。

『モウ、コロシテ——』

「まあ、このように変えた第一世代の子達が吐いた言葉を何故か鳴き声にしてしまったので、なんか不気味なんですよねー。声帯も邪魔ですか」

「……………何人使ったのよ？」

そうパパゲーノに投げ掛けられたメンゲレは撫でる手を止めて固まる。

そして、気だるげに眉を潜めてわざとらしく肩を竦めて溜め息を吐く。

「あのですねえ……。昔なんてA型の血液と、B型の血液を混ぜてAB型の人間に輸血したらどうなるかとか普通にしたんですよ？　今の医療も常識も、全て過去の非常識と無知と狂気の果てにあるのです。ナチスの人体実験があらゆる人体限界や基礎知識として医療に貢献したことは知らなくとも、生き返ってからちよつとお勉強すれば、エガス・モニスのロボトミー手術が一度はノーベル賞を取ったことぐらいは知っているでしょう？　リスクや目新しさもない研究などゴミ同然。してはならないことを見出すことすら出来ない。研究において倫理観や普遍などというモノは妨げにしかならない唾棄すべき世迷い言なのですよ」

あなたは確信する。確かにメンゲレは非常にウイルスヘルミナに似ているという事を。

本題と論点をすり替え、限界まで迂遠させつつ相手を論説で振じ伏せるこのやり方はどう考えてもウイルスヘルミナ譲りであろう。

「アンタの場合、昔から研究そのものが目的で結果が後に付いてくるから質が悪いんでしょうが……」

「それで結構、それこそ私です。実績は上げているので問題ありません。そもそも誰か”ナグルファル”を作ったと？　いまここにアナタがいるのも私の研究の副産物です

よ」

「別に頼んでないわよ。勝手にやったんでしょうが……栄誉の死を踏みにじられた気分ね」

「……………うーん、それを言われると駄目ですね。それに関しては私が全面的にゴメンナサイしなきゃですなー」

そう言うのとメンゲレは、両方の親指と人差し指を立てて銃のように見立てて構え、満面の笑みを作りながらウインクをした。

「ごめんなちゃーいー！」

悪意100%のとんでもない煽りであった。対岸の火事なあなたが感心すら覚えてしまっても仕方のない事であろう。

「……………ッ！」

パパゲーノは苦虫を噛み潰したような顔で、あなたにも聞こえるほど歯軋りをしつつ握り拳を作った。

どうやらメンゲレは、そもそも人間性に凄まじく問題があるらしい。このヒトデナシ具合、流石はヴィルヘルミナの幼馴染み兼片腕だとあなたはとても感心する。



ゲレのポケットに入っているとおぼしき携帯端末が赤く激しく点滅し続ける。

「ああ……白鳩ハトのもぐら叩きの連中が私の研究所カの何処かの区画に誤って侵入しちゃったんですね」

”もー、入って来なければ素材が足りなくならない限りは何もしないのに……たまにあるんですよー”等とメンゲレは続け、端末を暫く弄る。

「うわあ……。今回のモグラ叩きの特等捜査官ガチャは”有馬貴将”アリヤマじゃないですか……VのSSRですねえ」

”またかよ……”とぼやきつつ、とてつもなく嫌そうな顔をするメンゲレと打って代わり、その名を聞いてから嬉しげに笑みを浮かべたヴィルヘルミナが印象的にあなたは思えた。

「ほう……なら私が出よう。なに、少し彼の實力には前々から興味があつたのだ」

「あー……いやいや止めてください。何度かモグラ叩きで”メンゲレちゃんの犬”とか、実験体たちと交戦しているのでわかりますが……流石に大隊長でも半赫者ぐらいは普通に切る相手だと思うので……」

「ほほう……俄然興味が湧いてきたゾ」

「あなたが半赫者なんて使ったらこの前のコクリアの二の舞が、私の研究所付近で起こるから止めろつつつんですよ!？」



「ちえー……」

始めからわかっていたのか、ヴィルヘルミナは直ぐに引き下がった。

最近あなたは知ったのだが、ヴィルヘルミナは、普通の喰種ならば少なくとも通常形態と半赫者形態あるいは赫者形態になるところ、通常形態、半赫者形態、赫者形態と三段階に少なくとも移行出来るらしい。また、基本的にまず、無手で戦っているため、相手からすれば実質四段階変身するクソゲーである。

ならばとあなたはメンゲレの戦う姿が見れるのかと、少しの期待を込めて呟く。彼女もヴィルヘルミナやパパゲーノと同じくSSSレート喰種のため、無論実力者であると勝手に解釈していたのだ。

しかし、当のメンゲレは呆けた顔をしつつ、人差し指を立てると自分の顔にそれに向けた。

「えっ……？ 戦う？ 私が？」

「そのゴマすりクソバードは比喻でもなんでもなく、産まれてこの方、両手の指で足りる程度しかマトモな戦闘をしたことないぞ？」

「そうだよ」

「ちなみに確かに赫者だが、マトモにやり合ったらS+レートにも普通に負けるぞコイツは」

「私YOEEEE!!」

更に”コバンザメガチ勢舐めんな!”等と尋常ではないほど情けない宣言をするメンゲレ。どうやらスレで言っていた事は想像の斜め下の事実らしい。

「戦いはもちろんオレ以外が行く」

これ以上ないほど自身の株を地面に擦り付けつつ、メンゲレは懐から別の携帯端末を取り出した。

「今回という今回は許さんぞアリーマー……。毎回毎回、私の実験体を壊して行きやがって……。えーと……。ああ、侵入されたのはフィツシユちゃんの廃棄区画ですか。んー……。なら最悪潰されてもいいか。でもフィツシユちゃん強いから流石に同格以上の娘たち使わないとなあ……」

端末を弄りつつ、独り言を呟くメンゲレ。言っていることがあなたにはさっぱり理解できないが、少なくともろくでもない事をしているのは伝わって来た。

「なら近くにいる子達は……。つと——おお、”ジャックちゃん”と”シムナちゃん”ですかつ！ こつちもSSRですね。前衛後衛揃っていい感じですし、丁度いいですね！」

そう言いつつメンゲレが端末を操作すると、何処からともなく数機のドローンのようなものが近くで隊列を組みつつホバリングを始める。

「では、私の長年の研究のひとつをお披露目しましょう！——ええ、ナチス軍人にして、“ピエロ”の一人として最高のシヨールを皆様にお届けいたしますわ……」

それまでとは打って代わり、口許だけに笑みを浮かべて恭しく礼をして見せるメンゲレ。

そして、隊列の中心に全てのドローンから光が放たれ、それは5 m四方の立体映像を投影するに至った。



ドイツ喰種対策局SSSレート喰種”ヴェーヌスベルク”。日本CCGの呼称でもそれが使われている珍しい喰種である。

それはナチス・ドイツ創設以前に指定された数少ないSSSレート喰種の一体であり、現在は日本の東京の24区に根を下ろしている生粋の怪物であった。

かつて世界そのものに挑んだ史上最悪の喰種反動組織”ラストバタリオン最後の大隊”は、ナチス・ドイツ崩壊前の時点で、世界中に構成員を拡散させ、それによって現在まで残存戦力の85%以上の駆逐が未だに確認されておらず、その所在が雲を掴むように不明である。また、時折末端の構成員が突如として表舞台に出るは、一切死を厭わずCCGに単身特攻し、甚大な被害を出して駆逐される程度であり、ヴェーヌスベルクは珍しい所在を掴んでいる元ナチス・ドイツSSSレート喰種と言える。

しかし、その在り方はある意味、首領であるレッドプールよりも遥かに異常であった。まず、喰種にしては珍しく、一切顔を隠さない喰種であり、ネットを通じて頻繁にその存在を映像越しに誇示し、自らを”メンゲレちゃん”等と狂った呼称をする。しかし、余りにもCCGへの露出が激し過ぎるため、その存在そのものを作り物だと疑問視する声さえある幻のような存在なのだ。

しかし、その発信源を逆探知すると、いつも24区で人間の知る限りでは存在しない区画に辿り着くため、虚偽ではないであろう。

そして、日頃からCCGに対して度重なる挑発・脅迫・犯行予告・クインケの譲渡等を行い、実際にそれが行われる。東京とCCGを巻き込んだ劇場型殺人鬼のような何かなのだ。

そのため、24区の掃討が行われる最大の目的は、ヴェーヌスベルクの駆逐であるが、あくまでも最終目標であり、24区の掃討を危険を冒してまで行う理由は主にふたつ。

ひとつは喰種の本拠地であるため、潜伏している喰種の殲滅。そして、もうひとつは地下深くにあり、全容が掴めないほど大規模な研究所から”人ではない何か”あるいは”人で無くなった何か”である生物兵器が這い上がってくるからだ。

『さあさあ！ 本日はお忙しいところ呼んでも居ないのにお集まり頂き、誠にありがとうございます！』

そして、現在特等捜査官”有馬貴将”率いるモグラ叩きは、図らずもそんなヴェーヌスベルクの研究所に足を踏み入れてしまった。

ヴェーヌスベルクの研究所は、RC細胞壁をこれ以上ないほど繊細かつ大量に用いて

作られている兼ね合いで、施設そのものが、生きているかのように1ヶ月程で研究所の構造が全く別の配置に置き換わる。

そのため、マツピングがほぼ不可能なため、このように一部だけ中層近くまで突き出していた研究所の一部区画に意図せず、踏み入れてしまう事があるのだ。

まあ、モグラ叩きの最終目標はヴェーヌスベルクの駆逐のため、願ったり叶ったりではないかと思われるかも知れない。しかし、精々数十名の新人を含む捜査官を割くモグラ叩きの人員に対し、ヴェーヌスベルクの戦力はどうか軽く見積もっても生物兵器の頭数だけで一個師団以上に相当するため、日本CCGが総力戦を仕掛けなければならない規模なのである。

そのため、あくまでも形骸化した最終目標に設定し、研究所から地上に這い出て来そうな生物兵器を間引く作業を新人研修に当て、生物兵器たちの醜悪さを新人に見せ付ける事で喰種への嫌悪とヘイトを上げることによって役立てている程度なのだ。

つまり、ヴェーヌスベルクと本気で事を構えるなど日本CCGは端からしておらず、現在の状況は藪蛇以外の何物でもないということである。

『つきましては、どういうわけかこんなところまで性懲りもなく来やがった皆様あ！

一昨日来やがれてついでですよ！』  
というか、また来たなアリーマー!? これは何回目ですか!?!』

「……………さあな」

そんな中、特等捜査官の有馬貴将は、既に幾度となく研究所に足を踏み入れ、ヴェーヌスベルクの生物兵器たちを殲滅している。当たり前であるが、その事が彼女からすれば癪に障るらしい。

有馬は振り返り、数十名いるモグラ叩きに参加している捜査官らに目を向けると、少し間を置いてから口を開く。

「全員退いてくれ。俺が殿になる」

「しかし……有馬特等——」

「ヴェーヌスベルク……。いつもよりやる気だ。何か投入して来るぞ」

「——!? 皆退け！ すいません有馬特等！」

「ああ」

基本的にヴェーヌスベルクは研究所に侵入して来ても今ののように音声でヤジを飛ばして来る

程度で、捜査官らが退けば特には何もしてこない。

しかし、捜査官らに説明をしつつ性能チェックなどの理由で生物兵器を投入して来る事がある。有馬はヴェーヌスベルクがいつもよりも興奮しており、楽し気な声色から何かしらを投入すると踏んだのだ。

『あつ……逃げた。アリーマー!? あなたなんで私が殺しに掛かろうとした時だけ、モグラ叩きを退かせるんですか!?!』

「……………なんとなく?」

『そつかあ……………なら仕方ないかあ……。うん、今日も殺すわ』

「ああ」

その言葉に呼応するように有馬は、自身のクインケであるIXAの柄を強く握る。その頃には既に捜査官らは足音も聞こえない程度には離れており、ヴェーヌスベルクが追撃を指示した様子もない。

『じゃあ、アリーマーを殺っちゃってください。"ジャックちゃん"、"シムナちゃん"』

その言葉と共に研究所内から二人の人影が姿を現し、歩いて有馬の元まで来る。

それは両方ともナチス親衛隊の浅黒い軍服と軍帽を身に纏い、ハーゲンクロイツの描かれた腕章をした高校生程度の年齢に見える少女であり、ヴェーヌスベルクがマトモなヒトの形をした生物兵器を投入して来た事に有馬は少なからず驚いていた。

また、それだけでも異様であるが、先に有馬の近くまでやって来た少女は大柄で、故かスコットランドの代表的な民族楽器であるバクパイプを小脇しており、ロングソード型のクインケを腰に下げ、ロングボウ型のクインケを背負っている。



更にもう片方の少女は小柄で、スコープの付けられていないマウザー タンクゲ ヴェールM1918に似た大型クインケを肩に担ぎ、空いた手にドイツ製の短機関銃のベルグマンに似たクインケを持っていた。

「——！」

そして、二人とも片眼だけが赫眼な事が特徴であり、その事に有馬は最も驚いているように見える。

「有馬特等捜査官ですわね？ 御初に御目に掛かります。私はジャック、そちらはシムナ。見ての通り半喰種です。今日は良い死合いをお願い致しますわ」

「ジャック……。これから殺す……。言葉……。無為」

「シムナはドライですわね。向こうはわざわざ一人で殿に応じてくれたのですから、こちらもそれ相応の格式が必要でしょう？」

「死ねば……。肉……。無意味」

バクパイプを持つている方の少女が恭しく頭を下げるが、小柄な体で対戦車ライフルを軽々と担ぐ方の少女はそれを怪訝な表情で諫める。どうやら行動も性格もほぼ真逆の二人らしい。

「では……。そろそろ始めましょうか。こちらは二人ですが、捜査官とは本来そう言うものでしょう？ 卑怯とは言わないで下さいましね？」

「お前……無謀」

その言葉と共にジャックはロングソードをそつと引き抜き、シムナはタンクゲヴェールの銃口を有馬に向けた。

対峙する有馬はIXAの切っ先を二人に構え、先に相手の動きを待つ。

『さてさて……神々の残されたものにして、神々の娘。我々のレギンレイヴたち。まだ、研究半ばですが……少しばかり……ナチスの終生の悲願——”レイベンスホルン超人計画”を見せてあげましょう。さあ、お行きなさい』

ヴェーヌスベルクのその言葉が皮切りとなり、有馬と両者は交戦を開始した。

そもそもナチス・ドイツよりも以前に名付けられたヴェーヌスベルクとは、ワグナーによって作曲されたタンホイザーに出てくる愛欲の女神ヴェーヌスが棲んでいるという禁断の地にて肉欲の異界ヴェーヌスベルクそのものを指す。

すなわち、ヴェーヌスベルクとはそもそも彼女個人ではなく、それを中心とした領域そのものがSSSレート喰種として判定されているという異常存在なのであった。

## ジャック

「無謀」

火蓋が切られた直後、真っ先に動いたのは小柄な少女——シムナであった。

彼女は短機関銃を地面に落とすと、マウザー M1918のような対戦車ライフル型のクインケを両手で構え、その銃口を有馬へ向け、何の躊躇もなく引き金に指を掛けた。

それに合わせるように有馬はランスであるIXAの六枚の防御壁を展開し、傘のように広げ——直感的に激しい悪寒とIXAに対しての不安感が沸き、飛び退きつつIXAの防御壁を畳む。

「!!」

それとほぼ同時に発射の直前で銃身の角度を変え、偏差撃ちされた銃弾——ではなく15cm程の長針が、変形途中のIXAの防御壁の一枚を紙クズのように貫通し、有馬の頬を薄く掠めた。

「では始めましょう」

挨拶代わりだったと言わんばかりに眩き、有馬の目の前まで迫っていた大柄な少女——ジャックが横薙ぎにロングソード型のクインケを振るう。

その余りにも速く、迷いのない一閃は有馬の胴を断つ様を幻視させたが、彼は腰を落として体勢を斜めに反らすことで避けると、ランスに変形を終えたIXAを彼女の頭部に突き出す。更にそれと同時に、もう片方の腕でコート内に隠されていた刀状のクインケであるユキムラ 1/3を展開し、下から上へ斬り上げる。

甲赫のS+レートであるIXAの防壁を当然のように突破出来る時点で、あの対戦車ライフルを避けつつ、ジャックと戦うことはかなり厳しいと踏んだ有馬は、対戦車ライフルからジャックの身体で撃てない直線の位置で戦うであろう最初の接近時に片方を殺し切ろうとしたのだ。

確かに突き刺したIXAに対して手応えのあった有馬であったが、もう片方のユキムラ 1/3の手応えが余りにも軽い事に疑問を感じ——ユキムラ 1/3が根本から完全に断ち斬られている事に気づく。

どうやらジャックは振った直後、刃を返してユキムラ 1/3を斬り裂いたらしい。Bランクのクインケではあったが、簡素な見た目のロングソードはそこまでレートの高いクインケではないと考えていたため、有馬は多少驚き——IXAから金属が軋んで折

れる音を聞いた。

直後、再び悪寒を覚えた有馬はIXAを手離しつつ遠隔操作で変形させ、1枚大穴の空いた6枚の防御壁が展開される。

そして、それがIXAの最期の姿になった。

IXAはジャックの袈裟斬りによって、斜めから一閃され、更に振り下ろされた彼女の腕の間を縫うようにシムナの銃撃がIXAの内部機構部分を貫く。それによって幾つものパーツに別れてバラバラに地面に落下する。これまで有馬を支えてきたクインケの片割れは余りに呆気なく、クインケ鋼と赫包のクズになったのだ。

「技量、状況判断、思い切りの良さ……どれを取っても素晴らしいですわね」

ジャックから距離を取りつつも、シムナを警戒して一直線上にいる有馬に彼女はそんな賛辞を述べて近付いてくる。

更にジャックは口から何かを吐き捨てた。それはクインケ鋼の金属片であり、錐のように鋭利なそれはIXAの先端だということがわかるだろう。

つまりジャックはIXAの突きを口で受け止めた上で、噛み砕く事で攻撃を無力化していたのだ。ここまでの事を実際に戦闘でやってくるほど化け物染みた技量と身体能力をした喰種を有馬は見たことがなかった。

「しかし、あまりこのようないことはありませんが……」

ジャックは小さく溜め息を吐いて有馬を眺める。そして、自身が持つロングソードで地面をなぞると、それで彼を指すように構える。

「特等捜査官ならば、常に最低でもSSSレート、あわよくばSSSレートクインケのひとつくらい常に持つべきでは？ 死んでから全力でなかったなんて笑い話にもなりませんわよ？」

「耳が痛いな……」

有馬が現在持つて来ているクインケは、懐に忍ばせたユキムラ 1/3が残り2本のみである。しかし、彼はとあるSSSレートクインケを保有しているにも関わらず、それをこのもぐら叩きでは持つては来なかった。

それどころか、未だに一度も使用した事はなく、そのクインケさえあれば今よりもずっとマトモに食い下がっていたことは間違いないであろう。

「栄えある神々の娘として生を受けた我々は、生まれつき片割れの赫包を使用した固有のSSSレートクインケが支給されておりま——」

『ごまあ、見ろアーリマー！ やーい、バーカバーカ！ お前のカーチャン既に寿命！』  
「……………」

ジャックは言葉の途中で、凄まじく低俗で幼稚極まりない煽りの音声の流れで来た事で、彼女は閉口し、シムナも有馬へ対戦車ライフルを構えることを止め、あからさまに

怪訝な表情を浮かべているように思えた。

音声——ヴェーヌスベルクはそのまま、まくし立てるように声を発し続ける。

『ジャックちゃん、SSSレートクインケは長剣の”レポレット”！ 何のギミックもなかったの長剣ですが、剣として考える限り最高の性能にしてあります！』

ジャックは持っていたロングソードを鞘に仕舞い、ヴェーヌスベルクの会話が終わるまで薄く笑みを絶やさずにいるばかりであった。

どうやら製作者直々に種明かしをしてくれるらしい。それによればジャックのロングソードは、純粹に剣として凄まじい性能があるだけの長剣のSSSレートクインケである。

それならばIXAが紙のように裂かれ、ユキムラ 1/3が手応えすらなく斬り落とされた事にも説明がつくだろう。

『シムナさんのSSSレートクインケはその対戦車ライフルの”パパゲーナ”！ それは貫通力の極めて高い赫子由来の長針を音速で打ち出す銃です！』

製作者がアピールポイントに上げるほど貫通力のあるSSSレートクインケに狙撃されれば、IXAの防壁などひとつたりもない。

有馬は結論として、S+レートのIXAで2本のSSSレートクインケを相手してしまつたことが間違いだつたと考ええる。

更に彼はジャックがロングソード型のクインケ以外にロングボウを背負い、シムナは短機関銃型のクインケを持っていることからジャックの他の持ち物に目を向けた。

「バグパイプもクインケなのか……」

「……え？ いや……それは普通に楽器ですわ」

楽器だったらしい。有馬は世にも珍しい音波で攻撃するクインケなのかと考えていたため、内心少しガツカリしていた。

そんな彼の気の抜けるような発言を聞いたジャックは何とも言えない顔で愛想笑いを浮かべている。

『じゃあ、適当に時間掛けて翩り殺しにしてくださいねー！ 私、ちよつと今手が離せないののでなるべく引き伸ばして下さい！ あつ、こらアシラちゃんそれはまだ焼けてま—

—』

「はい、わかりました」

「……………」

言いたいことだけ言い終えたヴェーヌスベルクは放送を止める。また、通話越しに死ぬほど下らない事をしていとうことは何となく感じたジャックとシムナであったが、それに対しては直ぐに記憶の隅に追いやった。

「……………止めた……………無益」



「相変わらず、シムナさんはメンゲレ様のお嫌いですね」

「不快……無粋」

するとシムナはクインケを肩に担ぐと近くの瓦礫に腰掛け、そのまま動かなくなつた。どうやら彼女が有馬と現状で交戦する気は無くなつたらしい。ヴェーヌスベルクに愛想が尽きたようにも思える。

「では、ここからは暫しの間、私一人でお相手致しますわ」

「赫子は使わないのか？」

そう言いつつ有馬は周囲を確認する。

そこには殿を務めた有馬の為に、全力での撤退時に身軽になるためか、幾つかのクインケが散乱している。それらと2本のユキムラ 1/3が有馬が今持ちうる全てだろう。

すなわち、それらでまずジャックを駆逐し切らなければ、彼に生存の芽はない。気に入っていたクインケを犠牲に、身を持って彼女とそのクインケの戦闘能力を知った彼からすれば、かつて“隻眼の梟”と対峙した時よりも絶望的だと確信出来るが、それでもやる他ない。

「冗談を……。クインケひとつ満足なモノをお持ちでない捜査官殿に赫子まで持ち出すなんて、余りにも品性に欠けて過剰ですわ。そもそもですわね——」

そして、ジャックは鞆に手を掛けると、その白銀の剣身を持つ無骨な長剣を抜き放つ。「罅り殺すのなら……相手の土俵に合わせなければ私が楽しめないではありませんか？」

あはは——」

それを皮切りに再び有馬とジャックは激突した。



一方その頃。

「見た目は兎も角、味は旨いな」

「すごい美味しい……」

ラストバトルオン

最後の大隊大隊長及び幹部たちとあなたは、宙に投影されている戦闘風景の立体映像をTV代わりに見つつ、生産プラントの一角を陣取って行われている焼き肉に興じていた。

日本CCGの特等捜査官最強の男有馬貴将と、メンゲレ秘蔵の戦闘員との一騎討ちは、あなたから見ればとてつもなく手に汗握るものであり、他の面々からすれば網で焼かれた肉が焦げ付かないように見張る方が重要らしい。

ちなみに焼き肉は網焼きのバーベキューコンロであり、火の調整は火床に放り込んであるヴィルヘルミナの赫包が勝手にやっており、メンゲレが中心に肉や他プラントから持って来た野菜を焼いていた。

「野菜が美味しそうだ……」

「喰種私たちからしたら硝子細工と変わらなかつたのにね……」

「伴侶さん、あーん！」

メンゲレが箸で口に直接肉を入れようとして来たため、とりあえず食べる。それはあなたが知る限りでも肉屋で相当高額な牛肉に感じ、メンゲレの味へのこだわり思わず

匠の技すら感じる。

横目でバーベキューコンロの隣を見れば、さつきまでこの辺りをトコトコ歩いていた人間の肌をした牛を、「新鮮なうちが特に旨い何より血が旨い」という喰種の思考により、屠殺して得た1頭分の肉が置かれていた。

しかし、既に3分の1は消費されており、あなたの知る喰種たちの胃袋の広さには驚くばかりである。

ちなみにあなたとしては、昏倒させて喉を裂いて吊るす等の屠殺方法が主流だが、彼女らの場合、死んだことすら理解できないであろうレベルで瞬殺するため、とても人道的だと感じていた。

「伴侶さん、この牛食べるのに抵抗とか無いんですか？」

凄まじい速度で黙々と肉を消費するヴィルヘルミナと。パバゲーノにひたすら肉を焼いているメンゲレが、手元を止めずにそんなことを聞いて来る。

確かに抵抗が無くはないが、家でホットプレートで焼き肉をする時は、人間が食べる用と人肉用のホットプレートをふたつ並べて焼き肉をすることが多かったもので、それをせずと同じ調理器具で食べられる事の嬉しさの方が勝っていると感じていた。

「ちよつとズレてるかな？」

「まあ、日本人はタコとかウニとか納豆とかとんでもないもの食べるし、へーきへーき」

「日本人って全部こんななのね……」

何か日本人全体にとんでもない風評被害が起きている気がするが、ヴィルヘルミナが言っていることは間違っていないため何も言えないあなたであった。

それよりも神々の娘という娘たちだけ戦わせて、自分達はなぜ焼き肉をしているのだろうかという疑問の方が強い。

「それはアナタ、部下が汗水垂らして働く横で食べる肉より旨いものはそうないからだ。後、普通に色んな味が気になる」

考えていた以上にヴィルヘルミナが上司としてアレな事にあなたは苦笑いを浮かべる。まあ、恐らく後者の理由がほとんどを占めるのであろう。

「色んな味と言えばですね。面白いモノを幾つかご用意しましたよ」

待っていましたと言わんばかりにメンゲレは、何処からともなくクローシユが被せられた皿をひとつ出して来た。

ちなみにクローシユとは主に西洋料理で、料理をにかぶせる金属製の丸いアレのことである。食べ物のおかさや鮮度を保つという用途らしい。

そして、メンゲレはその蓋を恭しく開けて見せた。

「パップラドンカルメです」

「これがあの……パップラドンカルメ?!」

「なにそれ……?」

そこには平皿に乗ったクリームのように白く、カステラのように四角い、お菓子のよ  
うな物体があった。見ようによつては焼肉屋で網に使う牛脂のようにも見える。ある  
いはピンク色で口と目のついた小さな焼きイモのような形である。

しかし、元ネタを知っているあなたは、とりあえず味わってみたい衝動に駆られ、口  
に運んだ。

すると食感は両方ともマシユマロのように柔らかで弾力があつたと思えば、ポップ  
コーンのように沈み込んで歯で軽く壊れるような奇妙なもの。わたあめを固めたモノ  
のような食感だとあなたは感じる。更に味は見た目とは裏腹に、ケーキやプリンの風味  
や無果汁のバナナやメロンといった人工甘味料のフレーバーに似た香りが広がり、ラム  
ネのように旨過ぎずに何となく口に運べるような仕上がりになっていた。

「ひみつきちで作りました」

凄まじい完成度だと関心はしたあなたではあつたが、余りにもネタの鮮度がないとあ  
なたは純粹に思う。あなたの世代でもギリギリ一部の人間なら伝わる程度であろう。

あなたにそう言われたメンゲレは、クローシユで覆われたまた別の皿を出し、再び蓋  
を開ける。

「なら今風に——ベヌジットスポポ焼きです」

「こ、これが……あのベヌジツトスポボ焼き……!?!」

「なにそれ……?」

更に出された平皿には、色黒のツマグロヒョウモンか、出来損ないのオニイソメを黒焼きにしたような何とも形容しがたく、食べ物には見えない外見の何かがあった。

何故か、今川焼きや鯛焼きを包むような包装が個々にされており、片手で食べれるお手頃フード感が出ているが、伝線して絡まった鳥避けか、スパイクストリップのような見た目のソレからは一切、食べ物という認識は伝わってこない。

なぜこんな一部の者にしか伝わらないモノを作ってきたのかと考えたが、とりあえずメンゲレだからであなは落ち着いた。そちらの方がカロリーも糖も消費しないので頭に優しいだろう。

「(きゅぬ) ……うん……思ったよりは(もぐ…もぐ…)」

「(じゅみ) なに……この……なに? (もぐ…もぐ…)」

あなたも渡されたため、とりあえず食べると歯を立てた時の”ばによ”という独特な音が気になる。更にサクサクとした食感とベタベタした食感が同時に襲い掛かり、少し美味しい土のような奇つ怪な味が口いっぱいに広がった。

あまりに小癩な再現にあなは妙なものを食わせられた怒りを乗り越してメンゲレに関心を覚える。

存在しない食べ物モドキな物体を完全再現して見せるメンゲレの手腕は異次元と言う他ない。まあ、その方向性が全力で明後日の方向を向いているのが、彼女らしいのであろう。

そして、慣れた手付きでテキパキと肉などを焼き、網の横で平行して別の食べ物を作ることもしているメンゲレに思うところがあつた。

ひよつとして彼女、”料理上手なのではないか?”と――。

「もちろん、そうですよっ！ 何せ料理は化学ですからね！ 適切なものを適切なタイミングで適切なだけで投入し、焼き加減を明確にしつつ、各種人工調味料や添加物で――」

「えっ………?」

「うそ………?」

「ちよつとアナタたち百何十年と、何十年の付き合いなんだオラア!」

メンゲレをそんなことあるわけはないと言わんばかりに、あり得ない表情で見るヴィルヘルミナとパパゲーノ。

そんな彼女らを横目に見つつ、立体映像に目を向けると既に決着がつき掛けているようにあなたにも見えた。

「面白くないな……」



するといつの間にかヴェイルヘルミナも食事の手を止めてそれを眺めており、そんな言葉ポツリと呟く。

その発言であなたはそれとなく彼女が言わんとしている事を理解する。基本的に彼女は、組織の神に等しい存在にも関わらず、興味を持った強者がいれば着の身着のまま殴り込みに行く程度には非常識な存在なのだ。

それには確かに生死は問わずとも戦う相手への敬意があるとあなたは感じていたのだが、まあそれは理由のひとつではあると考える。

「あそこはフィッシュ……いや、”グレゴール”の廃棄区画なんだな？」  
「え？　そうですけれど……」

「ならば都合だ。グレゴールの収容房と拘束機構を解放しろ」

それを言われたメンゲレは、言われるであろう事の予想は大方ついていたのか苦笑いを浮かべつつ、顔を引きつらせていた。

その表情から余ほどにフィッシュやグレゴールと呼ばれている存在を、メンゲレが出したくないと感じていることはあなたでもわかる。

「いや、有馬貴将はVの虎の子ですよ？　こんなところで適当にくたばるならそれに越したことはありませんし、大隊長のお眼鏡に叶わなかった程度の捜査官だったということです。このままにしておけばジャックちゃんが殺しますし、それ以前にもよつ

てグレゴールは大隊長の——」

「二度は言わなくて、メンゲレ」少佐？」

「——え、ここで上官命令……？ アレを飼育するのにわざわざ区画をひとつ丸々破棄してまで封じ込めたんですけど……どれだけ苦労して——あー、わかりましたわかりました。出せばいいんでしょ出せば。もー……コレじゃ大隊長行かせても大差無かったんじゃない……」

「それでいい、それがいい」

メンゲレが深い溜め息を吐いて携帯端末を操作する中、ヴィルヘルミナは満足したのか、組立式椅子に座ると、再び焼き肉に箸を付けつつ楽し気に表情を綻ばせて立体映像を眺めた。

何よりあなたが知る限り、ヴィルヘルミナという喰種の根幹は享楽主義者にして”ピエロ”なのだ。



十数分後、そこにはあらゆる箇所が斬撃により斬り落とされ、瓦礫と巨大な切れ込みが大量に刻まれた床や壁があるばかりの空間と化していた。

そんな中、ふたつの影が幾度となくぶつかる。

片方は白でもう片方は黒。白が踏み込めば黒は地を踏み締め、黒が突撃すれば白は避ける。白が斬り払えば黒は受け止め、黒が空を薙げば白は受け流す。そうして、幾度となく繰り返され、交わされる剣戟は微かな火花を生む。

それらは喰種捜査官のコートの白と、ナチス親衛隊の軍服の黒であり——有馬とジャックがそう長くはない間にどれだけの剣を交えたのかは、床中に散らばる幾重にも切り裂かれたクインケの破片と、既に刃に輝が走る最後のユキムラ 1／3を彼が手に

している姿が全てを物語っているだろう。

「う、ふ、ふ——！」

有馬がジャックの背後に回り込み、刀を振るうが、それを彼女は背面に剣を回すことで防ぎ、代わりに彼女は後ろ蹴りを放つ。だが、それを彼は刀を盾にしてその衝撃を利用することでより遠くに退く。

それと引き換えにSSSレート相当の半喰種の脚力に当てられ、悲鳴を上げた刀には新たな輝が刻まれる。

「ああ……！」

有馬を追って突撃したジャックは、床目掛けて剣を振り下ろすが、彼は迫る剣身から柄に向かって刀を這わせるように受け流しつつ彼女の手首を斬り裂こうと振るう。しかし、彼女は迫る刀を眺め、剣を一瞬離すと共に柄を激しく弾き、剣を宙で360°回転させて彼の刀を逆に手元から弾き飛ばす。

剣を受け流すと共に、異様な力で弾かれた事で刀は更に新しい輝が刻まれる。

「楽しい……ッ！」

「——！」

そして、宙を舞った刀と、回転した剣を互いが再び手元に手繰り寄せ、互いに互いを一閃するのはほぼ同時だったが、刀の方が僅かに速い。

そして、同時に輝だらけの刀は遂に砕け散り、そこから飛び出した切っ先がジャックの肩に突き刺さり、手元が狂ったと共に切っ先を僅かに避けていた体勢で振るわれた彼女の剣は有馬の頬を僅かになぞった。

互いに振り抜いたまま、永遠のような刹那を静止した時間が過ぎ、それは有馬の頬から流れた僅かな血が再び時を動かす。

「……………これが試合なら私の負けですわね」

ポツリとジャックはそう呟き、肩に刺さった切っ先を素手で引き抜くと、それを有馬の目の前に投げ、冷たく硬い床を金属が跳ねる音が響き渡った。

有馬の手元に最早クインケはなく、常人では視認することさえ出来ない世界を渡り合った彼は肩で息をしており、既に限界であったのだろう。

半人間と半喰種ではここからの逆転は最早まずない。ユキムラ 1/3の破壊に合わせ、その破片をジャックの首に飛ばし、喉を突き刺す事が唯一の勝ち筋であったが、それも最早潰えた。

「神々から造られた我々相手に、半人間の身でよくここまで耐えました。あなたは紛れもなく、素晴らしい捜査官でしょう」

ジャックは少しだけ有馬から離れ、そのような賛辞を口にす。その瞳は真つ直ぐ彼を捉え、その淡い色に一切の曇りはない。

技量、判断力、速度に関しては、有馬とジャックはほぼ同等。あるいは有馬の方が若干上だった。しかし、彼女は神々の娘を自称するだけの事はあり、その瞬発力、動体視力、数秒先の未来を見ているかのような知覚、喰種の肉体を駆使した戦闘行動、彼以上の体格、圧倒的な筋力に加え、保有するクインケに至るまでその他でジャックの方が強みを持ち、身体能力に至っては全てで上回っていたのだ。

特等捜査官の土俵でそれ超えた怪物、SSSレートでは評価の足りない喰種、” 隻眼の王”。有馬の中でそんなことが思い浮かぶ。

だが、ジャックという半喰種もまた、最後の大隊ラストバタリオンに属するヴェーヌスベルクという怪物の駒でしかない。

Vヴィーそのものが、元世界最悪の軍勢の残党でしかない筈の最後の大隊ラストバタリオンを恐れていることを、構成員の一人ではない有馬は知識としてしか知らなかったが、これはVの保有する喰種や捜査官が幾ら居ようとも全く意味がない事を思い知る。

仮に最後の大隊ラストバタリオンのN.O. 3であるヴェーヌスベルクひとりだけ相手にしたとしても、それだけでVヴィーが総力戦を仕掛ける必要がある上、それでも倒し切れるのか怪しい。その上、少なくとも明確にそれ以上の存在が後2体いるのだ。

「そうですね……冥土の土産に教えてさしあげましょう」

ジャックは自ら有馬に語り始める。それはその通りの意味か、はたまた最低限の矜持か、彼女が彼との別れを惜しんだのかはわからない。

とは言え、彼女が彼を殺すことに揺るぎはなく、善悪は違えどその芯の通った意思と、律儀さだけは確かなものに思えた。

「神々の娘とは、神のごとき力を持つSSSレート喰種の遺伝子及び赫包と、神が悪戯で造ったような人間の遺伝子を掛け合わせて生み出された人造の天然半喰種です」

「――！」

それは生まれてから和宗家あるいはVという組織に属する有馬からすれば、実現しようもない絵空事であった。

しかし、明らかにこちらよりも遙か先の喰種技術を持つヴェーヌスベルクならば、造れてしまうだろうと自然と納得出来てしまい、実際にジャックという存在と対峙した事もそれに拍車を掛けたであろう。

そして、ジャックはそれ以上の事を口に出した。

「私に使われたSSSレート喰種は最後の大隊N O. 2”ドン・ジョヴァンニ”。そして、人間側の遺伝子はイギリスの陸軍軍人ジョン・マルコム・ソープ・フレミング・チャー

チル、”ジャック・チャーチル”ですわ」

有馬は凄まじいビックネームが出て来たことに驚く。

ジャック・チャーチルについては、前時代の武器を使用していた軍人程度の認識で、そこまで深くは知らない彼だったが、喰種捜査官としてもう片方のSSSレート喰種の名だけはよく知っている。

ドン・ジヨヴァンニ——。

ラストバタリオン

ローター・ネーベル

最後の大隊の前身のテロ組織、赤い霧時代から確認されているヴェーヌスベルクと並んで最古参のスペイン系SSSレート喰種だ。”伊達男”、”厄災”、”最悪の喰種”等と呼ばれ、悪逆無道の限りを尽くしたと言われており、CCGと喰種の歴史を学べば一二を争うほど著名な喰種と言える。無論、世界大戦を生き残り、現在は行方不明の残党の一体だ。

その娘であり、半喰種のジャックがこれだけ異様な実力を持つ事に最早疑いはないであろう。

「要するに最強の喰種と最強の人間を掛け合わせたら、最強の半喰種が出来るという幼稚染みて馬鹿げた発想で極まるところまで行ってしまった存在が、レギンレイヴですわ」



つまりはいつものヴェーヌスベルクだったということだ。あるいは彼女にとって研究とは、その程度の在り来たりな命題を途方もない時間を労して実現しようとする事なのかもしれない。

「ではそろそろ終わりに——」

ジャックがそう口を開いた直後、一発の轟音が響く。

音の方向に彼女と有馬が目を向けると、そこには広大で先の見えない闇が続くばかりの研究所の内部へと何故か対戦車ライフルを向け、その銃口から細い白煙が立ち上る様があった。

「グレゴール……何故出ている……？」

そして、ポツリとシムナが訝しげにそう言い放つ。

するとそれに呼応するように人影が闇の中から微かに現れ、それが余りにも親しい存在に似ていた事で、有馬は思わずそう呟いた。

「……………」 エト? 」

それは有馬が見知った通りの顔で幼げな顔立ちをし、淡い緑の髪をしていた。更に左の目が赫眼のままになっており、ぼんやりとこちらを見つめている。

暗闇に一糸纏わぬ姿の上半身だけが浮かぶ彼女は、こちらと視線を交えるにつこりと微笑み徐々に近づいていた。

(なぜアイツがここに……？ 捕まったのか……？ いや、そんなことは……待て——)

そして、有馬は目先にいる彼女の違和感に気付くと共に、依然としてシムナは彼女へ銃口を向け、ジャックも剣を持つ手に力が籠っている事に気付く。

(アイツの赫眼は“右目”だ……それに若い?)

その直後、彼女が暗い研究所内から人工の光の当たる有馬達のいる場所に姿を表したそれは——。

『あはは——あはアねえさんすききれいすきいい美味しいねえさん……きれいすきウフフうふうフフフフフフ……ああねえさんたち美味しい……ははははハハははははハハ！ははああああはあなたはあアハ!!あひいはねえさんねえさんねえさん美味しあははあへアははあはあ!!ひい……わたしこわいよだれしんでたすけてころしてワタシいたいだれあははははははははははあははは!!』

巨大な毛虫のような肉塊から頭部の代わりに少女が生えた怪物だった。

## シムナ

『えへ、えへえへえへえへえへひとつ……ふたつ……みつっ』

毛虫のような下半身に、有馬が知るエトという女に似た上半身が生えたという表現は的を得ているが、そのおぞましさを知るには正確ではない。

まず、それはさながら抉り出され、剥き出しになった筋肉のように肉々しく湿っぽい赤みを帯びている。そして、毛虫ならばトゲの部分は、その全身の肉を突き破るように生えた黒っぽい骨のような質感で出来た巨大な馬上槍ランスのようなモノが等間隔に並んで生えており、毛虫の中ではツマグロヒョウモンに似ているだろう。

そして、それは祀られる巨木のように太い上に、30 m以上の全長を持つ巨体であるため、明らかに重鈍な見た目にも関わらず、驚くほど速く動く。また、幼虫特有の動きからかなり強靱な腹足が大量についている事もわかる。

明らかに赫者であり、そのような姿の半喰種の少女——グレゴールは花が咲くような無垢な笑みを浮かべながら有馬と、2体の半喰種に迫って来た。距離はまだ40〜50

mほどだろう。

『いちそう、いつぱい！』

そう言つてパチンと手を鳴らした——刹那、グレゴールの眉間にシムナの対戦車ライフルが射ち込まれ、踏み潰したトマトのように彼女の巨体に比べれば余りにも小さく可愛らしい頭部は血と脳漿を撒き散らす。

(迷いがいな)

明らかに狂つていようとも、恐らくは身内であつたであろうグレゴールを、一切感情を起伏なく一撃で潰して見せたシムナは、兵士としては極めて高い完成度なのだろう。

有馬としては、頭部が完全に欠損して無事な喰種は見たことがなかつたため、無意識に終わったと考えたが、頭部を喪つて尚、こちらに迫る速度が一切緩まない様から死んではないのだと理解する。

「——ッ！」

シムナはよく見れば軍服に付いている赫子用の袖から赫子を覗かせる。それは発生位置から尾赫だと思われ、その尾赫が対戦車ライフルを呑み込むように覆うと、構えから即座に次弾が放たれ、グレゴールの胸に大穴が空き、長針は後方の毛虫の胴体に沈む

ように深く突き刺さる。

それに加えて腰に下げていた短機関銃型のクインケを手で構え、嵐のように放たれたそれはグレゴールの少女の両腕を容易く千切り飛ばし、最早少女であったという名残しかないクズ肉に変えた。

最初の発砲からその間、僅か1〜2秒の出来事であり、クインケの性能もあろうが、それを差し引いても異常なほど射撃センスにも優れているだろう。しかし、それは捜査官や狙撃主としてであり、怪物相手ではまた別の問題とも言える。

何せ、小さな上半身を喪って尚もグレゴールの体軀は決して止まらない。そして、次の瞬間、グレゴールの損傷を受けた部分の身体が火をかけられたかのように一斉に燃え盛った。

『いたいいたいあついおいしそうふううねえさんあついよああ!!』

そして、燃え盛りながら少女の胴体、腕、頭が急速に生え直し、幾らか当たった下半身の銃創すらまるで無かったかのように再生する。そのため、こちらまで20mという地点で既にシムナの攻撃はまるで無かったことになっている。

半喰種などの実戦経験を積む程に戦闘能力を向上させられる発展性を秘めた筋肉の

超回復の性質を持つRc細胞管の発達促進能力。それに明らかにそれとは異なる何かしら由来の”炎”が加わった事で肉体の超速再生を可能としているのだろう。

それだけでも喰種として余りにも異常な光景だが、更に下半身から無数に生えた巨大なトゲの先に淡く赤い羽のような光が灯り——それらが数多の”羽赫の赫子”だと気付いた時には、既に有馬と2名の喰種は全力で回避行動を取っていた。

『ねえさんねえさんねえさんねえさああんこんばんわわわああおいしそおおう!!!』

刹那、赤が全てに降り注ぐ。

何かが爆発したとしか思えない勢いで放たれたそれらは、無差別にグレゴールの360°。全てに飛散し、あらゆる空間そのものに降り注いだ飛沫のような横殴りの赤い嵐が何もかもを抉り穿ち、破壊し、四散させる。

それは羽赫を持つ喰種ならば誰でも出来る基本的な遠距離攻撃でしかないが、単純に発生源の数と同時発射数が狂っており、無限のように錯覚するほど底無しのRc細胞から来る連射によって、広域殲滅と言ってしまう程の攻撃を可能としていた。

グレゴールによる戦艦の対空放火にすら等しい羽赫の乱射によって、まず研究所内が何一つ原型を留めたモノが残らないほど粉々に粉碎され、壁面さえも元の状態が推し量

れない有り様となる。

『あはははははははっ——きれーいっ!』

更にグレゴールの上半身の背から痩せこけた白樺の樹のような赫子が幾つも生え、それが指で輪を作るように纏まると、その中央に赤黒い閃光が迸り——光線のような極太の羽赫が放たれた。

3名は直感的に大きく回避行動を取ったが、その威力は凄まじく直線上にあったあらゆるモノを蒸発させ、突き当たりのRc細胞壁に先が見えない程の穴を抉るまでに至る。

その回避行動により、研究所に隣接する24区の地下通路へと飛び出すと共に3名はそのまま駆け出した。流石の彼らと言えども殲滅兵器のような異常な火力を持つグレゴールに勝算も無しに挑む自殺行為はせずに逃走したのだ。

しかし、地下通路は左右の二方向へ伸びており、それぞれが近い方向に避けていたため、片方は有馬とシムナ、もう片方はジャックの2名と1名で別れる。

地下通路に這い出たグレゴールは一度それぞれが走り去った方向に首を向け、嬉しげに嗅いで鼻を鳴らす。



『まっつてよおおおいてかないでエ!!くらいいたいさみし……ウフふふうふうフフフフフフ……私の……あれ?……わたしわたたあははははははははははははあはは!!——待つて……今いくわ……』

そして、彼女は“有馬とシムナが逃げた方向”を向くと、そのまま何対もある複足を進めた。



「どーもどーも！ お疲れ様ですジャックちゃん！ あなた方の奮闘で良いデータが取れましたよ！ ありがとうございましたっ！」

ジャックが撤退した先の区画にて、待ち構えていたと言わんばかりのタイミン  
グで白衣姿のヴェーヌスベルクがひよっこりと現れ、彼女に労いの言葉を掛けて来た。

「いやー！ なんだかんだあなた方<sup>レギンレイヴ</sup>に掛けた時間的なコストが重かったんで、これまでやっても精々準特捜査官未満にしか投入していなかったのですが、今回でそれも杞憂だったという事がわかっただけでも大収穫ですよ！」

相変わらず、調子外れにまで高いテンションでジャックに語り掛けてくる。彼女の反応や態度などまるでお構い無しなそれはマトモな常識や感性を持つ者ほど目障りで耳障りに思えるだろう。

「今後はもつと地上での実地活動を視野に入れて——おや？」

そんなヴェーヌスベルクの首筋に向け、ジャックが己のクインケである長剣のレポレット口を突き付けたことで、ヴェーヌスベルクのお喋りが止まった。

ジャックは薄目を開けて笑みを浮かべているが、僅かに開かれた瞼の奥にある瞳はま

るで笑ってはいない事は明白だろう。

しかし、ヴェーヌスベルクの態度は特に変わらず、ニコニコと満面の笑みを浮かべるばかりだ。

「グレゴールの収容房を開けた上で、拘束機構を全て解除出来る者はメンゲレ様を置いて他にいませんね？ それも我々の戦闘中にです」

「……………？ そうですね……それが何か問題ですか？」

余りにも当然のようなに吐き出されたその言葉にジャックは閉口する。むしろ、ヴェーヌスベルクはジャックの方が何を言っているのか理解できないと言わんばかりの様子だった。

「ねえ……ジャックさん——？」

その瞬間、ジャックの視界にほんの僅かなノイズが走り、ヴェーヌスベルクの姿が消える。まるで最初からそこには何も居なかったかのように痕跡ごと消えている。

「——あなたは少々、殺す対象に深入りし過ぎですね。そもそも早く彼を殺していればこんなことにはならなかったのです」

そして、気付けばジャックの手に長剣はなく、いつの間にか背後で長剣を手に遊ばせているヴェーヌスベルクの姿があった。

ヴェーヌスベルクが瞬間的に動いたとすれば、生物として極まった動体視力を持つ

ジャックですら視認できない速度で動いた事になる。尤も、それは音速を遥かに置き去りするほどであり、不可能と言いい切れてしまえる。

「そういう意味では、誰かさんに似て情が深いから殺す相手と関係を持つとうとしないシムナさんの方が遥かに利口ですよ？ 殺す相手に敬意を払うのは最後の大隊からすれば悪い癖です」

「……………」

そう言ったヴェーヌスベルクが眺めたジャックは、表情こそまだ取り繕ってはいたが、剥き出しの殺意を隠そうともしていなかった。

しかし、それさえもまるで意に介していない様子でヴェーヌスベルクは相変わらず調子外れに笑う。

「尤も……かくいう私も半世紀で随分甘くなりました。殺れと言った相手をタイミングはあつたのに殺れなかった兵士など、本来ならば即座に銃殺していますもの……ね？」

ヴェーヌスベルクはジャックに長剣を返し、彼女はそれを無言で受け取った。たったそれだけのやり取りだが、そこには実力だけでは埋まらない明確な差があるだろう。また、それは培われた狂気とも言えるかも知れない。

「まあまあ、シムナちゃんには援軍を送っておいたので安心してください！ もう解決したようなものですよ！ あー……でもグレゴールちゃんはもう少し狂ったままのサ

ンプルで居て欲しかったのになあ……」

そんな事をまたいつもの調子で声を張り上げて話したヴェーヌスベルクは、肩を竦めて溜め息を吐いて見せる。これほどまでに他者に理解されない胡散臭さと気色の悪さ備えた喰種はそうは居ないだろう。

「ああ、これだけは言っておきますね？ いいですか？ 私の不利益や無駄になることは別に構いません。私に如何なる感情を持つとうと、嫌悪や殺意を向けようと、何をしても構わないですし、そんな下らない事に興味もありません——ですが、大隊長のお目汚しだけは絶対にしないでください」

また、ジャックの視界にノイズが走ると、その場からヴェーヌスベルクが跡形もなく消え去る。

『……………私の最愛の方を失望させたら——死ぬる身体でいられるとは思わないことね？』

そして、最後の言葉は近くの天井に取り付けられたスピーカー越しに聞こえ、周囲を見渡しても自身以外の喰種が居た残り香すらジャックは感じ取ることが出来なかった。



「無理」

有馬と共にグレゴールに追われているシムナはポツリとそんな言葉を呟く。

彼女は後方から延々と放たれる羽赫の嵐を掻い潜り、赫子の対戦車ライフルと短機関銃で応戦し、グレゴールの急所や砲台のような羽赫への的確な射撃を繰り返している。しかし、何処を欠損しようとも即座に損傷部が燃えて再生するため、まるで意味を成し

ているように思えないので、彼女も遂に匙を投げたらしい。

Rc細胞が尽きれば普通なら赫者形態の維持は出来なくなるので、背後から時折飛んで来る羽赫の量を考えれば、普通の喰種ならばそう長くは持たない筈だが、グレゴールもまた神々の娘の1体らしいため、基本性能も怪物クラスなのだろうと有馬は考えていた。

『ごちそう、にげないでえ！』

その上、グレゴールの下半身に生える数多のトゲから飛来する羽赫以外に、グレゴールと通路の上下左右にある隙間を埋めるようにガス状の羽赫も発生しているのだが、それは外気に触れた直後に発火して広範囲を燃焼させているため、グレゴールの側を通り抜ける事さえ出来ない。

更に有馬とシムナが駆けている地下通路は分岐路のない一本道。こちらの方が移動速度は上のため、追い付かれる事はないが、暫く走り続けていても分岐路や出口がある様子もないので、このまま続けてどうなるのかは有馬も予想がつかなかった。

「……………」

シムナは少し考え込むような様子で近い位置を走る有馬を見つめる。

シムナの攻撃が止まった事で、背後のグレゴールの羽赫の弾幕が厚くなり、シムナが発生前に潰していた光線状の羽赫が再生し、有馬目掛けて放たれたため、彼は大きく回避をした。

「——！」

それに有馬がどうしたのかと考えつつ、再びシムナの方に意識を向けると、彼女から放物線を描いてソレらが軽く投げ付けられ、驚きつつも彼は受け取る。

それはベルグマン MP18と呼ばれる短機関銃に似たクインケと、ナチスの鷲の紋章が柄に刻まれた親衛隊勤務短剣であった。

「羽赫のベルグマンは……見た目のまま使え……。SS短剣は……伸びる……」

更にシムナは渡したふたつのクインケを説明した。どうやら有馬も戦えという事らしい。彼がこの場でシムナを駆逐しに掛かるリスクがゼロではなかった筈だが、それとリスクと思わないほど自身に自信があるのか、その真意は彼女のみが知るだろう。

有馬は黒い配色とチェーンが付いた鞘が印象的な親衛隊勤務短剣の鞘を取る。そこにはMeine Ehre heißt Treueと文字が刻まれたやや鈍い色味をした白銀の剣身があり、有馬は柄にあるギミックを押し込んで作動させた。

（これは——いいな……）

すると親衛隊勤務短剣の剣身から伸びるように黒い刃が瞬時に形成され、全長100



c mほどの長剣になる。

重量自体は短剣の形態より多少重くなつたが、それでも彼の感覚で4000〜5000g程に感じ、彼が知る同型のクインケと比べれば異様なほど軽い。軽さは元々高速戦闘を得意する有馬にとつて非常に有用であり、とても彼の手に馴染む。

標準装備であろう装飾品に近い近接武器ですらこれだけの性能を持たせる事に、ヴェーヌスベルクの余りに高過ぎる技術力と、不可解なまでの拘りを感じると共に、有馬はどうにかして持つて帰れないかと考えていた。

「……………この先行き止まり……………約1100m」  
「……………なるほど」

そう言つてシムナが指差した直後、前方の遙か先にR c細胞壁の赤々とした壁が見えた。更にそれまでの呆れるほど整つた直線には全く分岐路や脇道が見当たらないことも見て取れる。

クインケを渡した理由はそう言うことらしい。このまま追われ続けて共倒れするよりは二人掛かりで挑むべきだと思つたのだろう。

仮にこの場で有馬がシムナを駆逐しに掛かり、殺せたとしてもその後待つてゐるのは、背後のグレゴールとの避けられぬ戦闘だ。はつきり言つて、現状でグレゴールを止めることは明らかに不可能。ならば僅かでも可能性を広げるのは自然な事だ。

『足止め——しろ』

その直後、シムナの全身が対戦車ライフルごと尾赫に覆われ、即座に新雪のように白い毛で覆われた4mを超える程の巨大な狼のような赫者の姿へと変わる。

僅かに開かれた狼の口からは対戦車ライフルの銃口が舌のように顔を覗かせており、狼の片眼だけが赤々と鈍く輝いていた。

そのまま、シムナは力強い四足で地を蹴り、人間や喰種を遥かに超えた速度で直進し、有馬とグレゴールを置き去りにして地下通路の行き止まりへと駆けて行く。

(……………大変な事になってしまったな)

定期的に行っているもぐら叩きに参加したばかりに大変な事になってしまったと、有馬は内心で溜め息を吐く。

とは言え、これまで有馬は何度かもぐら叩きで、SSレート級のヴェーヌスベルクの失敗作に出会うとそれを駆逐し、その度に拡張器越しに口汚く罵られて来たため、完全に逆恨みとは言え、彼女が本気で殺しに来るのは時間の問題であった。

それを考えるならば、少なくとも純粋な最後の大隊の残党足るヴェーヌスベルクは兎も角、それが造り出した半喰種たちは、まだ風情を持っていたり、打算的な考えで信念を曲げるなど会話の余地がある事を知れただけでも収穫であろう。

有馬は駆ける速度を緩め、完全にその場で止まると、まだ幾らか後方にいるグレゴー

ルに立ち塞がるように向き合った。

『……………？ ……？ ねえさん……………？ ねえさん……………えへいおい……………たべていいいたべたべたべたひいよおお』

口の端から涎を滴ながら蕩けた表情で有馬を見下ろすグレゴールは、彼に対してそんな言葉を言い放つ。最早、彼女には有馬ですら姉と言う存在に見えているらしい。

どちらにせよこのままグレゴールを放置し、これが地上に這い出て来るようなことがあれば、東京が大惨事になり兼ねないため、捜査官の責務としても野放しにするわけには行かないだろう。

「……………やるか」

誰に言うわけでもなく小さく呟き、意思を固めた有馬は、ベルグマンと長剣をそれぞれ手にグレゴールの間合いへと飛び込んだ。

【助けて】SSSレート喰種だけど質問ある？【娘に殺される】

「終わった……」

有馬の前方に気だるげな表情で佇む黒髪の喰種はそうポツリと呟く。

そして、足元に転がり昏倒している少女——グレゴールを見つめつつ小さく溜め息を吐いた。

「雑ね……」

彼女——ラストバタリオン最後の大隊SSS喰種“鳥刺しパパゲーノ”は更にそう言う下半身も年相応に戻っているグレゴールを肩に担ぐ。

鳥刺しパパゲーノ——。

ローターネーブル

赤い霧時代からレッド・プールに付き従っていた古参の喰種であり、数少ない”

ラストバタリオン

最後の大隊内でSSSレートに指定された喰種”だが、記録上では死亡扱いだった筈の

存在である。

しかし、それがグレゴールと戦闘していた有馬とシムナの前に赫者形態で現れ、横腹に喰らい付いてそのまま倒し切ってしまった。

それによりふたりを中心としたその一帯は、グレゴールが引き起こした焦土と、更にそれ以上の広範囲の上下左右のあらゆる場所が穴だらけになっており、グレゴールの赫者の時の肉片や血液が辺り一面に飛び散っている。

それらの肉片の断面は円形の鋭利な物体で幾重にも削り取られたようになっており、ここで起こった戦闘が凄惨だった事を物語るだろう。

「そっ……」

そして、パパゲーノは自身が通って来た横穴を指差し、有馬の方へ視線を向けた。

「地上まで繋がってる穴を掘っておいたから……帰りたいければ勝手にして……」

その言葉に有馬は目を見開く。

明らかに有馬を目の敵にしており、彼が言葉を返す程度には音声越しに何度も対峙したヴェーヌスベルクと同じ所属にも関わらず、どうやらパパゲーノは有馬を殺す気はないらしい。

「私の役目はコレを止めて回収すること……アンタを殺せとまでは言われてないわ……。ヴェーヌスベルクへの日頃の意趣返しよ……。私の気が変わらないうちに疾く

去ね……人間」

「……………」

その言葉を聞いた有馬は少し考えた後、直ぐにその場から移動してパパゲーノが空けた穴へと向かう。

そして、そのまま彼は振り返る事なく地上を指し、その場には食い入るようにパパゲーノと彼女を見つめるシムナだけが残される。

尚、有馬は去っていく際にシムナから渡された2つのSSレートクインケを所持しており、そのまま持つて行ってしまったが、その事を言及するものはこの場には居なかった。

「……戻るわよ。後で何かあったなら責任は全部私に押し付けなさい……」

シムナに顔を向けてそれだけ言うとパパゲーノは歩き出す。

そして、数m進んだところでシムナが小走りで自身に迫って来る事を音と僅かな震動で感じ、何かされないとも限らないため、パパゲーノは密かに尾赫を発射する体勢を整えておく。

「……………」

しかし、自身の背後でシムナが止まり、服の袖を引っ張られた感触を覚えた事でパパゲーノは首を傾げながら歩みを止める。

そして、シムナの方を見ると瞳の端に細く涙を浮かべており、高揚しているらしく顔を赤く染めていた。

「あの……その……」

そのまま、言葉を何度も躊躇う素振りを見せた後、意を決したように口を結んだシムナは、パパゲーノをしっかりと見つめつつ口を開いた――。

「お、おっ……お母さん……」

「……………」

その言葉で全てを理解したパパゲーノはわなわなと震えて静かに激怒する。そんな様子にシムナは恐怖したのか目を泳がせ、不安げに震えるばかりだ。

「えっと……私は……あなたから……その……」

「……………ええ……何も言わないでいいわ。あなたはきつと悪くないもの」

「あつ――」

そして、ひとまずは目の前のシムナをそつと抱き締めるのであった。

ちなみにシムナは鳥刺しパパゲーノと、白い死神と呼ばれたフィンランドの軍人との

遺伝子から造られた神々<sup>レギンレイヴ</sup>の娘である。



【助けて】SSSレート喰種だけど質問ある？  
【娘に殺される】



1：東京喰種

ぴえん

2：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ええ……（困惑）

3：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

また、パツキン巨乳喰種姉貴かあ……壊れるなあ……

4：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

特に何も事情は知らないが、スレを追っていると自然に原因の9割はパツキン巨乳喰種姉貴なんだろうなという確信がある

5：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

チビちゃん荒ぶってるのか

6：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

これは反抗期

7：↑死の天使↑

逃れられぬカルマ

8：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

喰種的には普通なのかも知れない

9：東京喰種

あつ、そうだ。ところでお前ら。最近、人間の食事に広く関心を持つて思ったのだが、なぜチヨコミントアイスは鬼滅カラーなんだ？

10：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

逆だ逆

11：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

コイツ結構余裕あるな

12 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

いきなり本題を道端に投げ捨てるんじゃない

13 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

黒と緑の市松模様を全て炭治郎カラーに見えるようにした鬼滅を許すな

14 : †死の天使†

キツメノオコメ

15 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ところでって言えば何でも話題切り替えられると思うなよ?

16 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

バトル漫画読むって前に言ってたもんな……

17 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

マジかよやっぱりチョココミン党最低だな

18：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんでアイツら歯磨き粉食ってんの？（開戦宣言）

19：†死の天使†

出た！馬鹿！

チョコミントを食べない連中が、チョコミント馬鹿にする時絶対言うやつ出た！

馬鹿にしとんつすよ！歯磨き粉と比較している時点で既に

チョコミント食べないのは自分の雑魚味覚のせいなのにミントに責任をなすりつける卑怯もんたちの常套句

『ハミガキ粉じゃん』

それで、そんな奴らが決まって言うのは

『美味しいわけ無いだろ、あんなもん。じゃあ、ハミガキ粉食ってろよ』

馬鹿か！ハミガキ粉は食いもんじゃね!!!

20：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

これはチョコミン党

21:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

マジかよ宇崎ちゃんナチ残党かよ

22:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

コバちゃんチョコミント好きなのか

23:東京喰種

お前の好きなアイスを言ってみろ

24:†死の天使†

しろくま

25:人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

台無しじゃねーか

26：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ミントどこ……？　ここ……？

27：†死の天使†

しろくまさんには嘘吐けません。チョコミントなんて歯磨き粉でいいです。黒いの混じった雑草アイスごときがしろくまに勝てるわけ無いじゃないですか

28：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

宇崎ちゃん大激怒不可避

29：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前が喧嘩を売るのは……（困惑）

30：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

突然、アンチチョコミントに豹変するな

31：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

……すぞ……すぞ

32 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

とかかなんでこいつ最近スレに在中してんだよ?

33 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ゲストだったような……

34 : †死の天使†

酷い……私が女性だからそんな事を言うのですね……?

女性にはスレにいる権利

はないと?

35 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

言つてない

36 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんだコイツ(語録無視)

37：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
性別云々の話にすり替えようとするんじゃない

38：†死の天使†

戦災孤児で物心ついた頃から既に属してたテロリスト相手に身体売って暮らし、ナチスに仕込まれた技術で暮らしてきた私が汚れているからですね……

39：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

汚れてるところか、汚物そのものだろうコイツ

40：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

身体を売る（食用）

41：東京喰種

実際、美味い



42 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

消費者の声は草

43 : †死の天使†

私の手は血で汚れていると言うわけですか……泣きました。私は日本で迫害された外国人で半喰種でヨーロッパの敗残兵でバイセクシャルの女です

44 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

主語をデカくするな

45 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

センチティブ喰種

46 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なんだコイツちよつと強過ぎる……

47 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

なるほど、これが過激派人権団体の実態か（白目）

48：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

おい、何とかしろ大隊長

49：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前の隊員だろ、早く何とかしろ

50：東京喰種

左腕

51：†死の天使†

はい、ごめんなさい

52：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

立場弱過ぎて草

53：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
部位要求は怖過ぎる……

54：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
こいつらの関係なんなんだ

55：東京喰種  
さて、スレも暖まってきた事だし、本題に戻るか

56：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
暖めたんだよなあ……（いつもの）

57：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ちよつと今日遅すぎんよ

58：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
スレ民が明らかに訓練されてる……

## 59 : 東京喰種

とりあえず、チビちゃんに殺され掛けてる理由を語るためにメンゲレちゃんの研究所に行つてからの経緯を話すゾ。まず、目的としてはメンゲレちゃんがスレでパツキン巨乳喰種姉貴と2回も書いたので、宣言通り両足を食べに行つた

## 60 : †死の天使†

ジオング不可避

61 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ええ……(困惑)

62 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前、それでいいのか……

63 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

突然、悪の組織の総督に戻るな

64 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

温度差で凍死者でそう

65 : 東京喰種

メンバーは私と伴侶と……そうだな。ラストバッテリーオン最後の大隊のSSSレート喰種のアシラちゃん(仮名)の3人で向かった

66 : †死の天使†

おっそうだな(便乗)

67 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ちよつとCCG、SSSレート喰種増えたんですけどく?

68 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

| 人 人 人 人 人 人 |

∨ 突然の喰種 ∨

? Y ^ Y ^ Y ^ Y ^ Y ^ Y ^ Y ^ ?

69 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
 なんだそのやたら名前可愛いやつ

70 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
 モンハンの青い熊か?

71 : 東京喰種

失礼な。アシラちゃんは最後の大隊SSSレート喰種の中で序列16 / 17位に位置するすごい喰種だゾ

72 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
 ビリ2やん

73 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
 アシラちゃんひつく

74 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

よわそう

75 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ちなみにパツキン巨乳喰種姉貴は1位だろうけどメンゲレちゃんの序列は?

76 : †死の天使†

>>>75

3位

77 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

たっか

78 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ウツソだろお前www

79：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
金魚のフンなコバちゃんがなんでそんな……

80：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
はーん、さてはこれ位置付けは実力基準じゃないな？（凡推理）

81：†死の天使†

村度って言葉お好きでしょう？

82：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

また君（村度）かぁ……壊れるなあ……

83：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
メディアアの犬不可避

84：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
時代的に遙か先取りなんだよなあ……



85：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

どこまで自分の格を下げれば気が済むんだこの半喰種……

86：東京喰種

それで24区にあるメンゲレちゃんのラボに向かって無事に皆でパーベキューをしたんだ

87：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

近所で草

88：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

若干、和気藹々とした感を出すな

89：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

二駅隣なんですが……

90 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
パツキン巨乳喰種姉貴は普通に東京済みだからな……

91 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
バーベキューでメンゲレちゃんの足をジュージューしたのか……ウオエ!

92 : †死の天使†

>>91

失敬な! 味は保証しますよ!?

93 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
違う、そうじゃない

94 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
これが生産者の顔が見えるかあ……

95 : 人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お前、食われたいのか食われたくないのかどっちなんだ

96：東京喰種

すると突然、ラボの一角に日本CCGで3本の指に入るくらい強い捜査官ではないかと個人的に思っている特等捜査官の……ホワイトアーマー（仮名）が現れてな

97：†死の天使†

そうだよ（便乗）。（毎回、もぐら叩きで私の可愛い実験体達をしばき倒していくので頭に来ますよ）。（実験体収容区画に）爆砕掛けますね

98：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

外伝の主人公してそう

99：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

悪い側だけどいい人そう

100：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

アリーマー……もぐら叩き……？ あっ……（察し）

101：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
モザイクを貫通する男

102：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ヴオエ！（嘔吐）

103：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
捜査官喰種兄貴姉貴たちがまた困惑しておられる

104：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
どうやら有名人っぽいな

105：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
いつも思うんだが、このスレ捜査官と喰種居すぎだろ。前者の公務員は仕事しろ

106：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

平和な証しかも知れない

107：東京喰種

とりあえずホワイトアリーマーはクソつよ捜査官つて事だけわかって貰えれば問題ない。そんなホワイトアリーマーを最後の大隊の新人で迎え撃つたり、比較的出来のいい実験体をけしかけたりして遊び、最終的にアシラちゃん（仮名）を送り付けて実験体を戦闘不能にして事態は収集したんだが、その実験体の内容がどういうわけかチビちゃんまで知れてな。それにぶちギレたチビちゃんが私をしばき倒しに来てるところ

108：†死の天使†

ちなみに実験体の内容ですけどー。大隊長本人のとチビちゃん等のSSSレート喰種のDNAに、世界各国のシリアルキラーのDNAを足して造った半喰種ですね。まあ、諸々の経緯を経て食欲旺盛で暴れるばっかりの怪物になっちゃったのですが

109：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

うんうん——やっぱ自業自得じゃねーか！

110：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

終わり!!閉廷!!以上!!皆解散!!

111：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

(キメラなんて作つといてチビちゃんがキレルの)当たり前だよなあ……?

112：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

やつてることB級映画のナチスど真ん中なんだよなあ……

113：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ナチスの風評被害やめろ(本家大元)

114：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

狂いそう……!(静かな怒り)

115：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

総統閣下「ワシをすぐに悪の総統にしたがるお前らなんか大っ嫌いだ！」

116：東京喰種

ころされる

117：†死の天使†

大隊長のおチビさんは悪意ある冗談とか、勝手に貶められるとか大嫌いですからねー

118：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ガクブルで草

119：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

家庭内の位置付けがよくわかりますねえ……

120：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

世界最悪の大隊を率いていた悪魔みたいな奴の癖に娘には勝てないのか（驚愕）

121：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

パツキン巨乳喰種姉貴はなんかこう……なんかポンコツだから……（語彙力低下）

122：東京喰種

おかしい……私はただ……いい歳にもなつて、いつまで経つても彼氏の一人もママに紹介せず、身だしなみもろくに整えないで夜更かしばかりの不健康な生活しているチビちゃんに子供でもこさえてやろうと思っただけなのに……

123：†死の天使†

つくるのたのしかったです

124：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

急にパツキン巨乳喰種姉貴にちよつとだけママみを感じた（目そらし）

125：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

悪意100パーセントで出来た善意止めろ



126：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

お母さんチビちゃんを私にください

127：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

メンゲレちゃんが楽しめてる時点でろくでもないものに決まってるだろいい加減にしろ！

128：東京喰種

なんだとお？ 私の溢れんばかりの善意と母心の証明などは、Vガンダムが子供向けアニメだということぐらい確定的に明らかだろうが

129：†死の天使†

きさまは 電子レンジに いれられた ダイナマイトだ

130：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ガンダム作品でも子供向けじゃない寄りのガンダムなんですすがそれは……

131：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
ボンボン版やめろ

132：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
子供向け……子供向け……？（自問自答）

133：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
やっぱり確信犯じゃねーか

134：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
善意すらなかった件について

135：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
おう、観念してシバかれろ

136：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。  
これほどまでに助ける気すら起きない相談相手もそういない

137：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

ただの加害者定期

138：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

これが被害者ビジネスですか

139：東京喰種

なんだお前ら？ いいのか？ 泣くぞ？ 大の大人喰種が泣くからな？

さつきからチビちゃんが非通知で現在地を知らせてくる電話が立て続きに来て滅茶苦茶怖いんだぞ。しかも徐々に近づいて来ている

140：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

チビちゃんはメリーさんだったのか……

141：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

大人（100歳超え）

142：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

大人喰種（最後の大隊 大隊長 SSSレート喰種）

143：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

都市伝説のママならそりゃつえーわ（適当）

144：人型の名無し@鳥かごの中でお送りします。

MRYさんは喰種だった……？

.....

『あけて』



現在、あなたは自宅の玄関扉に近い側の廊下で佇んでいた。

そして、目の前からはメトロノームのように規則的なノック音と共に、断続的に響くその言葉ばかりが酷く耳に響く。

『あけて』

その言葉は扉越しのためややぐもってはいるが、それでも可愛らしめな女性の声という事はわかり、それが帰って日本の幽霊話のような怖さを引き立てていると言えよう。

また、声の抑揚がまるで変わらず優しげに思えるため、あなたとしてもまるでホラーゲームのクリーチャーを前にしたような恐怖を覚える有り様である。

「娘があけてちゃんと化している件について……とっ」

そして、あなたの隣には、あなたの肩にもたれ掛かりつつぶるぶると震えながらも携帯電話で掲示板に書き込んでいるヴィルヘルミナの姿があった。

この場に置いて、ここまでの悪びれなさと後ろ向きに前向きな精神は評価に値すると思うあなたではあったが、流石にこの扉を開ける根性も義理もない。

ちなみにアシラは、メンゲレのラボから奪い去るように連れて来たシムナと、リビングのビーズクッションと共に直ぐに自室へと引きこもり、我関せずの姿勢を貫いている。

『あけて』

「私はいつたいたい何を育ててしまったんだ……」

『おか?!さん♡』

「ヒエツ……」

聞こえていたのか、外にいるヴィルヘルミナの娘が答えた。その間にも同じ間隔でノックされ続けている様が如何にも怪異のそれである。

「開ける」

するとあなたにヴィルヘルミナがそう言つて来た。

妻からDVを受けていると下らない事を考えつつ、仕方がないのであなたは玄関扉の鍵と扉を少し開け——。

「たわらば」

その隙間から凄まじい勢いで入って来た色とりどりの古枝のような赫子が、ヴィルヘルミナの全身に突き立ち、廊下からリビングまで車両に跳ね飛ばされたかのように吹き飛ぶ。

明らかに刺し貫くように放たれたにも関わらず、身体に受ける直前に赫子の尖端が幾らかへし曲がる様を眺め、当たる瞬間に金属音のような異音を聞いていたあなたは、恐らく幾らかは赫子でガードしていると思ひ、ヴィルヘルミナについては特に問題ないであろうと当たりを付けた。

そして、扉に手を掛けて全て開ける。

「ん？ ああ、あなたが母と結婚した物好きか……」

そこにはあなたが思っていたよりもかなり小柄な女性が立っていた。

既に赫子はしまったようで、両目は灰色の澄んだ瞳をしており、薄緑色に近い髪色が特徴的で、あなたが事前に聞いていた年齢よりも随分若いように見える。

その辺りは、捕食さえ怠っていないければ天然の半喰種は寿命自体が長いのではないかと、これまで仕入れた喰種についての知識から当たりを付けつつとりあえず彼女を招き入れる事にした。

「これは丁寧にどうも。私は、よしむらえと芳村愛支えと。その母に気狂い育てられたドラ娘だよ」

意外にも礼儀正しく挨拶をされたため、あなたは同様に自己紹介をする。

どうやら彼女はヴィルヘルミンを反面教師にして立派に育つたらしいとあなたは考えると共に、そう言えば小型冷蔵庫を買った時に出会った娘が「エトちゃん」と口走っていた事を思い出した。

「……一応、義姉あねになるが、アレと比較されるのは複雑な気分だ」

あなたとしては、名前の無い方の娘は、割りとこちらを気遣ってくれたと思っていた



ため、そこまで心証が悪いとは思わず首を傾げた。

まあ、あちらの方はヴィルヘルミナの悪いところを受け継ぎ、こちらは良いところを受け継いだのではないかとあなたは結論付ける。

「おばあちゃんだいいじよーぶ？」

するとリビングでまだ大の字で伸びているヴィルヘルミナの横にリビングに隣接している部屋にいた少女が寄り、その場にしゃがみ込む。

その手には本が握られており、それはいつかあなたが拾った“拝啓カフカ”というタイトルの文庫本であった。

ヴィルヘルミナの娘——エトは眉間に皺を寄せながらその少女の姿を食い入るように見つめる。

「いたそう……」

「君のママはバイオレンスだよ……」

エトと同じ髪の色、少女の方が若干低い程度の背丈だが、多くとも14〜15歳程に見える明らかに少女の方が幼げな風貌。

そして、その瞳はエトよりも澄んだ色をしているように見え、他者を憐れむ優しげな

表情からその人間性が伺えるだろう。

「まま……？」

ヴィルヘルミナが呟いたその言葉に少女は反応し、玄関にいるエトと目が合う。そして、花が咲くようなエトならば絶対にしないような無邪気な笑みを浮かべ、そのままエトへと駆け寄る。

「まま——」

少女の名はグレゴール——。

赫者形態を維持できないほど継続的かつ圧倒的なダメージをパパゲーノに与え続けられた事で、Rc細胞切れによる赫者形態の強制解除によって気絶させ、薬剤調整の末に元の姿に戻った神々レギンレイヴの娘の失敗作であるグレゴール本人である。

何よりもエトをベースに造られた半喰種であった。

「はじめまして！ 私はグレゴール！ えっと……ままからできた失敗作です。かくしやになると……おかしくなります。知能も……ほかの子たちよりあんまりたかくない……です。殺しが、ふとくいです……。本がすきつ……です。それでもいっしょにいてくれたら……うれし……です」

「……………ははは、そうか……そうか。そんなことをしたのか……」

あなたは人がぶちギレる様を間近で目にした。

どうやら半喰種が本気で怒ると、物理的に体内の器官の何かしらが千切れるような音が響くらしい。

「まま……………」

「うん、大丈夫だ。大丈夫だから……………私は父親のようにはならないからね。これからずっと一緒に居よう」

そして、エトは良い笑顔を浮かべながらグレゴールを抱き締め、彼女を安心させるためか頬擦りもしていた。

「ほんとう……………? 私なんか、いいの……………」

「勿論だとも! そうだ! そんなものではなく、ちゃんとした名前をあげよう。そうだな……………思うという字に私の愛の字を足して、”思愛<sup>シニア</sup>”にしよう。今日から君は私のシニアだ」

「しあ……………シア……………私、なまえ……………。ありがとう……………ございつ……………ます……………! まま……………えへへ、まま……………」

その姿は既に母親として完成しているようにあなたには見え、自身の妻が面白半分で悪いことをしている事は気付いていたが、地雷まで踏み砕いていたのだろうという事に思い当たる。

「だが、その前に少しやることがある」

ぐりんと音が出そうな勢いでエトは頭を振り乱してヴイルヘルミナへと向け、右目の  
 赫眼を光らせる。

その頃にヴイルヘルミナは、寝たまま頰杖を突き、ニヒルな笑みを浮かべてこちらを  
 眺めており、1ミリ足りとも反省していないであろう様子があなたにも伝わって来る様  
 は、ある意味尊敬に値するレベルであるとあなたは感心した。

「んー、私を責めるのかね？ どうせ、ここまでやらんとお前は子供のひとつもこさえな  
 かっただろう？ 加えてお前はロマの奴と違つていい母親になる素質がある。それを  
 腐らせるのは惜しいと思つて合理的に——」

「本音を言え」

「君のその表情かおが見たかった」

これほどまで悪意にまみれた善意をあなたは知らなかった。

ここまでやること成すこと筋金入りの悪意だと、あなたは既に慣れ初めてはいるが、  
 悪党としては最早尊敬するレベルであろう。

「ははは、母さん……いい加減、第九圏に還る用意はいいかな？」

要するに”殺す”と言いたいとあなたは理解し、赫子を徐々に広げながらリビングへ  
 とゆつくり向かつて行くエトを尻目に、危ないのでグレゴール——シアを下カイクがらせた。

それとあなたの携帯のメールアドレスの中にある芥子カイコという名のVワイに親子喧嘩が勃

発したという内容を送る。

これでどれだけ2人が暴れてもVヴィーが何とか隠蔽してくれるだろうと、余りに健気な彼らの在り方にあなたは大いに同情した。

「彼らは、彼らが理解しないものを非難する。エト、君もそうあるのかね？　今回、私は私自身の悪意に従い、善意に則った行動しかした覚えはないぞ？」

「ははは、クインティリアヌスの言葉か。それを出されて開き直られると痛いね。じゃあ、単純に——ぶつとばしてやる」

その瞬間からヴィルヘルミナとエトの赫子による応酬——という名の親子喧嘩が始まり、あなたはシアを連れて近くのファミレスに避難するのであった。